

杉並区立小中学校

P T A 活動セミナー2023

記録集

PTA 活動セミナー 2023

もくじ

日時	対象	講師	ページ数
5月22日(月)(午前)		講師	
10:00~11:30	小学校、中学校会長・副会長	星 義克	2
5月22日(月)(午後)		講師	
13:30~15:00	小学校文化委員・中学校成人教育委員	生重 幸恵	11
5月23日(火)(午前)		講師	
10:00~11:30	テーマ研修(PTAにとらわれない自由な組織づくり~大空小学校のケース~) 映画「みんなの学校」の舞台となった小学校の PTA改革に関して	大阪市立大空小学校 元大空 SEA チーム	15
10:00~11:30	小学校、中学校会計担当役員	井上 尚子	21
5月23日(火)(午後)		講師	
13:30~15:00	小学校、中学校学級委員	四柳 千夏子	27
13:30~15:00	小学校、中学校書記担当役員	手塚 佳代子	33
5月24日(水)(午前)		講師	
10:00~11:30	小学校地域委員	武田 信彦	39
5月24日(水)(午後)		講師	
13:30~15:00	小学校、中学校広報委員	手塚 佳代子	46
13:30~15:00	中学校地域委員	武田 信彦	52

オンラインで開催実施

主催 杉並区教育委員会

協力 杉並区立小学校 PTA 連合協議会

杉並区立中学校 PTA 協議会

運営 特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク

セミナー名	小学校、中学校会長・副会長
日にち	5月22日(月) 10:00~11:30
参加人数	63人
講師	大田区立嶺町小学校元 PTO 団長 星 義克氏

 ●●● 内容 ●●●

嶺町小学校では、PTA ではなく PTO という名称で、会長ではなく団長という名称で活動している。自分は今年の三月まで二年間団長を務めた。嶺町小学校での取り組みを紹介させていただき、今後の皆様の活動の参考になるようなお話が出来ればと考えている。

大田区立嶺町小学校について

大田区でも西部に位置して多摩川のほとりにある。町工場が多くあった所で住宅地の中に町工場が点在しているような場所にある。大きな工場が撤退しその跡地にマンションなどが建設されたため児童数が増加し大田区の中でも二番目に児童の多い小学校である。(児童数 863 名、27 学級) 余談だが、今も給食で出る「あげパン」は嶺町小学校が発祥である。

嶺町小の特色ある活動

川原のすぐそばに学校がある為、特色ある活動が色々ある。学校の裏門を出るとすぐに多摩川の土手の広い場所なので、今年からは毎日「思いきり中休み」という時間を設けて子ども達が伸び伸び遊べるような時間を設けている。また、多摩川活動と言って実際に子どもたちが川の中に入って活動を行っている。この場所は汽水域の為、海の満ち引きによって川の水位が変わるが、干潮だと子どもたちのすねあたりの高さになるので、低学年であれば石ころを拾いそれに絵を描き図工の時間に活用したり、学年が上になれば、川の生き物を捕まえて学校に持ち帰り生き物調べをしたりして理科の活動に繋いでいる。このように、特色ある活動を行っている学校である。

なぜ PTA ではなく、PTO か。

2012 年までは普通の PTA だったが、2012 年に会長となった山本浩資さんが、実際に活動をしてみて、このままでは PTA という組織はまずいだろうと感じ、見直しや改革を 2013 年頃から始めた。(2013 年~2015 年) 改革期にどんな事をしたのかについては初代団長の山本さんが書いた「PTA やらなきゃダメですか?」という本に詳しく書いてあります

ので、ご興味のある方はこの本をご一読いただければと思う。

自分自身は 2013 年のちょうど改革を始めた時に、山本さんと知り合いだったため声を掛けていただき改革に向けた取り組みと一緒にさせていただいた。2013 年から 2016 年まで携わり一旦中心的なメンバーからは身を引き、一保護者として PTO 活動に参加したのがその後の 4 年間。2021 年になった時、5 人目の団長としてお声掛けいただき 2022 年までの 2 年間 PTO の団長を務めた。今は 6 代目の団長にバトンタッチしている。2 年ごとに団長は変わっているが、活動についてはより良い方向に工夫改善しながらボランティア制での運営を継続している。

2012 年までは嶺町小も普通の PTA だった。この 4 月の時期になると雑誌やメディアなどで非常に多くの PTA の特集が組まれたりして、本当に PTA が必要なのか、保護者の大変な声が色々と挙がってくるが、嶺町小もそのような時代はあった。代表的なものとして、年度初めの沈黙の保護者会や、有休を使ってベルマーク活動に動員、資金確保のための古紙回収など。ベルマーク活動や古紙回収は日付が決まっていてどうしてもこの日でなければならないという縛りがあることなども、負担大の要因であったと思う。また、子連れの会議参加はご法度のところも多く、PTA は子ども達のための活動であるにも関わらず、親は休日や夕方の遅い時間に会議に駆り出され子どもが家で寂しい思いをするという本末転倒な事もあったりした。さらに、本部役員のなり手不足による推薦（選考）委員の精神的負担なども多かったと聞いている。このようなブラックな活動があったので、初代団長の山本さんはこのままでは PTA という組織は立ち行かなくなるだろうと考え PTA を変えていったことが PTO になったきっかけである。

2013 年から改革を始めて議論していく中で、なぜ PTA が忌み嫌われるのか？どこに原因があるのか？というのを考えたところ、多くの学校にある PTA の規約の「第〇条 会員は全て平等の権利と義務を有する。」この一文ではないか。これが含まれている学校が多いのではないかと思う。遡って調べたところ、戦後 GHQ が統治していた頃に当時の文部省による呼び掛けで PTA が各学校に急速に広まっていった。その当時のこのような規約を作りなさいという条文にどうやらこの一文があったようだ。平等の権利は基本的人権から始まり多くの人に平等の権利があることは理解できるが、平等の義務とは？考えてみると平等の義務はそれほど多くない。日本国憲法で言えば、教育、勤労、納税の三大義務などがあるが、例えば納税では全ての人々が等しく同じ額を納税しなくてはならないのかということそうではない。多くの義務というのはその人の能力や立場、状況によって負担すべき義務は変わるのが世の中では普通であるのに、PTA にはなぜか平等の義務を有するという文言が入っている。多くの場合実践されているのが、子どもを学校に通わせている以上は誰もが一回は役員をやらなければならないという事であり、家庭の状況、共働きである家庭や、介護をしなけ

ればならない家族がいるなど背景はそれぞれ違うのに、なぜか平等の義務を課せられるところ、多くの人になるべくなら PTA 活動を避けたいと思う理由なのではないかという考えになった。この状況を当時の山本さんが「平等の義務」によって生まれる 3 本の「や」と名付けた。

「や」らないといけない = 義務感

「や」らされている = 強制感

「や」らないひとがいる = 不公平感

この 3 本の「や」が無くなれば PTA はハッピーになるのではないかと考え、今日のテーマでもあるように、3 本の「や」がなくなれば PTA はハッピーになる。ということをお話させていただいている。

PTA の活動というのは、やっていることは基本的に子ども達のためになるものであり、子ども達に喜んでもらうための活動なので、実際にはこういう活動はある方がいいと思っている方が殆どなのだが、出来れば自分は関わりたくないという原因はやはりこの 3 本の「や」が原因であるように思う。嶺町小ではこの 3 本の「や」をなくしてから 10 年ほど経つが、PTO の活動が困るとか嫌だという声は本当に全く聞こえてこない。入会に関しても PTA は任意団体なので入会は任意ですと説明しなければいけないのが、PTO でも同じく、入会は任意だけれどもなるべく多くの人に参加していただきたいという事をお話して入会届をお渡ししている。毎年何人かは PTO ってなっているけど、ネガティブな放送などを見て敬遠する方もいるが、実際にその方々に強制的なものは一切ないということ、年に何回か絶対やらなければいけないものは全くなく、自分がやりたい物や興味のある活動に参加していただくだけでいいということ、例えば一年間何も活動に参加出来なかったとしても大丈夫です。という事を丁寧に説明すると、それならば入会しますと言ってくださり、拒否する人は 10 年間出ていない。

そもそもボランティアとは？

日本人のボランティアのイメージは奉仕活動、慈善活動、無償奉仕、ここから派生して自己犠牲や滅私奉公、人が嫌がる事をやるという自分が無理してやるというのが日本人の美德のような崇高な活動のようなイメージをもっている節があるが、本来、ボランティアとはラテン語の「voluntus」が語源で自由意志、有志者、志願するなどという意味であり、欧米などではやりたいからやる、喜んでやるという事である。困っている人がいたら見てられないとか、自分から自発的にやるのが本来のボランティアの意味。PTA の活動も本来はボランティアなのでやりたくない人が無理矢理やるというのではなく、やりたいと思う人がやるという事を基本にしましょうという事を行っていった。

本来 PTA の活動と言うのは多くの人が必要だと思っているし、誰かのためにやるという活動の意義自体を否定する人は殆どいないと思うので、そういう活動にぜひ参加したいという人達を積極的に募って活動を続けていくと PTA 活動がネガティブからポジティブなイメージに変わっていくのだなというのが嶺町小の活動を通して感じているところである。

では嶺町小をどのように変えたのかと言えば、お試し期間の一年間は委員会活動をやめてボランティア部として部活動のような形にしてみた。年間を通しての活動にすると、人が集まりづらかったので、今は、活動内容を「見える化」して、このような活動がありますという事をお知らせしてスポットでボランティアを募るようにして現在運営をしている。なぜ PTO かというと、PTA はネガティブなイメージなので名前を変えてはいけないのかという事を質問されたお父様がいた。名前を変える事でマイナスイメージを払拭できるなんてお金もかからないしお手軽だねという事で、どんな名前がいいかと検討した時に PTO という名前が選ばれた。

PTA (Parent-Teacher-Association) → PTO (Parent-Teacher-Organization)

当時、アメリカで子育てしたという父兄が、アメリカでは PTO という名称で活動していたという話をしてくれて、調べてみたところアメリカでは PTA と名乗れるのは全米で組織されている協会に所属しているところだけで、その他の多くの学校は PTO を名乗っていたので、それを取り入れ嶺町小でも PTO とした。また、嶺町小では PTA の事を楽しむ学校応援団と称しているので応援団の「おー！」という意味合いからもであった。そのため嶺町小では会長・副会長ではなく、団長・副団長という名で呼び、敷居を高くしないようにしている。別に偉い人でも何でもなく皆をまとめるリーダーというイメージ。役員会という名称もボランティアセンターに変更した。PTO の役割というのは学校や子ども達でお手伝いを必要としている人達と、お手伝いをしたい保護者の橋渡しをすることだと思っているのでボランティアセンターという名称にした。行事係もサポーターという名称に変更し、お手伝いする人が気軽に参加出来るようなイメージをもってもらえるようにした。活動全体の合言葉としては、「できるひとが できるときに できることを」というイメージで活動している。実際の運営のやり方などは興味があれば、詳しくは最初に紹介した書籍に詳しく説明してあるのでみていただければと思いますが、団長、団長補佐、会計監査、庶務（副団長）、安全防災副団長、校外副団長、広報副団長がいて、それぞれにボランティアがぶら下がっているような形で運営している。

年間の活動としては、変革期に本当に必要なのかということを見直しして、本当に子ども達に必要な物だけを残して活動している。(学校支援、安全支援、郊外活動、広報、夢プロジェクト、サークル活動) であるが、絶対にやらなければならないのは最初の3つくらい。ただ毎年同じことだけをしていてもつまらないので、夢プロジェクトとして、保護者が子ど

も達のためにやりたい活動を実現する仕組みがある。例としては、逃走中という鬼ごっこはやっている学校も多いと思うが、学校の先生方にも協力してもらい本格的なポスター作りから行なったり、コロナ期間のなかなか行事が出来ない中、出てきたアイデアでは Halloween ウォークとして仮装して多摩川の土手のところを練り歩いたりだとか、学区内の町会の掲示板をお借りしてクイズを貼って町探検クイズラリーを行なったりもした。

一般のサポーターの方やボランティアセンターのメンバーをどうやって募集しているか？

多くの方は本当に人が集まるのか不安になると思うが、イベントや行事のサポーターの募集の仕方としては、お手紙を配布して QR コードからアクセスしていただきサポーターに登録してもらう形で募集している。しかし今年度からはペーパーレス化し経費を削減しようという事で完全にメールでのお知らせに移行できるように動いているところである。紙媒体でなくなる事で事務効率も UP するし、保護者の方のメールアドレスも取得できるのでお知らせ事項がある時に簡単に連絡が出来るようになっている。

こういったイベントにどうやったら人が集まってくれるか？

これには、お手伝いの期間や内容が明確化していること、また、参加のメリットがあるということがポイントになるかと思う。これまでの委員会というと1年任期で、いつ、どれくらいの仕事があるのか見えず踏み込みづらいものがあると思う。そこでサポーターを募集する際に、何をいつやるのかというのを明確にした。そこが分かれば、保護者の方々もそれなら参加できるという方が出てくる。夏休みの生き物係には親子で参加してもらうことにすると、子どもにとっては参加すること自体が楽しみになる。また、運動会のサポート係にはサポーターさんの詰所としてかけっこのゴールに近い場所にテントを用意して自分のお子さんの競技の時にはそこからゆっくり観覧出来るなどメリットもあると参加しやすいのではないかと思う。ボランティアセンターになると1年間各チームに所属して活動することになるので手をあげるにはちょっとハードルが上がるが、募集のお知らせに、出来るか出来ないかを聞くのではなく、ちょっと興味があることに○をしやすいような選択肢を作る。選択肢として○をしやすいものを用意しておくことでここなら○を付けてもいいかなと思って付けて下さる方が増えると思う。(例：知り合いと一緒にやってみよう。興味があるが平日仕事ありや、未就学児がいて不安もあるので話を聞いてみたい。PCが得意なのでPC作業なら引き受けたい。など)そして○をして下さった方に、ボラセンではこういった事をやっていますということをお話してどういう活動なら参加できますかなどと声掛けして参加してもらっている。ボランティアセンターでやっていることを細かく「見える化」をすること。活動の細かいことが分かればこれならやってもいいかなと思ってもらえる

方が増える。また、ボランティアセンターにも色々なチームがあるので、個人個人の「得意な事」が発揮できるように、手を差し出してくれた方と話をしながら、得意な事で参加出来るように役割を担ってもらっている。

こういう活動をしているので色々な学校から質問をいただくが、その中で多い質問が、ボランティアで人は集まるのか？というものだが、先程から話しているように、やるべきことや期間が明確であるとそれなら出来るという保護者は結構いる。必要であって楽しい活動であればボランティアは集まるだろう。逆に集まらないということであれば、その活動に本当に意義があるのか、必要とされていないのではないかなど、活動の見直しが必要だと思うので嶺町小ではそのように進めている。また、「やらない人がいるのはズルイ！」という声は上がらないのかという事には、嶺町小ではやりたい人が集まって活動してもらっているので、そのような声は生まれることは殆どない。PTA の上部組織から脱退したか？という質問は、大田区の小 P 連に加盟中である。情報交換が出来るメリットがあるし、大田区の小 P 連自体が単 P の負担になる活動はやめましょうという考え方なので、小 P 連に加盟することでの負担は少ない。ただご質問があった時にお答えしているのはメリットとデメリットの天秤の問題だと思うので、負担やデメリットが大きいようであれば脱退するというのも考え方の一つであると思う。実際去年の夏に東京都の小 P 連が全国の PTA 連合会から脱退したことがニュースになった。一番大事にしなければならないのは自分の学校の子ども達と自分の学校の PTA の運営なので活動の考え方や負担、またはそこにメリットがあるのかないのかよく考えて脱退なども考えるのがいいのかと思う。

ハッピーな PTA に変わるために必要なこと

- ・ビジョンを共有できる仲間を増やそう！
- ・学校・地域のキーパーソンの理解
- ・本当に必要な活動への絞り込み
- ・活動に参加する保護者自身が楽しむこと！

嶺町小では毎年 4 月の役員決めの沈黙の保護者会の代わりに活動ムービーを上映して今年も PTO の活動に参加できる人、是非参加してくださいとお願いしている。

質疑応答

参加者：非会員でも何ら困らないという状況があり、それなら非会員でいいというネガティブな方向に行きがち。嶺町小ではボランティア制にしてうまく回っているというポジティブなイメージだが、ボランティア制に移行する時にうまく移行できたのか。

講師：変えていく時にはやはり未知の世界なので、本当にうまくいくのか？今の役員だけが

やる気があって他の人になったら続かないのでは？などという意見は当時あった。ただ多くの保護者になるべく PTA を避けたい理由である義務感や強制感をなくすとそれなら加入してもいいですよ、いう方が多いなというのが実際に何年かやってきて感じているところである。それなのでたとえ会員になっても負担になるようなことはなく、やりたいことにやりたい時に参加でいいですよということを説明すれば基本的には皆さん加入して下さると感じているので、そこをうまく説明することが大事かと思う。ボランティアセンターに何年縛りとかはない。長い人では 5 年務めて下さる方もいるが、全体で 40 名位のうち大体半数ぐらいが 1 年で入れ替わるという現状である。普通の学校の委員会では 1 年体制が多く新しい委員さんがよく分からなくて前年踏襲にならざるを得ないが、ボラセンのように継続して参加して下さっている人がいると、これまでの流れを把握しつつ、新しい人の意見も取り入れる事で工夫されてより良くなっているという実感がある。これは改革時には意図しなかった良い面でそのサイクルが今のところうまく回っていると感じている。

参加者：複数年やらないとなかなか変えられない。実際に改革した時には役員を複数年経験した人がやっていたのか。

講師：山本さんは 2 年目で改革をスタートさせた。その年に骨格を作り、次の方へバトンタッチしようとしたが軌道に乗るまで続けて欲しいという声が多く、山本さんは実質 3 年間会長から団長をされた。3 年目の時にお試しで 1 年間規約を変えずにお試しでやってみて、ある程度ボランティア制で保護者の賛同が得られそうだという感触がえられたところで規約を改正し上限の 3 年で次の方へ引き継いだ。なかなか 1 年間では難しい所がある。山本さんの後の 2 代目以降は代々 2 年ずつで引き継いでいる。

参加者：ボランティアベースにした時にこれは残さないといけない MAST な仕事はあるか。

講師：学校のサポート。学校の登下校の見守り。地域との繋がりが大きいので地域との協力をするための活動。この 3 つは MAST であると思う。それ以外の学年委員会などは廃止した。

参加者：改革を進めていくのと同時に今までの業務も並行してやっていかなければならなかったと思うが、役員とは別に改革のためのメンバーがいたのか？

講師：特別なプロジェクトチームを組むことはなく、当時の役員会のメンバー 10 名弱で基本の会長、副会長、会計、書記などのメンバーで骨格作りのような改革を始めた。通常の業務で必要な取り組みだけを残して、その取り組みが回るように必要なサポーターやお手伝いを募集する形で進めた。必要な業務を残しつつ改革したというよりはこうやった方がいいのではないかという通常の業務で残すべきものを残してやり方を少しずつ変えていった

という感じである。

参加者：実際には会って議論していたか？それともメールなどか？

講師：改革時は今ほど SNS も発達していなかったため、会議などはメールベースで行ない、山のようなメールが飛び交っていた記憶がある。

参加者：長く携わる人がいることで改革が進むというところと、逆に長く携わる方の意見が反映されやすいというところがあると思う。PTO の会員から会費をいただく限り、会員の方々の意見を吸い上げる必要があると思うが、その方法は？

講師：定期的にとすることは無いが、必要に応じてアンケートを取っている。総会などはオンライン開催であったためそこに自由記載欄を設けてご意見をあげていただき、そのご意見については報告書で回答する形でやっていた。実際の PTO を立ち上げる際には保護者の生の声を拾ってできたものなので、積極的にアンケートを取るなどして保護者の生の声を反映させる事は大事なのかなと思う。

参加者：ポイント制などでやらなければいけないと思ったから早めにやったのに、ボランティア制にすることでやらなくていい人が出てくるのはどうなのか？という意見なども出てくると思うが移行の時はどう配慮するか、手立てなどはどうか？

講師：確かに移行の時、私はやったのにというのは実際にはあるが、結局ネガティブな意見で言っている本人もいい意見だとは思っていないと思うので仕組みを変えていく時にはどうしてもそういう意見も出ると思うがその気持ちに寄り添いつつ、でもそれはずっと残していってはいけないものだよねという事を訴えかけて多くの保護者の賛同を得ていくというところかと思う。それから絶対やらない人がいる。という話で、保護者には、何も言わなくても協力してくれる人が上位 1 割くらい、どんなに一緒にやりましょうと言っても絶対やらない人が下位 1 割くらい居て、どんなに誘ってもやらない人にかかる時間は意味がない。殆どの方がボリュームゾーンの 7, 8 割くらいの方である。この方達は、自分から積極的に手は挙げないが、人が足りないであるとか、困っているようであれば、自分のやれる範囲であれば協力しますと言ってくださる方達なので、ボリュームゾーンの方達にどうやってアプローチするかだと思う。参加してくれる人が増えるほど個人の負担は減っていくので、そういう方達にアプローチして一緒にやると楽しいとかメリットがあるという事を伝えていくと、温かく参加してくださる方が多いと感じている。

■アンケートでの質問回答

Q・PTAだと、副校長先生に副会長をお願いして、先生方にも役員になっていただくような内容の規約の場合もありますが、PTO 規約はどのようになっているのか、興味があります。先生方のかかわり方について教えてください。

A・PTO 規約は、下記の URL からご覧いただくことができます。

<https://minesho-pto.com/aboutpto/bylaws>

規約上は、副校長先生が副団長の1人となっていますが、「諸事情に応じて増減」が可能という規程に基づき、近年は副校長先生に副団長はお願いしておりません。また、PTO の運営に関して、必要に応じて校長・副校長・行事担当の先生との相談や打合せを行うことはありますが、実質的な運営は保護者のメンバーのみで行っています。

Q・ボランティアセンターの会議に学校の先生は参加されていますか？

A・年に1~2回ほど、ボランティアセンター全体でのミーティングを行っていますが、会議というよりも顔合わせ的な意味合いの強いミーティングです。実質的な運営に関する相談・打ち合わせの会議は、ボラセン内の各チームごとに、必要に応じて定期・不定期で開催しています。チームの都合により、対面またはオンラインで実施しています。これらに学校の先生が参加されることはありません。年に2回開催される総会のときのみ、校長・副校長先生にご参加いただいています。

Q・PTA の時と PTO の現在では先生方のかかわり方は変わりましたでしょうか？

A・PTA 時代のことをあまりよく知らないのですが、かかわり方に変化があったかどうかは、お答えすることが難しいです。現在は、PTO のイベントについては先生方にも周知し、興味のある先生にはイベントにご参加いただくこともあります。

Q・嶺町小を卒業したら、中学校、高校と従来型のクラス委員決めの存在する学校へ進学する場合もあると思うのですが、その際はやっぱり違和感がありますか？沈黙に耐え切れず、率先して委員を引き受けてらっしゃるのでしょうか？

A・たくさんの保護者がおりますので、進学後の学校の PTA への関わり方は人それぞれかと思えます。進学後は、あまり PTA に関わらない方もいる一方で、逆に PTA に積極的に関わって、義務感・強制感のない運営の改善に取り組んでいる方もいると聞いています。

Q・選考委員というのは存在しているのでしょうか

A PTA の頃は推薦委員（学年委員が兼任）が次年度の役員候補選出を行っていましたが、PTO では推薦委員・選考委員はありません。翌年度も継続してボラセンメンバーを続けるスタッフを中心に、いろいろな保護者の方に声掛けや説明会を行って、次年度のボラセン新メンバーを募るようにしています。

セミナー名	小学校文化委員・中学校成人教育委員
日にち	5月22日(月) 13:30~15:00
参加人数	8人
講師	特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク 理事長 生重 幸恵氏

●●● 内容 ●●●

成人教育委員会、文化委員会はコロナ禍の中ではあるが、子どもたちのためになる楽しいことを実施していくことが大切になると考えている。本当に必要なのかということが問われている委員だとも思う。

まず初めに、成人教育委員会、文化委員会は何をするとところなのか、そこからお話をしていきたい。自身が会長時代は、今までやってきたことを必要かどうか見直して、必要がないのであれば「辞めてもいい」と伝えてきた。「勉強になる」「楽しい」などのつないでいきたいイベントを残してほしいという話をしてきた。

杉並区 PTA ハンドブックには、

成人教育委員会／文化委員会

子どもを育てる保護者は、子育ての問題や教育上の課題などに悩むこともあります。

保護者同士の学びの場として、講演会、研修会、見学会、親子教室などを企画・運営していくのが主な役割です。

活動の目的

保護者の教養、見識、教育への理解を深めることを目的としています。

活動の内容

会員が自ら主体的に学び、活動できることが理想です。PTA活動の目的に沿った内容を、学校とも相談しながら計画しましょう。

保護者は子育ての問題や教育上の課題など悩むことも多い、保護者同士の学びの場として講演会・研修会・見学会・親子教室などを企画運営していくのが主な役割となっている。主体的に動き、学ぶ機会をつくるのが委員会活動となる。牧歌的でのどかな活動をしている時期もあったが、リアルで学校に集まるのは難しくなっている。これからは

「保護者同士の学びの場」が大事になってくると考えている。PTA 活動の目的にあった形でのイベントをしていくことが大事になる。

新しい日常で何ができるか、本当に必要なものを残していくことが必要で、この活動を残すべきなのかを考えていく必要がある。

そのような現状があるので、いま子供たちが置かれている現状を考える機会を設けるのは有益だと考えている。Zoom などのオンライン会議システムは非常に便利で、過去には遠隔地の先生に交通費・宿泊費・謝礼を払うのは難しかった。今は、講師の時間さえ空いていれば画面越しで話を聞いてみたいという願いが叶う時代になっている。それを実現すれば、年 1 回でも活発な活動になるのではないか。

教育が激変している状況なので、テーマとして、例えばではあるが、「非認知能力」「STEAM 教育」「個別最適化の学び」などがあげられる。現代の教育の 3 大要素である。親である私たちがそれをわかった状態で子供に接するのが大事となる。今小学校・中学校の学びの根幹は「社会に開かれた教育課程」である。資質・能力の要素を「何を知っているか、何ができるか」「知っていること、できることをどう使うか」「どのように社会・世界とかがわりより良い人生を送るか」の 3 つの柱のもとに、子供たちは学びを続けている。個別の知識・技能を最低限身に着け、思考して・判断して・表現することが重要視されている。それを活用して学びに向かう力・人間性を身に着けるように動いている。「変化の中に生きる社会的存在として、力をつける」ということが重要である。IT 化が進む中で、人工知能が活用され、人手がいらなくなっていく。このまま行くと国として成り立たなくなってしまう危機感がある。それを報じる、メディアや SNS のリテラシーも重要になる。子どもたちの心をどう育て、人を傷つけない、傷ついた時にどうするかを学ぶのは重要になる。そのような時代背景をしっかり意識して、保護者も学んでいく必要がある。

学校で学ぶ教科を認知能力と呼ぶ。評価基準をしっかり持っているものである。その反対語が「非認知能力」である。体験を通じて、体を使って、自分の感性で成功したり・失敗したり、友達と共有して、個であったり集団であったり様々な体験をしていくこと。この体験こそが「どうしてなんだろう」、「なぜなんだろう」、「わかれば面白い」という好奇心の土台になる。非認知能力を感じることで認知能力を活かしていくことが出来る。

「STEAM 教育」は現在、学校教育に根付かせようとしている。サイエンス、テクノロジー、エンジニアリング、アート、マスマティックスの頭文字を取った総称。理数系に裏打ちされて考える能力を子どもたちに身に着けてもらわないといけないといわれている。これの背景になるのは言語能力である。資料として表現でき、相手を説得するような能力も大事になる。言語能力は親子の会話、読書が大事である。言語能力を学ぶ

ために、子供に読み聞かせることも大事になる。繰り返し子どもたちに体験させ続けることは非認知能力にも通じる。

以上のようなことをどのように知識を得て、専門家からの講話を聴くか、大人たちがワクワクするような事、場を作る、環境をどう作っていくかという事を考えていってほしい。

子供たちは豊かな体験、色んな大人たちとの会話をするとボキャブラリーが増えていく。それは意欲につながる可能性もある。褒められた経験は得難いものである。大人が学んでいくことで、子どもを褒める材料が増えていく。自分の学校の特色って学んでみる事も良いと思う。

最も重要なキーワードは「個別最適化の学び」である。様々な個性を持つ子どもたちに一人一人にあった教育が大事であり、本来持っている力から他の特性を伸ばしていく。それを目指していこうという事である。

今まで話したような、直近の教育のキーワードを学ぶと、色々なやり方があることを知ることが出来る。どう考えるかを保護者同士で語り合ってみる。そうした、結果として先生たちを助ける結果につながる可能性も秘めている。そのような学びの場を年1回でも作ってみるのは如何か。別に例示したものにとらわれる必要はない。

既存の活動を見直す勇気は重要。過去からの蓄積を変えるのは怖いと思うが、無理して頑張る必要はない。今、何が知りたいかが最も重要でその時々々に則して行動をしていって欲しい。PTAの皆さんで会話することが非常に重要で、皆さんを縛り付けるものは何もない。

今回は人数も少ないのでブレイクアウトルームではなく、全員でお話をしたい。

Q 具体的に何をやっている？

- 給食試食会、制服のリサイクル販売、高校説明会を実施している
- 給食試食会、スクールカウンセラーの先生と話をする茶話会、保護者向けの講演会、体育祭のPTA競技（今年から廃止）
- アンネのバラ活動（アンネフランクへ手紙を書いて、スイスからバラの苗を送ってもらう）、合唱コンクールのお手伝い
- 給食試食会、Zoom開催での外部講師の保護者向けの講演会、学用品のリユース品の回収と頒布（年2・3回）
- お祭りの実施手伝い

Q 他校の活動を聞いてみての感想

- 給食試食会、制服リサイクルは自校では他の委員の活動であったので新鮮であった。どの学校も無駄がない活動になっており、子どもにとっても保護者にとっても充実した活動につながっているのではないかと思う
- 自校の活動を続けていきたいという気持ちを新たにした。高校説明会も卒業生を呼んでみるというアイデアは採用を検討していきたい。ヒントになる良い機会となった
- 他校の高校の説明会の事例を参考にしてやってみたいと思った。不要な活動を見直して新しいことにチャレンジしていきたい
- 学用品リサイクルの事例は参考にしていけると良いと感じた
- 学校によってやっていることが違うということも始めて知ることが出来て非常に有益でした

生重講師からのまとめ

皆様の活動が整理されていて、楽しんでいるということを感じた。引き継いだことの中で絞り込んで活動していることがとても良いことだと思う。学校と子どもに必要な活動になっていてとてもうれしく思う。他校同士の事例も有益に共有することが出来て良かったと思う。これからも無理せずに続けていってください。

以 上

セミナー名	テーマ研修 ～PTAにとらわれない組織づくり～
日にち	5月23日(火) 10:00～11:30
参加人数	43人
講師	大阪市立大空小学校 元大空 SEA チーム 木村 泰子氏、吉田 典子氏、岩切美恵子氏、宮城 ゆうき氏、津梅明子氏、中辻 孝典氏

●●● 内容 ●●●

子どもたちの幸せを願って PTA 活動をしていきたい。そのようなことを考える機会としていただきたい。

■木村泰子氏からの話

まずは講師の皆に自己紹介をしてもらおう。

～大空小学校の始まり、SEA の始まり～

PTA も使命、ノルマがあると楽しいという言葉は生まれないと思う。皆であったかい組織に変えていこうといったのが SEA チームの始めるきっかけであった。形が違う人たちをつなぎ合わせていったら、多様性が生まれていく。多様性があると、いろんな子どもが自分の学びの居場所を見つけていった、それが「みんなの学校」であった。

最初からうまくいったわけではない。大阪市で児童数が多い学校があった。大きな学校のクラス数が足りなかったから学校を新設（大空小学校）しようとしたが 20 年間地域住民の反対運動が起きた。地域が分断してしまっていて、子どもたちがそれを見て育ってしまった。ぎくしゃくした空気が地域中に流れていく。大きな学校が分校として 5・6 年生が学ぶ分校で校長として赴任しその 3 年後大きな学校の校長となった。大人の空気を子どもがまねをする状況になる課題意識を抱えていた。地域の学校をつくろうという意識統一を図り大空小学校が開校した。

子どもたちは大人の反対を見ているので新設校で不安になっていることが多かった。そのため「みんなの学校」をつくろうという意識を持った。当時の教頭が準備期間中に PTA をやる人がいません、作れませんという意見具申をしてきた。その時に幸運だと感じた。その幸運は未来に向けて変えるチャンスがあるんだという気持ちである。大きなピンチでもあるが大きなチャンスでもあると感じていた。

学校の主語はこどもである。そのための PTA であるので、PTA がいないことに問題意識を持つのは違うと感じ、1 年目は PTA なしでスタートした。ただ、地域の力を活用し

ないと子どもたちの安全は守れない。先生たちがどれだけ頑張っても誰一人取り残さない学校を作るのは不可能であったので、はぐくみという授業で地域とのかかわりが大事になるので、岩切氏にコーディネーターになってもらい、2人からのスタートであった。一人の保護者が校長の元に来た。子どもが喜ぶことをやってあげたいが良いかを校長に許可に取りに来た。「なぜ校長の許可が必要？」と問いかけると、答えてもらえなかった。PTAと学校はこうあるべきという当たり前を引きずってしまっていた。校長の許可をとるのは、PTAが学校の下部組織であるという意識があったからではないかと考えた。保護者と学校が対等にならないといけないという意識を強く持った。何かを子どものために何かをやりたいならお伺いはしない。失敗した時に学校に相談をしてきてもらってよい。PTAと学校の関係性は対等で助け合う関係であるべきである。

プロジェクトベースで有志の保護者が集まって、終わったら解散する。そのような自由な形で子どもが喜ぶイベントを進めていった。その経験からやりたい人がやっているうちは良いが、人が変わる状況になってしまう。新しい人にどう引き継がれていくのかという課題ができた際に、組織を作った。その組織が「SEA」（海のように限りなく深い大人の愛を）である。保護者、地域の大人たちが主体でSEAを作り上げた。

PTA不要論がメディアでも流れているが、その前になぜ学校にPTAがあるのかという問いを学校のすべてのサポーターが考えていく必要がある。そこにしがらみ、前例踏襲があれば自分たちが捨てたらよいと思っている。PTAがある目的は個人的には2つだと思っている。1つ目は学校に自分の保護者以外の大人がいるその大人すべてが子どもの味方であるということ。2つ目はノルマで大人が行動すると文句が出る、自分の主体性で行動すれば文句が出ない。文句ではない意見を学校にくれる。いつもそっと子どもの横に大人がいてくれることだと思う。その2点からPTAの役割は非常に重要である。PTAを作っている大人たちが子どもたちを楽しんでいる姿を見せる。学校にお伺いを立てなくても自分が楽しいという状況を作る。そんな学校をつくる主体の一つがPTAであると考えている。

SEAのSはサポーターのS、EはエデュケーションのE、AはアソシエーションのAである。様々な子どもたちの学びを促進するために存在している。

うまくいかないのが当たり前で、最初からうまく行く組織は瓦解する。杉並区の皆様もポジティブに楽しんで欲しい。

■岩切恵美子氏の話

PTAの実行委員を2年間実施している。転校してきたのでまわりにつながりがなかったので、PTAに名乗りを上げた。大きな学校では既存のPTAの活動をしていた。と

でも楽しい2年間であった。文化委員をやっていたので、大人の社会科見学など様々な経験をすることが出来た。木村氏から要請があり、大空小学校と地域を結んで欲しいという要請を受けたので、応諾した。大空はいつ学校に来てもOKという校風だったので、何にもなくても学校に行くことが出来、子どもたちの様子を見る事が出来る。地域とのパイプ役をやっていたが、地域の人と保護者という縦割りがあつたのではなく同じ人たちだと考え意識し活動を続けてきた。

■吉田典子氏の話

3人の息子がいたため、SEAチームのキャプテンを夫がやっていた。大空に来てびっくりしたのが、いつでも学校に来て良いという校風であった。それでも行くきっかけが欲しかったのでSEAチームに加入した。何もわからない状態であったが、自分がやりたいと思うことを相談し実施することができ、プロジェクトを立ち上げ実施する、すごく大変な活動であったが、子どもたちの笑顔を見る事が出来る、すごく楽しい活動であった。

■津梅明子氏の話

幼稚園にPTAがなかったので何も知らない状態で入学した。入学した際にSEAチームの広報、リーダーに立候補してくださいというチラシが配られた。クラスでリーダー1人しか決まらなかったため、前に出る性格ではないのでリーダーになるのは避けたかったので広報に立候補した。PTAの広報誌は子どもと保護者の対話ができるように、子どもの活動の写りが主で、その説明の文章くらいである。いろいろな行事の写真を撮りに行っていた。

■宮城ゆうき氏の話

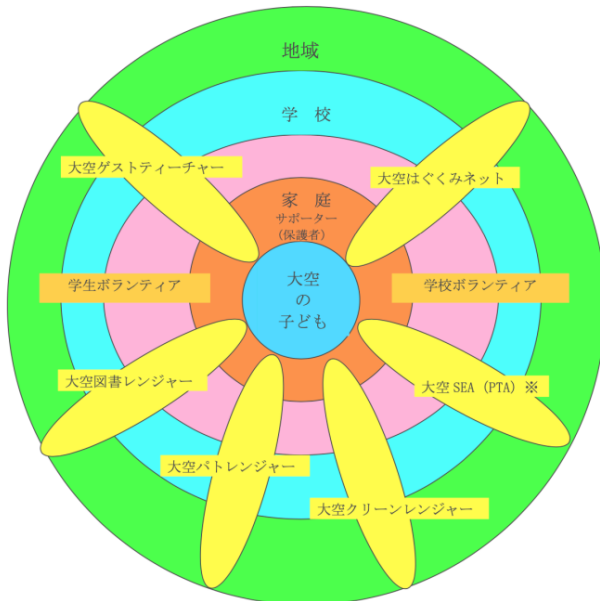
SEAに参加せず、自分のいけるときに学校に行つて、子どもたちと手芸を楽しむ活動をしてた。私は他の人と違って、抽選で当たつて、SEAに加入した。加入した時期はSEAが既存PTAと同じような組織になりそうになっていた。それを崩したいと思つた年度は副キャプテンに立候補した。ベルマーク活動もやっていたが、ちゃんと毎年見直しを相談して「やりたい」と言う人がいる仕事は存続させて活動をしてた。プロジェクトベースの取り組みを積極的に取り入れていった。常にSEAも変化している中で、今も手伝いをしてる。SEAの会議に地域の人参加するようにしていきたいと思つた変革をし始めている。大空と一緒に作っていく大人の会議化を図っている。

■中辻孝典氏の話

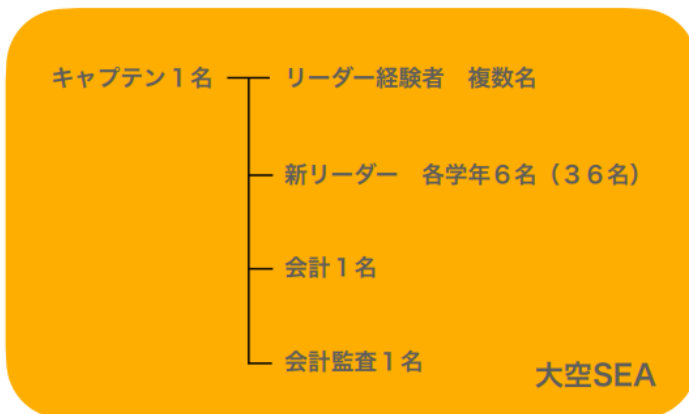
大空小学校とは地縁もない状況であったが、木村氏が校長の時代に関わり始め魅力に取りつかれ学校協議会委員も務めるまでになっている。

～大空小学校の仕組みの包括説明～

大空小学校の仕組みは



図のように様々な組織が関わる組織となっている。



常置委員会を設置せず、活動はリーダー会議を中心に企画・実行

リーダー会議：1～2ヶ月に1回程度

活動は、プロジェクトチームを組み、サポーター（保護者等）に広く参加を募るプロジェクト方式に寄って企画・実行

既存の PTA とは違い図のような組織で運営をされている。

SEA の活動は「だれもができるみんなができる SEA 活動」を意識して実施している。できるときにできる人が無理せず活動を実施している。とは言え通常の PTA と同じように見守り活動やベルマーク、広報誌作成などの活動もしている。活動はそんなに変わりはないが組織がプロジェクトベースで動いていて、それが既存の PTA とは違うところだと思う。

強制されてやらなければならないことは一切やっていない。負担感があまりないような形で、楽しくできることをやっているのが現状である。一番の負担であるやらされ感をなくし自由にやっている。子どもたちが主語になり大人の楽しさをつなぐというのが非常にポイントであると思う。

■ 質疑応答

Q・会計はどうしている

A・会費は通常通り収受している、会計も通常の PTA と変わらないのではないか。会費は年間 3,500 円で運営されている

Q・サポーターにならない人はいるのか

A・参加している大人すべてサポーターなので、非会員の保護者の方はいない

Q・PTA は負担があるからできないが、サポーターならできるが PTA にならないと連絡手段などがうまく作れないのが悩みである。SEA ではどのように地域の人と連絡する手法を使っているのか

A・グループ LINE をうまく活用している。

■ アンケートからの質問回答

Q・非会員問題についてです。現在 PTA に加入されない保護者は「PTA はできないから入らない」と言う方が多く、ご本人自身も自校の PTA が何をしているのか知らないまま非会員を選択されるケースが見受けられます。本校はお手伝い制度を取っているのですが、ほとんどの仕事はできる人・やりたい人が手を挙げてやる制度ですが、新入生保護者にうまく伝わりません。SEA は加入率 100%ということだと思いますが、どのように新入生に周知されているのか伺いたいです。

A・大空の場合は、PTA ではなく SEA (Supporter & Educator Association) という取り組みである。概念として、Supporter (支える人) には、保護者、家族、地域の人 (卒業生を含む)、パトレンジャー、図書レンジャーが対象となり、Educator (教える人) には、教職員、学生ボランティア (卒業生を含む)、学校ボランティア、ゲストティチャーが対象となって、活動をおこなっている。創立以来、できる人がやっていくという方針で運営され、それぞれ行事は、プロジェクトベースで実施してきたので、スタッフには、負担感が少ない。そして、子ども達のために楽しく運営している。学校そのものが、「みんなの学校」をコンセプトとしているため、一人一人の大人が、学校を作ることに協力してできている学校であることを入学時に説明している。(PTA の組織体にある様な役職は無く、キャプテンとリーダー (各学年の新任)、リーダー経験者の 3 種類で、フラットな関係で構成されている。) 主語が大人ではなく子どもを主語として、子どもが楽しく学校生活を送れる様に全てが、当番制がなく、パスができる環境がある。活動内容やその時の条件を公開 (告知) し、それぞれが選択できる様に自由度が高い。なので、6 年間の中に何かに参加している。参加するそれぞれの人が、楽しかったり、生き甲斐になったり、自分のためになる様な関わり方をされている人たちが多い。

・意識しているところ

配布文書は、できるだけ平文で漢字も少なくし、ソフトな感じで、子どもにも伝わる様な文章でまとめている。併せて、外国にルーツのある方々にも分かり易くなる様に努めている。

セミナー名	小学校・中学校会計担当役員
日にち	5月23日(火) 10:00~11:30
参加人数	45人
講師	一般社団法人エス・プレイス 代表理事 井上 尚子氏

 ●●● 内容 ●●●

井上氏はかつて小学校にてPTA会長を経験し、その後、本セミナーを運営するスクール・アドバイス・ネットワーク在籍時にはPTA活動の相談を承ってきたという経歴を持つ。PTAという特性上、会計を雁字搦めに考えてしまうと皆さんに大きな負担になってしまうので、少しゆるやかな所も含めつつ、1年間会計処理を頑張っていたきたいと思う。PTAという社会教育に位置付けられている団体として、社会の一員として皆さんが子どもたちに関わっていただき、子どもたちを成長させていくというスタンスで臨んでいただければと思う。本日は主に4点の内容について話していき、最後に個人情報のことについても触れていく。

1) 予算の実行(入出金管理)

予算というのは、1年間のPTA活動を実行するための資金、収入と支出の計画である。つまり、活動があって、その活動をするために必要な予算を立てるとというのが基本である。コロナ禍で活動が変わっているかもしれないが、変わったうえで、その活動にどのくらいの予算が必要なのかを検討しながら予算案を立てていくというのが原則である。そして会計担当として一番大きな仕事が、1年間の入出金管理である。最終的には決算報告として作成し、皆さんにお知らせして終了するというのが大きな流れである。

予算の執行については、会計役員が一括管理するのではなく、各委員会に管理を任せて、時々チェックをしながら清算してもらうところが多いのではないと思う。この時に、各委員会の会計担当を決めて、きちんとしたルールを説明していただくのが一番良い。会計役員が前任から引き継いだルールを会計担当者にお知らせし、間違いなく管理をしてもらうと、後でトラブルが少なくなる。各委員会の活動計画のもと予算の執行を行い、その管理をする場合は仮払いの書類にて記録を残すということが求められていく。

2) 記録をとる 金銭出納帳、預金出納帳、備品台帳などに記入

お金の扱いにとって何よりも大切なのが、記録をとることである。すぐに台帳に記入できない場合はメモでもよいので、記録にとって忘れないようにしていただくとよい。

入金と出金については必ず証拠書類と引き換えに行うこと、現金を持っている場合は金種表を作るなどして、現金残高を常に確認する。そして帳簿の残高と、実際の現金残高が同じかを確認すること、これは定期的にやっておくことをお勧めする。通帳については預金出納帳を作り、通帳と残高が同じか管理しているところが多いのではないかと思う。通帳は入出金管理に記帳をできるので大いに役立てていただきたい。また、通帳管理者と銀行印の管理者を別に定めるなどして、複数人で確認できる状況を作ると間違いがない。

お金の管理と同時に、備品の管理もまた会計役員の役割の一つである。その備品がいつ購入されて、いくらだったかというのを台帳に記載する。備品そのものとあわせて連番をつけておくと便利である。備品は耐用年数が終えたときに破棄する必要があるが、この備品はどこが買ったものかが分からないと、破棄の費用はどこから出すかが分からなくなるので、備品台帳できちんと管理する。

PTA の会計相談を受けていたときに一番多かった困りごとが、領収書が揃わないというものであった。各委員会にお金を渡すとき、領収書の取り方については一番よく説明をしておいていただくのが大事である。「〇〇学校 PTA」と宛名を書いてもらい、買った日、金額、何を買ったか、どこから買ったか書かれていることが必要になる。領収書に明細がない場合は、領収書と同時に明細もほしい旨を告げていただく。講師への謝礼金など相手から直接領収書をもらうときは、その方の住所、氏名、内容を記入し、シャチハタではなく朱肉印で捺印していただく。慶弔費など領収書が発行されないものについては、挨拶状や会葬御礼があれば証拠書類として残し、ない場合は出金伝票を利用して金額を記入しておく。ネット通販で購入する場合も、PTA の購入物であることが分かるように、領収書の宛名が個人名とにならないよう変更してもらう。宛名が違うなど、領収書の要件がどうしても揃わないときには、PTA の経費として支出したもので間違いがないことを、複数の人で証明することで領収書の代わりにするという対応策が考えられる。領収書を PTA にて発行することがあった場合は、通し番号を記入し、控を保存する。その際に記入間違いをしたときは、切り取らずに大きく斜線を引き、折りたたんでホチキス留めをする。

銀行口座の管理について、支払いを一件一件引き出して通帳に記載することで帳簿付けが楽になるが、時間がかかるうえ手数料の問題もあるので、役員にてどのような出勤管理をすればよいかを考えていただきたい。仮払いを行う際は、申請書と清算書を必ず作成する。帳簿や領収書の保管については、最低でも5年以上保管するというルールがある。ただPTAの場合は周年行事など積立金に関わる 경우가多く、10年保存が望ましい。

3) 決算の処理

PTAは皆さんの会費で運営している。つまり、その年に納めた会費はその年に使い切るとするのが原則である。つい節約できないかと思いがちだが、それが過度になると繰越金を増やすことになってしまう。コロナ禍においては余ってしまった場合の対応のお悩みが多かったが、例えば年度末に児童生徒に渡す物品を購入するなど、早い時期に方針を決めておくとうい。図書やプロジェクタ等普段購入できない物品を購入し、学校に使ってもらうというPTAもあった。その際、学校に物品を寄付するのは手続きが多く大変になるので、物品の管理者はPTAとし、PTAから長期貸し出しという形をとるとよい。

繰越金が非常に多いという悩みはよく聞く話である。繰越金は全体会計の10%程度あれば、次年度の予算に困らないで運営できるといわれている。どこかの段階で、どうやって清算するかを考えていけないといけない。多すぎる繰越金があるPTAは、内部できちんと相談しながら、どうするか考える一年にしていくとよい。

積立金について、今までは印刷機を買うための積立金が大きな原資となっていたが、印刷物がデジタル化したことでそれが減り、その代わりにWi-Fiの環境を整える、オンライン会議の契約をするためのお金にするなど、違うものに使っていくという傾向も出てきている。そういう意味ではPTA会計の改革期と言えるのかもしれないので、PTAのなかで相談していただきたい。

会計監査は、第三者にきちんと帳簿を見てもらい、記載間違いがないかを見てもらえるチャンスであると捉えてもらうとよい。年度末、年度が変わってから間違いが見つかる大変なことになるので、会計監査は年に2回以上の機会があるとよい。

4) 次年度予算案の作成

会計をしていて、正当な活動をしているにも関わらず、予算が余ってしまう場合

は、予算と活動が合っていないということになる。そうすると、次年度の予算を削る、会費を値下げするという話になるかと思うが、なぜ予算が余ってしまったかという根本の理由が分からないまま、安易に値下げをして次年度すごく困ったという PTA の話を聞いたこともある。委員会の会計担当が節約をして余ったのか、活動自体が縮小されて余ったのか見極めて、単年度で安直に判断せずに予算が余る理由を考えていただきたい。

お金を扱うときに一番大切なことは、とにかく書類を残すこと。面倒かもしれないが、書類を残すことを一番に考えていただきたい。書類が手元にもらえないときには心を鬼にして、金銭のやり取りはしないと心に強く留めておく。会計を扱うことに責任を感じる方が多いと思うが、一人で抱えずに役員同士がチームとなり、複数で証明しあうなど一緒にやっていくという意識を持っていただきたい。資料に「会計・会計監査のチェックリスト」があるので参考にして、今どのようになっているのかチェックしながら進めていただきたい。

* 個人情報の保護について

個人情報保護法の改正に伴い、PTA も遵守すべき団体として位置づけられた。守るべきこととして、何のために利用するか本人に伝えて個人情報を取得する、個人情報を決めた目的以外には使用しない、鍵のかかる所に安全に保管する、無断で個人に渡さない、本人から開示が求められたときには断ってはならないというルールを守っていただきたい。配布や管理のし方を各 PTA にて話し合っただけでルールに決め、本人からの直接的な同意を求めて個人情報を得る。学校と PTA は異なる団体なので、学校の名簿を借りてはならず、PTA 独自で情報を集めるという工夫が必要になることをご留意いただきたい。

【ブレイクアウトルーム】

ここで、4～5人1組のグループとなり、下記テーマにて25分程度情報共有を行い、セミナーの最後に質疑応答の時間を設けた。

・ブレイクアウトルームについて

- 自己紹介（一人1分程度、「学校名、お名前」） **合計5分**
 - ✓ まず初めに、誕生月を皆さんでお話頂き、早い順に自己紹介を進めてください
 - ✓ なぜPTAに入ったか 等

- 会計を務めるにあたって、不安なこと、会計にまつわる様々な進め方の共有
- 気になる学校への質問（フリートーク）
- 講師に聞きたいこと 等
 - ✓ **合計25分**

【質疑応答】

・会費の集め方について。現在は会計役員が新入生、転入生から口座振込用紙をいただき手入力して、引き落とししている。給食費と同じ口座になると思うので、保護者の同意を得た上で、学校事務に頼んで口座情報をいただき引き落としできないか。（受講者）

←昔はそのようにしていた学校もあるが、個人情報保護のことや、PTAと学校とは別団体であり、おまけに事務の方はPTA会員でもないので、現在やっている学校はとも少ない。学校に依頼しても断られるのではないか。（講師）

・捺印について、朱肉印どころかサインでもいいのではないかと考えている。書類と領収書のやり取りをし、その場で署名をいただくのであれば、印鑑は必要でないと考えているがいかがであるか。（受講者）

←コロナ禍で捺印が少なくなっていることが色々なところで見受けられる。公には朱肉印が必要なところがまだまだあることを前提としつつ、PTAの中で相談いただいて、どのような方法でやるかを考えてもらえればと思う。手書きの領収書であると、誰が書いたものか分からないと、偽造されたのではないかと特に会計役員が疑われる。その場でサインしてもらうなど、自分で書いたものでないと分かる仕組みを作れば、PTAの中で合意をしていけばよい。（講師）

・P協の会計を担当している。会計の口座が郵便局で、個人用の取り扱いをすると手

数料がかかるようになっている。交通費の支払いなど小銭が必ず出てくるが、個人用を引き出す際に毎回手数料がかかるので、手数料ができるだけかからないよう多めに引き出しておくのがよいのか、手数料がかかったとしてもきっちりとした額を引き出すのがよいのか。(受講者)

←確実に記帳していくのであれば、引き出すたびに手数料も支払うことになるし、それが嫌であれば大きな額を引き出して金庫にしまい、その都度金銭出納帳で管理するという形になると思う。どちらにするかについて明確にこうして下さいとは言えないので、P協の中でメリットを比較して判断いただくのがよいかと思う。(講師)

・繰越金が昨年度より 190 万円繰り越されている。使い道としてアウトソーシングも候補に考えているが、どのような感じでアウトソーシングが行われているか知りたい。(受講者)

←例えば会費を集める際に、コンビニ納入をできるように仕組みを整えた PTA の話を聞いたことがある。ただ、受講者の中でもアウトソーシングがそこまで進んでいる PTA は少ないようである。繰越金の使い道としては、震災救援所になったときに校庭に防災テントを張れるように購入した PTA がある。(講師)

・PTA の口座を通帳で管理しているが、ゆうちょダイレクトなど WEB サービスに切り替えている事例はあるか。(受講者)

←まさに今年度よりゆうちょ Biz ダイレクトを導入している。良いところとして、入金明細を WEB で確認でき、それを CSV でダウンロードできるので、情報と名簿の突合がパソコンでできることにメリットを感じている。経費の精算も今は現金の手渡しであるが、振り込みにできないかなど調べているところである。ゆうちょの方と相談して、月額手数料がかからない形で契約できたので、これから導入を検討されている方は、他の PTA は月額手数料かかっていないらしい、ということをお願いできるとよいかと思う。(他の受講者)

←まず調べて、メリットデメリットを聞いてみるのがよさそう。通帳と印鑑を別の方が管理した方がよいというのは、間違いを最小限にするためなので、WEB サービスを使ったときに誤りが発生するのはどういう状況なのか、それを緩和するにはどうしたらよいのかが次の課題として出てくるのではないか。(講師)

以 上

セミナー名	小学校、中学校学級委員
日にち	5月23日(火) 13:30~15:00
参加人数	60人
講師	ひとまちみらい研究所 代表 四柳 千夏子氏

 ●●● 内容 ●●●

今日お集りの皆さんには共通点があります。それは、今年度 PTA 活動をお子さんのクラスの学級委員として1年間頑張ると決めた事。頑張るだけでなく、1年間を楽しく過ごしてもらえよう皆さんと一緒にお話をしながらエネルギーチャージしていただけたらいいなと思っています。宜しくお願いします。

自己紹介させていただきます。三鷹市在住で二人の娘の小学校、中学校で PTA 会長を務め、長女の場合は大学の父母の会までやりました。他にも放課後の居場所作りや学習ボランティア活動、PTA を卒業した後は地域活動など切れ目なく 20 年近く学校や子ども達に関わってきています。学校や子ども達、あるいは保護者の皆さんと関わり続けてきたことが高じて今は三鷹のまちづくりにも関わらせていただいています。PTA が私の原点であり、今の私を育ててくれた場所だと思っています。今日はどうぞよろしくお願いします。

さて、親として子供たちがしあわせであって欲しい。しあわせな社会であって欲しいですね？教育長のお話でも、杉並は「みんなのしあわせをつくる教育」という目標を掲げているということでした。では、子どもたちが「しあわせ」とはどういう状態なのでしょうか。好きなゲームやテレビを自由に見られることや、やりたいことに夢中になれること、家族が仲良く暮らせることなど色々あると思いますが、やはり、1日の長い時間を過ごす学校という所が子どもにとって楽しい場所、明日が待ち遠しくなるような場所であることがしあわせなことではないかと思います。そして、子どもにとって通うのが楽しい、明日が待ち遠しい学校は子ども達だけではなく、親にとってもしあわせなことです。

実は私は次女が高校時代に不登校を経験しました。健康上の問題は何もなく、毎朝きちんと起き、ご飯も食べられます。ところが学校の支度を始めると本当に具合が悪そうになるのです。娘の「行きたくない」と、私の「行きなさい」という闘いが一学期

間毎日続きました。ある日いつものように行きたくないという娘を送り出したのですが、お昼頃学校から娘が学校に来ていないと連絡がありました。聞いてみると、娘は公園で時間を潰していたのでした。私はその時初めて、親として子供を追い詰めているということに気が付きました。これでは娘も私も全くハッピーではないということにやっと気がついたのです。子どもが元気に楽しく学校に通うというのは親にとってもしあわせなことだと学べた気がします。また、それは実は地域の人達にとっても嬉しいことなのです。自分の住む地元の学校に子ども達が元気に通っている、そして「あの学校っていい学校ね。」などと周りの人に言われると自分の子どもが通ってなくても誇らしい気持ちになります。保護者を卒業しても地域の人間として学校や子ども達に関わり続けるのは、子ども達の笑顔に関われるから、そういう理由があります。そして先生方は勿論子ども達のために日々頑張っておられるし、自分の勤めている学校の評価が高ければやりがいも増すでしょう。子ども達が生き生きと元気で楽しく通える学校というのは皆がしあわせになれる、みんなが願う学校の姿であると思います。

そして、子ども達の学校での生活で最も大切な場所がクラス、学級です。皆が仲良く安心して過ごせるクラスか、子ども達と先生、子ども達と親、子ども達同士、親と先生、親同士、それぞれの関係が良好であることがとても大切な事です。

扇子の絵を例えに出します。扇子の真ん中を「要」と言います。担任の先生とクラスの子ども達、クラスの保護者を繋ぐこの結節点、要を担っているのが学級委員だと思います。担任の先生とコミュニケーションを取りながら自分の子どものクラスがいいクラスに育っていけるよう保護者として出来る事を応援する、その要の役が学級委員です。ただコロナ禍で保護者会の機会や学校に行く機会が減り、学級という保護者のコミュニティが希薄になってしまったのも事実のようです。学級への帰属意識がないという保護者のつぶやきを聞いたことがあります。一人一人の意識の変化による課題もあることでしょう。そんな中で学級委員を引き受けた皆さんはコロナで失われたものを取り戻すのか、新しい価値観の中で新しいPTAの在り方を目指すのか、いずれにしてもなかなか難しい舵取りになるかもしれません。皆さんの中には、自ら手をあげて学級委員になられた方もいるでしょうし、じゃんけんやくじ引きで仕方なくなった方もいるでしょう。もう何回もやっているという強者もおられるかもしれません。理由は様々あると思いますが、PTA活動は今しか出来ません。どうせやるならどんなことをしたら子ども達の学校生活がより楽しくなるか、子ども達の学校生活をどう後押ししてあげられるかなどワクワクした気持ちでチャレンジしてみたいと思います。

ブレイクアウトルームで交流タイム① (20分)

テーマ：「学級委員として楽しい一年を過ごすために」

簡単に自己紹介をしてから、困っていることを皆さんで分かち合ってみましょう。愚痴を言いたい、誰かに聞いてもらいたいという方、同じ立場の人に話を聞いてもらいましょう。

■どんな話が出たか共有して欲しい

発表者：一番困っていることは、今年度非会員の増加によりお金の使い方の意見が分かれる所です。卒業記念品に関してこれまではPTA会費で出すというのがありますが、なぜ非会員に対しても出さなければならないのか。学校側は児童の為のものであって、我が子への為のものではないので皆に分配するのが当然という考え方です。

PTAの活動自体もボランティアというところではありますが、積極的に活動している人がお金も払い、望んでいないけど役も与えられ、仕事もした上で、その人達の会費によって全く協力的でない人とそのお子さんに対して全てを担うという所に疑問を持たれる方が非会員になっていくのではないかという懸念から、保護者の茶話会でお菓子を出すべきかなどの小さなところまで繊細に考えなければならないのが困り事です。

講師：ありがとうございます。実は私の娘が卒業した小学校も今、約4分の1が非会員だそうで口コミで広がっていくそうです。入らなかった人にとって1年間不利益な事は無かったということが、その人の口からどんどん広がり、入らない人が増えているそうです。そうすると、仰っていた通り、会費を払い活動をし、活動をしない方のお子さんに会費を使って何かしら還元するという事に会員の方が不平等感を感じておられる。三鷹の場合は教育委員会からも還元をする際は非会員のお子さんに不利益が無いように配慮して下さいと指導が入っているので、会員からは色々な声があがってきます。この事に関しての答えは全くご提示できないのですが、この後皆さんの中でもう一度話をする機会があるので話をしてみていただきたいと思います。

さて、コロナ禍の二年間出来ない事が沢山ありました。PTA活動が出来なかった、制限がかかったということで、これまで長年当たり前にやってきた事を見直して本当に必要な事は何かを考えるきっかけになりました。昨年このセミナーで学級委員を担当したのですが、コロナ禍で子ども達の為に出来ることは何か、あの頃のことを前向きに捉えている参加者の方がいました。中学3年生の学級委員さんだったのですが、

学年の学級委員さんでまとまって高校の校長先生をゲストに招きオンライン説明会を開催したというお話でした。その中で印象的だったのが子供ファーストで考えたという言葉でした。とても素敵な活動を皆で考えて実践行動したということが本当に素晴らしいと思いました。最近、子ども真ん中社会とか、子どもを主役に、子どもを主語になどということが盛んに叫ばれています。これは言葉で言うほど簡単ではないと思っています。お子さんの中には、「急に主役って言われても、それこそが大人の押し付けだ。」などと言う子もいるそうです。でも改めてこの機会に、子どもを主役に考えるとはどういうことなのかを大人同士で考えてみるのもいいのではないかと思います。そして前例踏襲が是か非か。前例踏襲が悪いわけではないと思っています。これまでやってきたことにも続けてきた理由がある訳です。ただそれが今の状況に合っていないのに、やらなければいけないとか、前からこう決まっているとか、義務感を感じてしまったら変えてもいいのではないかと思います。こうやらなければならない仕事と思った途端に PTA 活動は義務感、負担感が増してしまいます。そうした時に一旦立ち止まり、これは一体誰のための、何のための活動なのかということを考えてみる。その時に子ども達の為だと思える、そんな視点で主体的に、能動的に取り組んでいただけたら PTA 活動というのも楽しいものになっていくのではないかと思います。

5月8日からコロナは第5類になり、色々な事が元通りになろうとしています。これから学校はどのようになるのでしょうか。元に戻るのか、それとも違う形になっていくのか、保護者の皆さんはどうでしょう。2回目のブレイクアウトルームでは次のテーマで前向きな話をしてみてください。こんなことが起こり得るという話も出来たらいいかと思います。やってみたいことは、実現不可能なことでも既にやっていることでも構わないのでどんどん奇想天外なアイデアを出して盛り上げていただけたらと思います。

ブレイクアウトルームで交流タイム② (20分)

テーマ：どんなクラスになりたい？

どんなことをやってみたい？

■どんな話が出たか共有して欲しい

- ・繋がりを活性化する。親同士が繋がっていることが安心感になる。連絡網も無くなかなか繋がれない中で茶話会は唯一繋がれる場所。
- ・保護者同士の顔が見えない。子どもが遊びに来てアレルギーも分からないのでお菓子を出すのも気になるので親の連絡先の一つでも知りたい。

- ・緊急連絡もメールで一斉発信。SNS の繋がりは度を過ぎると 22 時以降でもラインで盛り上がるなど問題ある場合もあるので何時までなど促していきたい。
- 幼稚園やクラブが一緒など特別な事がないと横には繋がれない実態がある。
- ・コロナ前の行事を復活させることが多くなってきたので保護者の負担が増える懸念。
- ・紙配布をやめたい。進めたい一方で、進めるとそこに労力が発生してしまう。子ども達の為にとと思うが負担が増える懸念もある。
- ・マスクの話。運動会では学校ごとで一日、半日と観覧体制が分かれる。保護者が 2 名来られない。非会員と会員の区別について。もちろん子どもは差別してはいけないが、非会員の保護者が会員の保護者と同じ情報を全て見られるのは違うのではないか。
- ・特別支援教室を知る糸口を作っていきたい。
- ・コロナが明けてきたのでいじめを予防する為に子ども達に聞き取りやアンケートを行なっている。通常の学校生活を知る機会や友達の世界を広げる機会を作る。
- ・保護者同士や先生との繋がりを作りたい。保護者会や茶話会以外に先生と話す機会を持ちたい。親子イベントに関しては会員、非会員の話では、児童に落ち度はないので、会員になった場合のメリットをもっと打ち出せるようになればいいのではないかという前向きな意見。子ども達が寂しくならない方法を学校毎に打ち出していけたらいいのではないか。
- ・保護者同士の繋がりが難しいという話で、自分の学校では 2 年前位からか保護者会の後に学級委員が引き受ける形でそのまま残った人で座談会をするということをやった。学級委員の方が近くの席同士セッティングしてくれて、グループ毎に家庭の過ごし方や、宿題の話などあれこれお喋りをしたのだが、これがとても良かった。これまでの繋がり他に新たな繋がりが出来て有効であった。

最後に最近の PTA 不要論について講師より

PTA はあくまで任意加入の任意団体であり、実際に PTA に加入しないという保護者が出始めています。そこまでは個人の自由なのですが、その先、PTA 会費を利用して子ども達に何かを還元する場合などはどうしたらよいのか。加入していない親の子どもには卒業記念品などをあげなくてもよいのか？という問題が出てきます。これまでの PTA は当たり前のように皆平等という考え方でした。家庭や仕事などそれぞれ事情は違うけれど、皆平等に公平に 1 回は委員や係をやりましょう、ということやってき

たと思います。その当たり前だった考え方が最近通用しなくなってきたと感じています。

1枚の絵をご覧ください。人権の領域などで見かける絵ですが、3人の子ども達が塀越しに野球を見えています。それぞれ背の高さが違うので台を配るのですが、左は3人の子ども達に一つずつ平等に台を配っています。ですが、見え方に差がついています。これでは結果として平等ではありません。右は台の配り方は平等ではないのですが、結果として同じ見え方で野球を見る事が出来ています。これが公正という考え方なのだそうです。

皆さんの学校でPTAに加入しないという方がいたらどのようにしたらよいのか？

これには正解がありません。しかし、このような重い問題に差し掛かった時に、皆で話し合いをして一番いい方法を模索していくという事が、これからのPTAに求められる事ではないでしょうか。子ども達のしあわせな学校生活のために保護者の皆さんが前向きに楽しく活動することが子ども達の学校が楽しい！に繋がっていくのではないかと思います。どうぞ皆さん、ワクワクしながら1年間子ども達と一緒に楽しんでいただきたいと思います。

以 上

セミナー名	小学校・中学校書記担当役員
日にち	5月23日(火) 13:30~15:00
参加人数	20人
講師	特定非営利活動法人チューニング・フォー・ザ・フューチャー 代表理事 手塚 佳代子氏

 ●●● 内容 ●●●

こんにちは。NPO 法人チューニング・フォー・ザ・フューチャーの手塚佳代子と申します。

本日は最初に 20~30 分、日常の活動の役に立つかな？こんな問題はないかな？という事をお話させていただきます。その後 20 分前後のディスカッションを 2 回はさみますので、そこでは楽しく情報共有していただき、最後に参考情報を 5 分~10 分ほどご案内して終わりたいと思いますので宜しくお願い致します。

私達は主に杉並区内の地域情報を編集、取材、記録、保存活動を中心に活動しています。皆さんの目に届くもので言いますと、広報すぎなみの 15 日号のコラムやなみすけ Instagram の取材活動などもしております。他には商店街でオレンジ色のフラッグを見かけることがあるかと思えます「中央線あるあるプロジェクト」という区の観光事業ですがこちらも担当している NPO 法人です。

私自身は息子が中学校時代に広報委員を担当し、小学校時代に書記、PTA に関わってきたので、当時こんな風にした方がいいのになど思うこともあり、挫折もしましたのでそんな経験を踏まえてお話を出来ればと思っています。

運営委員会の情報発信

書記。学校によっては庶務と呼んでいる学校もあるかもしれませんが、PTA ハンドブックには「総会や運営委員会、役員会の開催通知、次第、議事録のほか、活動の報告書（運営委員会だより）などを作成」と定義されています。なので、会員の皆様にお知らせすることが基本の活動になると考えていいと思います。そして PTA は保護者だけのものではなく、教員も含めての PTA になりますので、なるべく先生も誘って一緒に会議を持ち進めてもらえると良いと思います。

運営委員会の情報発信を担っていくのは書記の役割になっていくのですが、書記というのは長年にわたって続いてきたものであって本質的な事は変わっていないが、社

会や皆さんの環境が変わってきたと思います。そこで作業の効率化なども気にした方がいいと思います。また、作ったものがどれくらいの人に読まれているのか、きちんと情報が伝わっているのかという情報到達度も向上させていかなければいけないと思いますので、せつかならよく読んで貰えるものを作るために、作業の効率化、情報到達度の向上、これからの活動スタイルを意識・提案、この3点に注意するのがよいと思っています。

皆さんの関わり方ですが、目に見えて少子高齢化が進んで会員も減っていますし、外国人の方も増えているのではないかと思います。関連組織、他の委員会の方と重なる部分があれば役割分担を考えて見直ししてもいいのかなと思います。学校独自の取り組みや、学年、その年独自というのもありだと思いますので、過去がこうだったからこれからもこうではなくて、過去はこうだったけど今年はこう直して来年に申し送りをしたい。そういうことを考えていただくのもいいと思います。

今日は時間が限られていますので、デジタル化のところと、読み手へ配慮する時に注意すべきところ、独自の仕組み、取り組みについてのところだけ詳しくご案内したいと思います。

まずデジタル化なのですが、この講座を10年前から担当した時は全然デジタル化している学校はなかったのでその頃から比べてだいぶ変化してきたと思います。デジタル・ネットはおっかなびっくり使うことがあるかもしれないが、無料のサービスで学校用のメーリングリストや情報共有のものもありますのでそれらを利用してもいいのではないかと思います。実際このZOOMもある程度の時間までは無料で使えます。あとは印刷物の廃止、削減かと思いますがこれがなかなか着手できないようで併用しているところもありますが、併用すると余計に手間が増えてしまいますので、併用するくらいなら紙だけにするという選択肢も無くはないです。いずれデジタル化するために1年目、2年目でフェーズを切ってやっていくということであれば併用の時期があってもいいと思いますが、ずっと併用とにならないように、皆さんの中で工夫が必要だと思います。その時に民意を汲むという事で会員にアンケートを取ってみて了解が概ね得られるのであれば思い切って印刷物を少し減らす、もしくはやめる選択肢もあるかもしれません。もしくは作りかけの印刷物であればPDFに出来るので、紙がいい人、PDFでいい人に分けるのかどうかなど。枚数が減るだけでも違うと思います。配る手間が変わらないのは残念ですがそのような活用が出来ます。デジタルの場合は定期的に日時を予約投稿ができるので、毎週水曜日にPTAの印刷物がくる、とかははっきり決まっていると毎週この曜日の夜に確認すればいいとわかるので会員の方も情報を探しやすくなります。デジタルのいい所を活かして、1歩でも2歩でも

前に進めながら出来たらいいなと思います。

一方でデジタルには不安も付きものなのでセキュリティ学習もしてもらいたいと思います。また、デジタルにしたら保管はどうしたらいいのですか？というお話もありましたので、セキュリティは正しい知識を持って運営していただき、データはバックアップをとって保存していくのですが、バックアップというのは作ったものをずっと残すという事なのですが、それは記録としての価値もありますし、同じ物を活かして次々作れるという両方の意味があります。バックアップは学校の PTA のパソコンの中に保存していただきたいが、パソコンもいずれ壊れます。そうなった時に、パソコンの本体とは別にどうやってバックアップをとるかということも確認してください。学校単位の規約で書類の保管方法に関しては、期限と合わせて記載がある学校もあるかと思いますが、規約に則って保管していただき、それが今の時代に見合わないようであれば規約の見直しも検討していただき、総会にかけるといった事も提案していいのではないかと思います。保存についてはまた検討課題になってくると思います。

デジタルとネットの活用

アナログとデジタルで、いい所悪い所が出てきますが、自分たちにとってこういういい所は残したい。悪い所は渡したくないなどあると思います。アナログは紛失が一番大きくデジタルは紛失しません。両方とも△なのは外部への情報漏洩です。紙であればコピーやスキャンすれば出回ってしまうし、デジタルであれば転送することが出来れば簡単に出来てしまいます。ただパスワードを掛けるという事はできるので防げる機能も少し付いているというところでもあります。この時、印刷物無配の実証実験やアンケート実施で比較、検討していただければ良いかと思います。

読み手への配慮

PTA には色々な人がいます。(外国人、PTA に積極的あるいは消極的な人、とにかく多忙な人など)これら受信した人が可能な限り等しく同じような情報理解に至るよう読み手への配慮をしていただきたいと思います。原稿を書く時などは、日本人が書く文章はよく主語がないと言われますので主語をつけるようにするとか、期限は何月何日までと具体的に書くと理解がしやすいと思います。杉並区に住む外国人は 15,203 人でその多くが若い世代だと思います。また、アジア圏の外国人が多いので、漢字の使用や見出しに重要と伝わるように英語なども添えると、内容が分からない場合でも重要なものは本人が調べることが出来ると思いますし、手に取ってもらわない

ことには読んでもらえないので、簡単に読めそうとか、読まなくてはいけないと感じてもらふ工夫が必要になります。内容が分かるような見出しをつけたり、記事にナンバリングしたりするのもいいと思います。情報に大・中・小をつけましょう。重要度がわかるような工夫をするのがよいと思います。季節の挨拶文などは省いてもいいし、一文を短くするのも読んでもらうための工夫です。また PTA の専門用語は避けましょう。略語などは会員には伝わらない言葉もあるので正式に書き、当事者意識を持ちやすいような記述を入れると良いと思います。(何年生の保護者へと分かるように書くのも良いです。)

独自の仕組み・取り組み

この中にはくじ引きで役員になったとか、仕方なく引き受けた方もいるかもしれませんが、PTA 役員になったからには、自分なりにやった、私だからこれが出来たなど、結果的に担当して良かったと思えるような PTA 活動にしてもらいたいです。誰がやっても同じように過去の通りにやると言われることもありますが、疑問に思うことや直したいと思ったらどんどん改善していけばいいと思います。新しい PTA というものを考えてもいいと思うので、負担が少ないように不要な物を割愛していく事や、他の学校関連組織と重複した不要な取り組みについては、削除していく、デジタルに変えられる所は変えていくでも良いと思います。基本的には過去にとらわれずやってみる。失敗するからやらないではなく、失敗したらまた考え直すというので良いので、ちょっとずつ取り組んでみましょう。毎年毎年ちょっとずつでも変わっていけば5年後には新しく変わっていると思うので是非試していただきたいです。

自分が担当した PTA に後任のなり手がいないというのは寂しいです。書記って結構楽しそうだし、楽だね。というイメージを持っていただきたいのでやりがいを正しく伝えることが大切です。書記はこういう仕事だというのがうまく伝われば、これなら私がやるのがいいかもという方が出てくるかもしれないので、誌面作り、写真だけ、文字校正だけなどの適材適所へのサポーター制度なども取り入れると自宅に居ながら出来る事もあるのでいいのではないかと思います。また、デジタル化は焦らなくていいですが、やってみたら実は楽だったという事もあるので、試して良ければ続ける、ダメならやめるといような気楽な気持ちで始めてもらうのがいいと思います。議事録ですが、読む人が半数以下であれば、要約に留めて、録音テープで残すなどの方法もありだと思えます。

ブレイクアウトルームへ移動して各グループに分かれて話し合い
グループで話し合った事を1, 2名の方が発表

オンラインディスカッション①

テーマ：PTA 活動に携わって良かったこと。メリット

テーマ：現在の問題点、注意したいこと

- ・活動してみたら子どもも案外喜び、学校にも出向く機会が多いので様子が分かる。
- ・LINE ワークスで運営委員会と PTA 役員の皆のグループを作っていて、書類のやり取りや、出欠の有無などを行っている。文書を出す時などもそれで確認するのであまり学校に行く機会はなく、その辺はとても楽に回っている。2年前から導入しているが、導入時にも特に問題はなくうまくいっている。

他に話題に挙がっていた名簿の管理方法などは今後の検討課題だと思うので、各学校の規約を見ながら進めていただきたい。

オンラインディスカッション②

テーマ：新しく取り組みたいこと

テーマ：次年度後任者に伝えたいこと

- ・前年度はほとんど ZOOM 開催で行われたが、本年度はコロナも緩和されたので、対面にしたいという話が役員の間であり、ZOOM と対面のハイブリットにしようとなったが、ハイブリットだと誰かがパソコンを持ち込んで繋げてという話になりなかなか難しく現状は 100%対面で行なうことになっている。

対面と ZOOM の希望は半々位だと思うが、ハイブリットを実現させるのが難しいということ。

参考情報として

・セキュリティ対策

IPA という組織がある。自己申告型の学習システムで最低限これだけはマスターしようというデジタルチェックのシートを無料で配布しているので、役員間で共有してみるということも良い。クリアするとマークなども貰える。

・コンプライアンス

著作権があるので、出所の分からないデザインやキャラクターは一度振り返って確認してみると良い。また、成果物はどこまで郊外に配布するのかを考え、配る範囲に合わせた内容にする。もしくは、どこかに転載禁止という一文をいれるなどもよい。

著作権については写真などに触れることが多い広報委員のセミナー資料にご案内予定なので関心のある方はそちらを共有していただきたい。

- ・作業分担・作業フローの工夫

適切な人数で作業をすると効率が上がる（アイデア出しは何人もで。添削や校正は少人数で。）IT スキルなどの得意分野を活かす配置。

- ・議事や要録の短文化・文章バランス

挨拶文などを省き文章を短くすることで知りたい情報を簡単にキャッチ出来る。短文化すると行間もとれるので読みやすく分かりやすい誌面になる。善意のある言い換え程度の変更はしてもよい。

大きくすべき見出しはどこなのか、大事なところを目立たせ文字の大・中・小を決める。メリハリがついていると読み手は読みやすい。赤は目に留まりやすい色なので、注意事項などは赤を使用するとよい。また読み手は一瞬で読むか読まないかを判断すると言われているので見出しには工夫をするとよい。PTA 会員がどんな情報を欲しているか、知りたい情報は何かなどはアンケートを取ってみてはどうかと思う。アンケートこそデジタル向きである。アンケート機能を活用し選択肢を沢山用意しておくとすぐに回答が得られるのでうまく利用していただきたい。

講師まとめ

今日皆さんのお話を聞く中で、併用の難しさと併用をやめるきっかけがなくて困っているという事が課題としてあるようでした。また、PTA はデジタル化が進んでいても学校の先生とのやり取りがアナログで困るというお話もありました。もう少しデジタルに強い先生が PTA の担当になってくださると窓口もすごく楽になると思いますのでその辺は今後に期待ですが、学校や保護者の方々と連絡を取りながら少しずつ楽になればいいなと思います。

皆さんの充実した PTA 活動によって作られた物は目にした方々にも充実さが伝わりますので PTA って意外と楽しそうだなと感じて頂けるような紙面をお作りいただければいいなと思いますのでどうぞ宜しくお願い致します。今日は私自身も勉強になりました。ありがとうございました。皆様にもなにかひとつでも役に立つ情報があったなら嬉しいなと思います。

何かひとつ自分たちならでの個性やスキルを活かした情報発信に取り組んでみましょう。本日はありがとうございました。

以上

セミナー名	小学校地域委員
日にち	5月24日(水) 10:00~11:30
参加人数	33人
講師	うさぎママのパトロール教室 主宰 武田 信彦氏

 ●●● 内容 ●●●

地域委員を対象にした本講座では「子どもたちの安全」をテーマに、地域の中でどう子どもたちを犯罪から守るかについて、PTAの皆様がどう取り組めばよいか、どのように取り組みを広げればよいか講義する。

武田氏の専門分野は「市民防犯」である。聞きなれない言葉であると思うが、市民防犯とは、一般市民ができる防犯という意味である。すなわち、地域で子どもたちを守るという意味の市民防犯に加え、子ども自身が自分を守るという意味の市民防犯という二つの領域がある。「PTAのパトロールは不審者を探すのだよね」「非行を見つけたら怒鳴って注意するのだよね」と時々勘違いされている方がいるが、力の行使を伴う強い防犯は警察の仕事である。私たちは環境づくりという意味からの防犯なので、警察防犯のような直接的な防犯は行わないし、やってはいけない。今日は警察防犯とは違う、どんな防犯ができるのか、どんな防犯が子どもたちを守る力になるのかを感じていただきたい。

武田氏は防犯ボランティアや教員向けの研修、子ども向けの防犯セミナーの実施のほか、国からの依頼を受けて、子どもたちの防犯に取り組むための様々な資料への助言を行っている。資料は無料で使えるものもあるので、下記 URL を参考いただきぜひご活用いただきたい。

うさぎママのパトロール教室
<http://www.usagimama.com/>

警察庁「犯罪被害等防止マニュアル」(リーフレット・動画)
https://www.npa.go.jp/bureau/safetylife/keihatutu_ru/index.html

文部科学省「登下校見守り活動ハンドブック」
<https://anzenkyouiku.mext.go.jp/tougekoumimamori/index.html>

(公財) ベネッセこども基金「子どもの安全安心ハンドブック」

<https://blog.benesse.ne.jp/kodomokikin/support/useful/2020/03111425.html>

なぜ子どもの防犯対策に PTA の見守りや、子ども 110 番といった地域防犯が不可欠なのか。1 つ目が、日本には子どもを地域で育てる独特の文化習慣が残っているからである。小学 1 年生になると自然と「いってきます」「ただいま」というように、子どもだけで行動する習慣がすごく多い。さらに、社会的問題として、子どもが子どもだけになりやすい環境が加速している。核家族化が進み、共働き家庭が増えていることで、全国の学童クラブ利用人数が過去最高を更新し続けている。子どもだけで行動しやすい環境が元々あり、社会環境として大人が外に出ていき子どもが子どもだけになりやすい環境がある。これが、PTA を含めた地域での子どもの見守りや防犯活動が必要になるという基本的なスタートラインになる。

そして大変残念ながら、犯罪も発生している。各地域で重大事件が発生し、声掛けやつきまといといった、その前兆事案はどこにでも発生している。これがどこで起きるのが分からないことが大変怖いところである。うちの地域では事件が起きていないといったことが、犯罪が起きない根拠になることは絶対ない。数字だけでは評価できないのが防犯活動である。子どもがいて、犯罪の気持ちを持った人がいて、環境としてやりやすい状況になれば、どこでも重大事件、前兆事案が発生する可能性があるということを是非覚えておいていただきたい。

警察庁が発表している資料によると、人通りの少ない道路、駐車場駐輪場（待ち伏せされやすい）、公園（複数人で遊んでいても注意が必要）、集合住宅の共用部分（自分の家のまわり）で子どもの犯罪被害が発生するケースが多いとされる。これらの場面に共通しているのは、子どもだけになりやすいということである。子どもや女性を狙う犯罪に関していえば、人の目があると実行しにくいという特徴がある。この場所が危ないという言い方ではなく、子どもが子どもだけになりやすい瞬間こそ注意が必要という考え方が極めて重要である。ドアを開けて閉めるまですべて防犯対策が必要であり、聖域を設けてはいけない。子どもを子どもだけになるべくしないように、ゆるやかでもいいので見守りをしよう、街の中にいる方は子どもに目を向けてくださいというのが、PTA 活動の根拠になる。

子どもだけにしない環境づくりは、一人ではできない。地域の力、保護者の力、子ども自身の力が必要になる。その中でも、これらの力を重ね合わせられるのは誰かと考えると、きわめて限られた人にしかできない。それが、保護者でもあり、地

域活動団体でもあり、子どものことも分かる、PTAの皆さんである。すべての世代の人たちをゆるやかにつなぎ合わせることができる、コーディネーター役としてのPTAの社会的意義こそが、子どもたちを守るきわめて強い力である。ゆるやかに各方面に顔が利き、巻き込み関わることができ、PTAと言えは話を聞いてくれる、皆さんの立ち位置は人生の中でも貴重な立ち位置であるということは覚えておいていただきたい。

子どもの防犯対策は、その考えの中でも段階がある。一番強いのが、大人の付き添いである。そばに大人がいることで、犯罪の気持ちを持つ人が近づけなくなる。付き添いは過保護ではない。通学路で付き添う大人が一人いることで、数十人の児童が安全になる。一般会員も含めて、保護者自身の力がどれだけ防犯力として高いのかという気付きをぜひ広げていただきたい。

PTAを含めた地域の皆さんのご協力が必要なのは、保護者がずっと付き添えない社会環境だからである。不審な行為に対して何かする必要はなく、街にいていただくことが重要である。デザインやウェアを着用し、子どもに手を振ったりあいさつをしたりしていただくだけで十分である。子どもだけでない環境こそ、犯罪が近寄りにくいバリア効果が生まれている。それでも子どもたちが子どもだけになることがあるので、子ども自身の身を守る力を高める努力も必要になる。そしてPTAだけではできないこともあるので、そうした時は警察に相談してほしい。緊急の時は迷わず110番、相談ダイヤル#9110、所轄の警察署はどこかも調べておき、相談や連絡は気軽にさせていただいて問題ない。

PTAが何かできるかについて簡単にご紹介する。一つ目は見守り、皆さんが街にいていただくことが重要である。腕章やユニフォームを着ていただくと効果が広がるので、ウェアを使って見守りの効果を高めてほしい。ダサい、格好悪いというのであれば、着たくなるデザインに変えていただいても何の問題もない。そこまでハードなことはできないというのであれば、ぜひ何かをしながら見守りをしてみしてほしい。無理してチームで集まって見守りをしなければならないという考え方だけでなく、バラバラな時間に見守りをしていただくことも効果的である。デザインを自転車の前カゴやバッジに身に付けて、皆さんのライフスタイルの中でできる範囲で探ってみてほしい。パトロールが難しいという方は、啓発という防犯活動がある。先ほどご紹介した資料も活用いただき、皆さんの側から広く一般会員の方に、少し

でも時間があれば外に出て子どもたちの様子を見てほしいという情報を発信してほしい。

より踏み込んで活動したいという皆さんは、こども 110 番のお家の行進活動といった地域連携をしてみるとよい。こども 110 番のお家には、見守る気持ちがあるという意識を広げる意思表示と、駆け込んできてもよい、助けるという意思表示がある。なので、駆け込まれてないからやめる、意味ないからやめると簡単に片づけないでいただきたい。ハロウィンといったイベントで、こども 110 番のお家にありがとうを伝える、といったこともできる。

また、防犯講座などを企画したいという時は、家庭教育学級の枠組みで、武田氏のような代理講師を呼んでプログラムすることができる。今日のようなお話を子どもにも分かりやすくプログラム実施できるので、外の活動ばかりでなく、学校の中や PTA の研修会の企画にも取り組んでいただきたい。

PTA の子どもたちを守る活動というのは、子どもたちにメッセージとして届く。大人の側の取り組みが、子どもたちの地域の中での育みにつながる。見守られて育ってきた子どもたちが高校生や大学生となり、今では学生防犯ボランティアとして活躍している。地域でそうした取り組みが無ければ、もしかしたら子どもたちは見守ることや助け合う価値についてなかなか学べなかったかもしれない。PTA 活動と向き合うときに大人の目線だけでなく、そこで出会う子どもたちが、どういうふうに PTA や地域の方たちを見てくれているのか、そして大人側からみる何倍も効果がある大きなメッセージであるということとを大事に取り組んでいただくと、PTA 活動の価値が子どもに対しても見つけることができるのではないかと。

今あいさつをひるんでしまう方もいると思う。大きい声であいさつをする必要はないが、手を振ったり、笑顔で「気を付けてね」と声を掛けたり、見守りの環境というのは子どもを守る大きな力となる。ぜひひるむことなく、ためらうことなく、やり方は皆さんで調整していただきながら、見守りの花を咲かせていただきたい。

【ブレイクアウトルーム】

ここで、4～5人1組のグループとなり、30分程度情報共有を行い、セミナーの最後に質疑応答の時間を設けた。

【質疑応答】

・ランドセルの名札について、書いていると防犯上良くないのではと言われたが、迷子になったときに書いておいた方がいいとも思うので、ご意見を教えていただきたい。(受講者)

←外側から直接見えていなければ安全は確保されていると思う。傘など外側の目に付くところに名前が書いてあると、認識されて名前を呼ばれてしまうリスクがある。ランドセルに関していえば、開かなければ見えない場所であればリスクは低い。それでも気になるようであれば、名札に書いてより見えないところに入れておくという方法もある。(講師)

・集団登校をやっている学校も近くであるらしいが、杉並区ではやっていないので、集団登校をしておいた方がいいのではないかという意見が出た。(受講者)

←集団登校は効果的である。子どもが集団でいることによって、犯罪行為をしにくい環境が生まれる。集団登校というほどでないが、同じ児童に通われる子どもが一緒になって、そこに保護者の方が一名でも付き添われると目立つので、非常に効果的である。(講師)

・学校関係者や近所の人に見せられるグッズのようなものを配布して、会社に行くときなどに着けておくと防犯の意味があるのではないか。(受講者)

←保護者だけでなく、通勤の方や商店の方が揃いのバッジで子どもたちを見てみるとアピールする効果は高い。地域ぐるみでされているところはまだないが、せっかく今ある力を同じ目的に集めるという意味でも、マークやデザインを揃えるというのは効果的である。(講師)

・子ども 110 番の家について子どもと話したときに、知らない家に入っていくこと自体があり得ないと言われた。そもそも子ども 110 番の家だから安全だという証拠がどこにあるのか、子どもに来てほしいから、悪い目的でつけている家もあるかもしれない。知っている人の家であればともかく、知らない家で掲げてあったとしても入っていく気にはなれないと考えている子どももいる。(受講者)

←助け合いが大事であることと、それを悪用する連中がいることは考えていかなければならない。子どもを狙う人間がどこにいるのかはわからないので、ご指摘の点は正しい面もある。一方で、一つでも多く助けてくれる場所や人を確保しておきた

いというのも現状としてはある。お話を聞いた限り、子どもの方が冷静に状況を見極めているので、それであれば、ここから一番近くで助けてくれそうな人はどこにいるという質問を投げかけて、ヒントを導き出してあげるのもよいのではないか。駆け込む場所として、公共的な場所や子どもに馴染みのある場所も選択肢としてある。(講師)

・この間子どもが、けがをされている方に声を掛けられ、代わりに家の人を呼んでほしいと頼まれた。その時は良い人だったので何も問題なかったが、万が一のときを考え、子どもには今度から大人の人を呼ぶようにという話をした。この話を学校に伝えるか迷っているが、そのあたりどう思われるか。(受講者)

←悲しいことに、実際に困っているふりをして、助けてと言われて犯罪被害が発生しているのは事実である。子どもの善意をだまして、犯罪をする人間もいる。おっしゃる通り、子どもであれば、自分を守ることを優先してもよいと思う。できないと思ったことは、大人の人に伝えるだけでも人助けになる。通学路で何かが起きて、不安を感じた場合は、すぐに学校に伝えてよいと思う。(講師)

・予算の問題があるが、子どもにカメラがついていて、警察に通報できるようなものがもしあればとても有効でないかと考えたが、警察や企業に働きかけながら提案できないか。(受講者)

←防犯カメラをつければいいのではという話は結構出てくるが、そのカメラが記録型であると二次被害は防げるかもしれないが、つけている子ども自身を守ることはできない。かといって警察官がオンタイムで監視すると街の中でのコミュニケーションが不全になる。実際の事例として、品川区では不安を感じた子どもが押すと、オンタイムで担当者が出てくる端末というものがあるが、誤報が多いという課題や、予算の問題があるので、すぐに導入というのは難しい。防犯ブザーを複数持ち歩くなど、既存のアナログの道具と、今日お話しした人の力を重ね合わせていくのが現実的である。(講師)

・学校のゼッケンが大きく名前を書くタイプであるが、防犯の観点からするとどうなのか。(受講者)

←人の目にさらすところに名前を見せるというのは大きなリスクになる。特に連れ去りを防ぐという点で見ると、悪知恵を持った人があの手この手で心をコントロールしようとするときに、名前や学校名を知っていて、かつ教員やPTAを名乗られる

と一気に安心モードになってしまう。心をコントロールされないためには、まず名前を言われぬことが大事。名前を見せびらかすことは防犯のスタンダードからは逆行しているので、もしご意見が言えるようであれば、言ってみてもよいのではと個人的には思う。(講師)

以 上

セミナー名	小学校・中学校広報委員
日にち	5月24日(水) 13:30~15:00
参加人数	38人
講師	特定非営利活動法人チューニング・フォー・ザ・フューチャー 代表理事 手塚 佳代子氏

●●● 内容 ●●●

皆様はすでに活動を開始されているかと思うので、今後のことや現状でちょっとしたヒントやアイデアなどをご案内し、その後ブレイクアウトルームを使用して、他校との情報共有を行なっていただきたいと思う。20分ずつ2回に分けて話し合いをしていただき、最後は私より参考情報をお話したい。

講師の簡単な自己紹介について。代表理事を務める NPO 法人チューニング・フォー・ザ・フューチャーでは現在、杉並区関連の様々なウェブサイトやブログの記事制作に携わり、情報収集活動と発信活動を行っている。(広報紙のコラムやすぎなみ web ミュージアムなど) また自身も、かつては区立小中学校で書記や広報を担当した経験があり、その経験を元に現在の皆さんとすり合わせをして何か少しでもお役に立てる事をお話出来たらと思っている。

1. 広報の目的

まず広報の定義について確認してみる。Public Relations (PR)、PTA においては、学校の魅力、PTA 活動の魅力を伝えることが目的となる活動。広報誌を作ることに尽力する方が多いが、広報誌はあくまでツールの一つにすぎないことを再確認いただきたい。伝わる広報誌作りを念頭において作成してもらいたい。ほかの委員に比べて自由度が高いので、気ままに活動を行えるが、その分責任も伴う。メリットとしては授業を堂々と見学出来る。先生の話なども聞く事が出来る。必ずしも前年の踏襲である必要はなく、その年々で変えていってよい。今年ならではの個性で自分達の力や能力を発揮してもらいたい。おまけとしては、自分の子どものいい写真が撮れるメリットなどもある。

読み手を把握してもらいたい。PTA と一口にいても、お忙しい方もいれば、初めてPTAに関わる一年生の保護者の方や、とりあえず加入している方、色々な方がいる。分かりやすく、効率的かつ効果的な広報活動をしていただきたい。

2. 後半に向けての課題・改善・挑戦

1号目は発行済みの学校が多く、教職員・部活動の紹介的な広報が多かったと思う。活動をして数か月ではあるが、再確認できたことや疑問に思ったことが様々あると思うので、2号目からは、広報誌を読んだ人の読後感の目指すところや、広報誌のこだわりについて共有して制作するのがよいのではないかな。

【編集方針・企画制作】

紙面を作る時に方針がしっかりしていると悩んだ時に判断基準になるので編集方針について再確認してもらいたい。主には PTA 活動の魅力を伝えたいでいいと思うが、コンプライアンスや個人情報の取り扱いなどもあるので方針を決めてから企画制作を進めていく。

【効果測定】

広報はどんな効果を及ぼしているのか、効果測定について考えてみる。せっかく自分たちが時間を費やして作った広報が役立っているのか、読まれているのか確認する機会を設けたいがアンケートはなかなか回収出来なくて悩んでいるという話は長年の課題であるので、ディスカッションの中に入れてみてはどうか。

【デジタルの活用】

作る場所と配布する場所でデジタルをどう活用するかが広報委員の課題かと思う。作る場所に関しては内部や外部でデジタルが作っている学校が多いが、配布はどうするのか。印刷したものをアナログで配るのか、データまで作って印刷は省いて配布はオンラインだけで済みますか。印刷の手間や配布の手間も省けば時間の短縮になるので、今後は配布の方にデジタルをどう活用するか、ここ1、2年は皆さんの悩まれているところだと聞くのでその辺をご紹介したいと思う。民間サービスをどう利用するのか悩んでいる方がいらっしゃると思う。費用はどうか、無料であると広告が入ってしまうなどあるので、情報を共有したいと思う。

編集方針として例えばだが、読者がどうなるのがいいのか。紙面作りにどういうこだわりを持って作っているのか。必ず取材をしているや、記名で責任を持って記事を書いている。写真に拘っているなど。さらに、広報委員として自分自身が活動をどう思っているか、楽しくなければ続かないので、楽しい活動なのかどうか。

記事に関しても、家庭でも役立つ内容にしようとか、広報誌を読んだ人の読後感の目指すところや、広報誌のこだわりについて共有すると同時に、皆様自身が活動をどう思っているか、活動自体にどういうイメージを持ってもらうかを考えてもら

いたい。また、委員会に先生方が関わっていない学校がまだまだ多いと感じるが、私たちの知らない情報や授業の裏側など、貴重な情報をお持ちなので先生方に関わっていただくというのも重要なことである。

・制作レギュレーション

文体を後で揃えるのは意外に厄介なので、最初から統一していたほうが見やすく、情報がはっきりとしていく。最低限文体をどうするか、専門用語や略語を使うかの線引きを決めておくことで、文章を書く人が困らないのでよい。一方で、文責として執筆者の名前をつけるのなら、執筆ルールをあまり決めないで、自由に書いてもいいと思う。原稿に名前があると親近感があり、記事の信用にもつながる。

・運用・活動

チーム構成について課題に感じている学校が多いが、学年単位よりは学年をまたいだ方が、得られる情報や企画の選択肢が広がる。ミーティングは余裕をもって、P（保護者）だけでなくT（先生）の参加も呼び掛けてもらいたい。皆様の日頃の働き方はそれぞれなので、委員同士で連絡する時間や方法の目安を簡単に決めておくとうい。

・先割レイアウトの紹介

広報誌の誌面をいくつかのスペースに割っておき、何を入れるか、文字数やサイズをあらかじめ決めてから原稿依頼をし、オーバーしないように書いてもらう。そうすると全て出揃うまで待たなくていいし、出来上がった原稿をはめ込むだけなので編集作業が楽になる。またスペースが決まっていれば、デジタルが苦手な方は手書きの原稿で書いてもらうこともできるのでそこに味も出るのでお役立ていただきたい。

また、写真を多く取り入れている学校もあると思うが、一回しか撮るタイミングが無い場合も多いので今一度写真についてもご確認いただきたい。写真を撮る時は目的によって撮り方が変わるので何を伝える写真なのか意識するとよい。スマホで十分だとも思えるが、物によって一眼レフやスマホの使い分けなども挑戦してみるといいと思う。一眼レフを使うと臨場感が違って透明感や、生き生きした写真になる。

・コンプライアンス

最近よく話題になるのが個人情報である。年度初めに写してはいけないお子さんは把握していると思うので確認する。自分たちの時代は苦肉の策だったが広報部員のお子さんの顔を共有して、生き生きとした表情を撮りたい時は広報部員のお子さんを撮るように工夫していた。ただ、広報誌なので外部に配布されることを考慮して詳しく書きすぎないこと。学校名などは既に分かっているので、細かく書くと個人が特定されてしまうので注意が必要。著作権はあまり関係ないかもしれないが大雑把に70年と

覚えて欲しい。イラストなども著作権は何の申請をしなくても絵を描いた瞬間に発生するものである。保護者が描いたイラストも例外ではないので、誰が描いたのかを確認して、名前を載せるなどの配慮をするとよい。また著作権について知っておけば、著作物をうまく使うこともできる。現在の法律では、一般発行物は公開後 70 年経過したら自由に使用できる。

- ・セキュリティ

IPA（情報処理推進機構）という任意団体では無償のチェックシートなども提供しているので、皆さんの認識の一致に活用したらよい。また既にネットで配信など行っている学校については、google Analytics という解析ソフトがあり、どのページがどの程度読まれているかが瞬時に分かるのでそういった物を使うと便利だと思う。

- ・デジタル・アナログの得手・不得手

最近では、デジタルでレベルをどうしようか。そういった手法について悩んでいる学校が増えてきた。アナログ、デジタルのそれぞれのいい所を生かす。デジタルは時短・省紙・解析がしやすいメリットがある。書記委員のセミナーの中でも 200~300 名位のうち 95%以上が紙は要らないと言っているが、まだ十数人だけアナログでなければダメな人がいるので紙が必要で、そういう方には申し訳ないが掲示板に一枚貼り出しして見ていただいているという学校もあった。このように、併用すると大変で足踏みが続くので、どこかでアンケートを取るなどして判断して、計画的にデジタル化にうまくステップアップしていただけたらと思う。

参考

杉並区の公共では「すぎなみ地域コム」をポータルサイトで発信しており、地域活動の人にはブログシステムを 1 つ無料で丸々ご提供いただいているので、こういったサービスを利用するのもよい。それから民間では WIX サービス、これは個人情報に注意する必要があるが、イベントの出欠集計から名簿まで全部作ってくれるサービスもある。他に Google フォームは無料でアンケートが簡単であるし、Line Works など日常利用者が導入しやすい。Line Works のトーク画面についてはアクティブ利用者が 9500 万人と言われている。また、メールマガジンなどの無料配信サービスを役立てる方法などもある。

ここまでは駆け足で、再確認していただきたい編集方針、ライティングルール、活動自体をどんな活動にするのかなどをお話してきたが、ここで皆さんにも各学校の情報共有をしていただいて持ち帰っていただきたい。

3. グループ懇談（オンライン）

4～5名程度のグループに分かれて、下記テーマについてディスカッションを行ない、情報共有をしていただく。

オンラインディスカッション①

「今こんなことに困っています！」

「当校 PTA の魅力はこれ！」

20分程グループで懇談した後2名の方に話し合った内容を発表していただいた。

講師より

お聞きしたところで担当をどう決めるか、年度によってメンバーのスキルが違うので同じように引継ぐのは難しい。いつも長けている方が居るとは限らないのでどうしようかという事であったが、内部制作でいい場合にはオフィスのソフトなども使えるし、パワーポイント等も使えるのでよい。Officeであれば皆さんでデータを共有して確認できるという良さもあると思う。プロが使用するものもあるが学校使用には高くても向かないので、皆さんのお持ちの物を上手く使って作成するのがいいかと思う。それから、担当が4月からなので引き継いでいきなり先生紹介などを作るには時間が足りないというお話もあったが、一号だけはひな型を作って置いて新しい先生のところだけ書き加えるということをしてもらってもいいかもしれない。

オンラインディスカッション②

「次号で挑戦したいこと」

「広報活動で改善したいこと」

20分程グループで懇談した後2名の方に話し合った内容を発表していただいた。

講師より

興味を持っていただきたいテーマということで話が出ていたが、ヒントになるかと思うのは、アンケートを取ってどんなニーズがあるのか確認するのも手なのだが、私の経験からとても喜ばれた企画があったので紹介したい。それはOB,OGを後追いた取材でそれがとても面白かった。皆さんの先輩が今ドイツで活躍しています！とか。それは私たちが会って取材するのも楽しかったし、中学生の頃は実は成

績はそれほどでもなかったのに、今はドイツのオーケストラでソリストやっているなどのお話は読んだ子ども達にもとっても希望を感じてもらえるような内容だと思う。自分達も知りたい学校の意外な一面など自分達で発掘し取材した情報はどこに載っていないので掲載する事はとても価値があり、やりがいもある。ぜひ足で稼いで、地元のことや学校に関わることを何か取材していただくといいかと思う。

最後に

余裕があればこんなことに気をつけるとワンランク上の紙面になるかと思う事を紹介したい。パワーポイントで作る際、写真の切り抜きやまわりこみなどを使うと、見た目にもちょっとワンランクアップしたような誌面になる。また Office で作っている学校だと余分なスペースを使わなくて良いように角を丸くすると見映えもよい。また、情報の大小に合わせた書体や色を使う。重要度の大中小に合わせて文字の大きさ、スペースなども考えて配置するとよい。AI を試すのもいいと思う。アイデア出しや参考の文の書き方などで生かせることもあるかもしれないので上手に使うとよい。文章役立ち情報として、Z の法則（人間の視線の動き方）や赤の法則（人間の視線は赤を第一にキャッチする）また、写真を使うことも多いと思うが肖像の立った写真は目に留まりやすいので、子どもの表情の写真を載せられるような工夫があると良い。外国人も増えたので、見出しだけでも大事なことだと伝えるために、優しい日本語や多言語を意識してもらえるといいと思う。

広報委員の皆様の個性を反映できるような紙面作りをすることで、PTA の魅力について親しみも感じてもらえる。忙しい方が多いので、情報は濃縮し会員のニーズに沿って充実した読後感を意識する。何か一つでもよいので、皆様にしかできない、新しい広報活動に挑戦してもらい、次年度の後輩に伝えてもらいたい。

以 上

セミナー名	中学校地域委員
日にち	5月24日(水) 13:30~15:00
参加人数	8人
講師	うさぎママのパトロール教室 主宰 武田 信彦氏

 ●●● 内容 ●●●

地域委員を対象にした本講座では防犯を中心に、どのように地域で子どもたちを守る環境を作っていくかについて講義する。

武田氏の専門分野は「市民防犯」である。聞きなれない言葉であると思うが、市民防犯とは、一般市民ができる防犯という意味である。すなわち、一般市民としてどのように地域を守るか、一般市民としてどのように自分の身を守るか、地域と個人という二つの領域がある警察が行う防犯との大きな違いとして、警察は犯罪を止めたり、犯罪を取り締まったり、いわゆる権限や力の行使を含む犯罪抑止が専門である。私たちが行う見守りや地域の防犯は環境づくり、つまり犯罪防止の分野で区切られており、市民防犯を正しく理解することは、地域の防犯を担ううえで重要となり、安全に活動する基礎となるとご理解いただきたい。今日は市民防犯の視点の、特に児童生徒を守る方法についてお話を聞いていただければと思う。

武田氏は防犯ボランティアや教員向けの研修、子ども向けの防犯セミナーの実施のほか、国からの依頼を受けて、子どもたちの防犯に取り組むための様々な資料への助言を行っている。資料は無料で使えるものもあるので、下記 URL を参考いただきぜひご活用いただきたい。

うさぎママのパトロール教室
<http://www.usagimama.com/>

警察庁「犯罪被害等防止マニュアル」(リーフレット・動画)
https://www.npa.go.jp/bureau/safetylife/keihatutu_ru/index.html

文部科学省「登下校見守り活動ハンドブック」
<https://anzenkyouiku.mext.go.jp/tougekoumimamori/index.html>

(公財) ベネッセこども基金「子どもの安全安心ハンドブック」

<https://blog.benesse.ne.jp/kodomokikin/support/useful/2020/03111425.html>

なぜ子どもの防犯対策に PTA の見守りや、子ども 110 番といった地域防犯が不可欠なのか。犯罪が増えているからというわけではなく、子どもが子どもだけになりやすい社会だからである。中学校 PTA が地域で見守りをされる場合は、小学生の安全の見守りもされるはずなので、小学生が普通に街を歩く社会だから見守りが不可欠だということをもう一度ご確認いただきたい。そして悲しい話であるが、どこで犯罪が起きるか分からないという難しさがある。明るくて人も優しい穏やかな街だからといって、犯罪が起きない保証には全くなならないというところが、防犯対策の難しさである。数字だけでは評価できないのが防犯活動である。特に中学生になると、小学生に比べて行動範囲、行動時間が広がっていく。子どもだけになりやすい環境は、中学生の生活の中に当たり前のように生じており、どこで犯罪被害リスクが起きるか分からないという難しさは絶対忘れていただきたくない。

警察庁が発表している資料によると、人通りの少ない道路、駐車場駐輪場（待ち伏せされやすい）、公園（中学生は夜間が多い）、集合住宅の共用部分（自分の家のまわり）で子どもの犯罪被害が発生するケースが多いとされる。これらの場面に共通しているのは、子どもが子どもだけになる瞬間に、犯罪被害が重大化する傾向があるということである。子どもや女性を狙う犯罪に関していえば、人の目があると実行しにくいという特徴がある。この場所が危ないという言い方ではなく、子どもが子どもだけになりやすい瞬間こそ注意が必要という考え方が極めて重要である。ドアを開けて閉めるまですべて防犯対策が必要であり、聖域を設けてはいけない。子どもを子どもだけになるべくしないように、ゆるやかでもいいので見守りをしよう、街の中にいる方は子どもに目を向けてくださいというのが、PTA 活動の根拠になる。

子どもだけにしない環境づくりは、一人ではできない。地域の力、保護者の力、子ども自身の力が必要になる。その中でも、これらの力を重ね合わせられるのは誰かと考えると、きわめて限られた人にしかできない。それが、保護者でもあり、地域活動団体でもあり、子どものことも分かる、PTA の皆さんである。すべての世代の人たちをゆるやかにつなぎ合わせることができる、コーディネーター役としての PTA の社会的意義こそが、子どもたちを守るきわめて強い力である。ゆるやかに各方面に顔が利き、巻き込み関わることができ、PTA と言えば話を聞いてくれる、皆

さんの立ち位置は人生の中でも貴重な立ち位置であるということは覚えておいていただきたい。

子どもの一番強い防犯対策は、大人の付き添いである。そばに大人がいることで、犯罪の気持ちを持つ人が近づけなくなる。中学生であっても付き添うことは決して過保護ではない。不安を感じたときは付き添ってあげていただくと、大人が横にいることは中学生でも、大きな防犯力になり得ることはぜひ覚えておいていただきたい。ただ大人が付き添うことは社会生活上限界がある。PTA を含めた地域の皆さんが見守りをする効果は、子どもに「気をつけて」と声を掛ける姿そのもので、犯罪の気持ちを持った人間が近づけない雰囲気を作ることができる。それこそが市民防犯の力、自然監視と呼ばれる安全バリアである。

具体的に何が PTA としてできるのか。まずは見守り、腕章やジャンパー、パトロール車を使い、街の中に人がいることが一番の防犯対策である。人が、人の悪意や犯罪の気持ちを止める力となり、助け合いの力も発揮できる、人に勝る防犯はない。ただ、なかなかそういったスタイルでの見守りが難しいという意見もある。だから今は、生活に合わせた見守りの方法が広がっている。それが「ながら見守り」である。パトロールプレートを自転車の前かごに着けたり首から下げたり、犬を飼っている方は散歩に合わせてパトロールを行うことも効果的である。

パトロール等でなくても防犯力は高められる。それが情報発信である。先ほどご紹介した資料も活用いただき、皆さんの側から広く一般会員の方に啓発いただき、保護者の意識を高めていくことも大事な防犯活動である。さらに PTA ができる強みとして、地域のゆるやかな連携を育むことができる。子ども 110 番の家を元気にしたり、児童生徒との顔合わせをしたり、ありがとうを言い合える環境を作っていくことで、見守り助け合いの力が広がっていく。

また、防犯講座などを企画したいという時は、家庭教育学級の枠組みで、武田氏のような代理講師を呼んでプログラムすることができる。今日のようなお話を親子や保護者向けに分かりやすくプログラム実施できるので、外の活動ばかりでなく、学校の中や PTA の研修会の企画にも取り組んでいただきたい。

今までは PTA や地域ができることについてお話ししたが、児童生徒だけになる瞬間があるので、自分を守る力を引き出す必要もある。これに関して、武田氏が執筆した中高生向けの具体的な防犯ブック（『活かそうコミユカ！中高生からの防犯』ペリかん社）を使って、生徒の防犯力の高め方のヒントをお話しする。護身術や防犯ブ

ザーという前に、観察力や距離感といった、すでに学校や家庭で身につけているコミュニケーション力が、防犯でも非常に重要となる。

そこで一番大切になるのが、観察力と想像力である。まわりに対して意識を向けること、関心を向けること、そこに加えて、隣にいても自分とは感じ方や考え方が違うという想像力を持つだけで、学校内や街の中でトラブルが回避できる力になる。歩きスマホなどでまわりへの意識が低くなりがちな今だからこそ、簡単だけどすぐ忘れてしまう力を繰り返し伝える必要がある。観察力を言い換えると予防力となるが、具体的にどのような効果があるかという、車のミラーのような役割である。

「危ない」「人がついてきている」とまわりに意識を向けることで、リスク回避が早くなる。それから、しょっちゅう後ろを向いているような人は、もし近づいたら大声を出されてしまうかもしれない、逃げられるかもしれないと、コントロールできないと思わせる力がある。

距離感には身体の距離感と、心の距離感の二種類がある。身体の距離感は、人の腕の長さから犯罪が重大化していくので、触らないコントロールされない距離感を知ること、コロナ禍においてのソーシャルディスタンスの考えが有用となる。心の距離感、誘いやお願いに負けない、個人情報さらさない伝えないことである。身体をコントロールされないことと、心をコントロールされないことが、防犯上極めて重要である。

身を守る道具として、防犯ブザーがある。その効果をまとめると、声が出ないときに代わりに「たすけて」を伝える役割と、大きな音で相手をひるませて、逃げる時間を作る役割がある。中学生になると防犯ブザーの携帯率がガクンと下がるが、大人にとっても子どもにとっても合法的に持ち歩ける唯一の道具であるので、中学生でもぜひ携帯いただきたい。

それから中学生の皆さんに行っていることは、「たすけて」をいうことは恥ずかしいことではなく、護身術であるということを伝えている。早めにピンチであると伝える、相談する。日本は相談窓口が年々増えてきているので、まわりの方に相談できなくても、相談窓口でメールやラインで相談できると伝えることも、護身術となる。

最近悲しい話として、闇バイトを通じて、結果的に犯罪に加担しているという事件が目立っている。犯罪に巻き込まれて自分やまわりの人生に大きな影響を与えることを防ぐという意味では、犯罪をしないことは立派な防犯である。犯罪に加担するかもしれないという場合も警察に相談することができるので、絶対にあきらめないで相談いただきたいと思う。

前半で見守り助け合いの大切さ、後半で自分を守る力について話をしてきたが、どちらにも共通するのは、特に中学生に対しては、価値観形成に重要な時期に間違えた防犯を伝えてはいけないということである。人を守ってあげる価値観を、PTA活動を通してメッセージとして伝えてあげることが極めて大事である。暴力や差別、分断が生まれないためにも、安全な防犯指導の意識をもってご活動いただきたい。今、大人の姿を見て育った中学生をはじめ、高校生や大学生や専門学校生の皆さんが、今度は小中学生を守る防犯ボランティアに参加しに来てくれている。子どもたちと接するときには、大人ってどのような価値観や考えで内をやっているのかを、中学生は活動を通して見ていると意識いただくと、モチベーションを上げやすくなるのではと思う。

【ブレイクアウトルーム】

ここでブレイクアウトルームを用い、30分程度情報共有を行い、セミナーの最後に質疑応答の時間を設けた。

【質疑応答】

・通学時に事故の現場に出あわせてしまったときに、どのような対応をとるべきか。過去にあったときは生徒が学校の先生を呼びにいった対応したが、もしそういったときに私たち大人ができること、PTAとして伝えた方がよいことがあれば教えてほしい。(受講者)

←一番いい方法はおっしゃったように、自分で解決せずに、対応できる人につながることが解決につながるという知識をプレゼントすることである。難しいのが、中学生に対処方法を教えてしまうと、やらなければいけないと思いこんでしまう。無理して対応して、中学生の方が危険な状況になるケースもないとは言い切れない。まず自分の安全をしっかりと確認し、全部自分でやろうとせずに対応できる人に伝えてあげることが、助けてあげることにつながると言っただけならば十分である。もし大人が目撃した場合は、110番していただければよい。標識か電信柱さえ見つければ、管理番号で現在地を伝えることができるので、すでに誰かが通報したとしても、自分でもう一度110番してもよい。(講師)

以 上

小学校、中学校会長・副会長研修 資料

3本の『や』がなくなれば PTAはハッピーに！

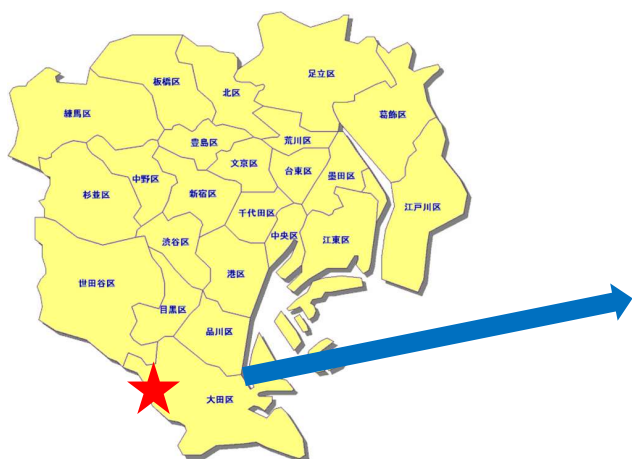
～嶺町小学校PTOの取り組みについて～



東京都大田区立嶺町小学校PTO前団長 星 義克

杉並区立小中学校PTA活動セミナー
2023年5月22日(月)

大田区立嶺町小学校について



- ▶ 学校のすぐそばを多摩川が流れる
- ▶ 町工場の点在する住宅地に立地
- ▶ 中・大規模マンションの増加により、児童数が増加中
- ▶ 児童数：863名 学級数：27学級（2023年4月現在）
- ▶ 給食の「あげパン」発祥の学校です！

嶺町小の特色ある活動



▶ 思いきり遊び



▶ 多摩川活動

嶺町小PTOの歴史

▶ 2012年度まで：どこにでもある、ごくフツウのPTAでした.....

▶ 2013年度：PTAの改革に向けた取り組み開始！

▶ 2014年度：お試しPTO（試行期間）

▶ 2015年度：PTO正式発足！（規約等の改定）

▶ 2016年度：

▶ 2017年度：

▶ 2018年度：

▶ 2019年度：

▶ 2020年度：

▶ 2021年度：

▶ 2022年度：

▶ 2023年度：

▶ 今年から6代目の団長にバトンタッチしましたが、少しずつ工夫・改善しながらボランティア制での運営を継続しています

初

初代団長：山本氏の著書です
興味のある方はぜひご一読を！

2

3

4

5

6



嶺町小PTA時代のブラックないろいろ

- ▶ 年度初めの**沈黙の保護者会**
 - ▶ 各クラスの委員が決まるまで、いつまでも帰れない！
- ▶ 会社の**有休を使ってベルマーク活動に動員**
 - ▶ 時給換算約200円の作業に有休取得「お金を払うからやめさせてほしい.....」
- ▶ 小雪の降る中、**赤ちゃんを背負って古紙回収に参加**
 - ▶ 子育てしたお母さんなら、このツラさ、分かりますよね？
- ▶ 会議などに**子連れの参加はご法度**
 - ▶ PTAって、子どもたちのための組織じゃありませんでしたっけ？
- ▶ 役員のなり手不足：**推薦(選考)委員の精神的負担**
 - ▶ 電話をかけると罵声を浴びる、帰宅するまで自宅前で待ち伏せ.....



PTAがブラックなのはなぜだろう？

- ▶ 多くの学校のPTA規約にある次の条文

第〇条 会員はすべて**平等の権利**と**義務**を有する。

- ▶ 『**平等の義務**』によって生まれる3本の『や』

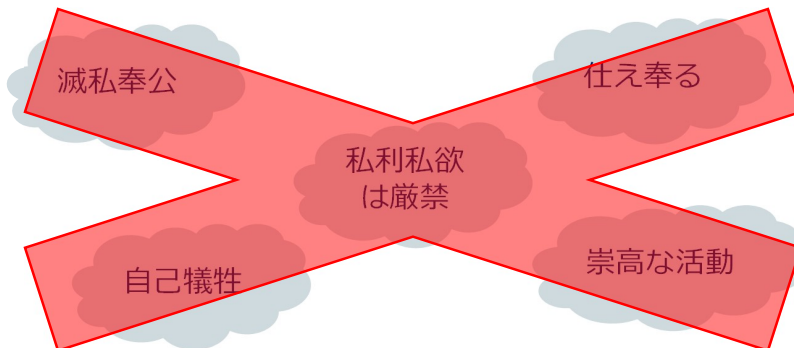
『や』らないといけない = **義務感**
『や』らされている = **強制感**
『や』らない人がいる = **不公平感**

**3本の「や」がなくなれば
PTAはハッピーになる！**

入会を拒否する人もゼロ！

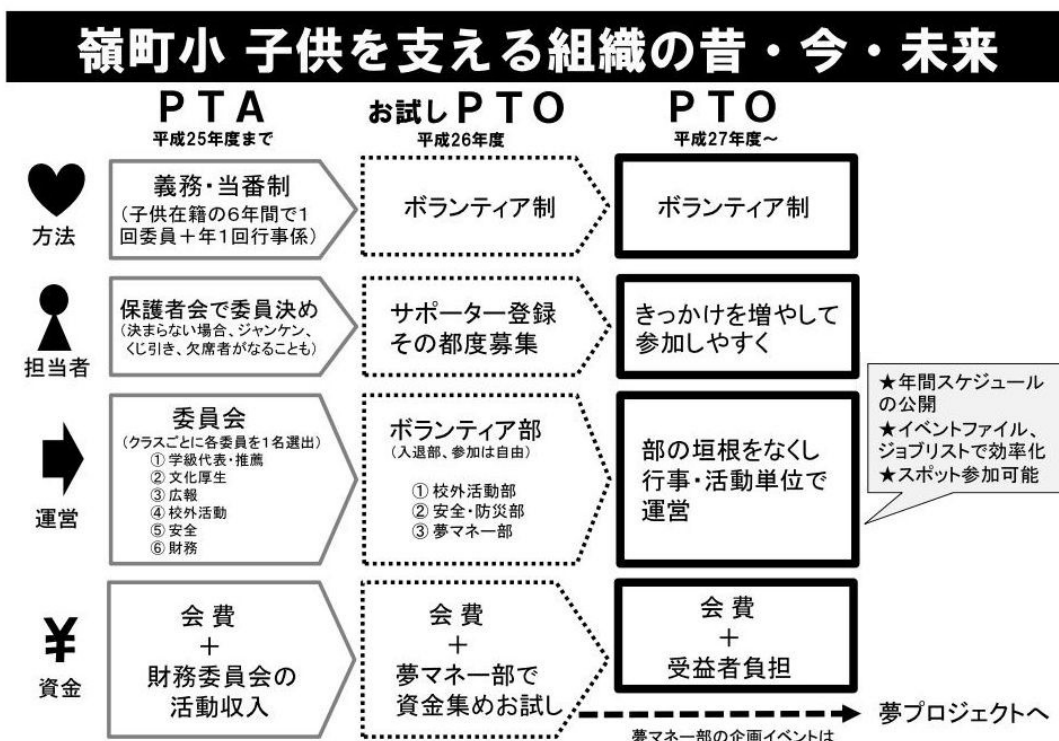
そもそも「ボランティア」って何？

▶ ボランティアの一般的な日本語訳 → 「奉仕活動」「慈善活動」「無償奉仕」



- ▶ ラテン語 voluntus が語源
- ▶ 本来の意味は「自由意思」「志願者」「有志者」
- ▶ 自発的に「やりたいからやる」のが、本来のボランティア！

完全ボランティア制のPTOへ！



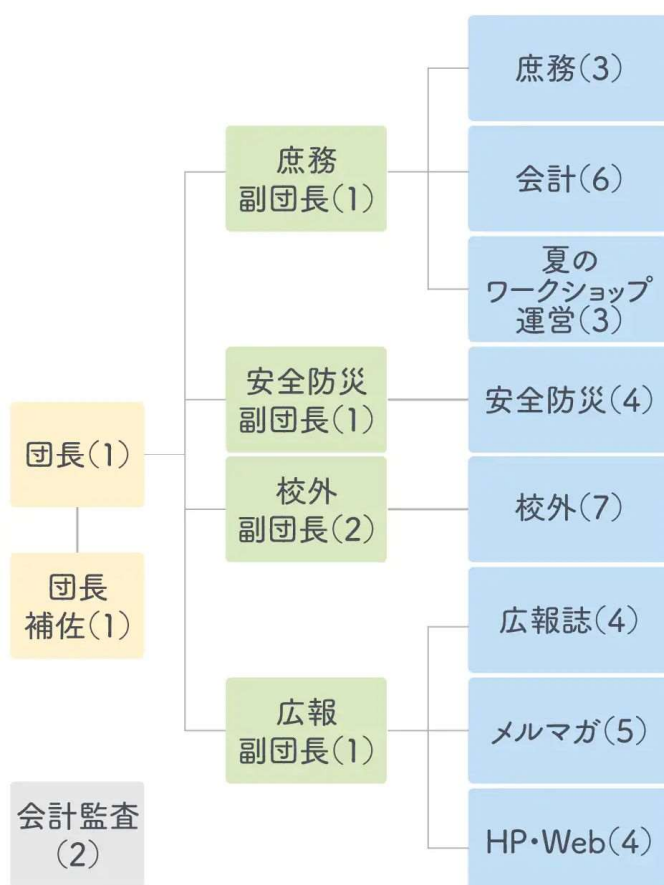
名称も工夫してマイナスイメージを払拭！

- ▶ PTA (Parent-Teacher Association) → PTO (Parent Teacher Organization)
 - ▶ PTOの「O」は、応援団の「おー！」
- ▶ PTA会長・副会長 → PTO団長・副団長
- ▶ 役員会 → ボランティアセンター (通称ボラセン)
- ▶ 行事係 → サポーター



**合言葉は
できるひとが
できるときに
できることを**

嶺小PTO ボラセン組織図



サポーター募集の方法

- ▶ お手紙を配布して募集を告知
- ▶ 応募はHPの申し込みフォームから
- ▶ 紙での申し込みがなくなり事務効率UP！
- ▶ メールアドレスを取得できるので、サポーターへの連絡が迅速・簡便に！
- ▶ お手伝いの期間・内容の明確化がポイント！
- ▶ 参加のメリットがあると応募者数UP！

令和3年7月1日
大田区立瀨町小学校
PTO団長 星 義克
ボランティアセンター庶務

家庭教
PTO会員の皆様へ



親子一緒に
夏休みいきものがかり募集

瀨町小学校では、カメを3匹・ウサギを1匹飼育しています。
夏休み中にこの生き物たちのお世話（えさやり、そうじ）をしてください

親子サポーターを募集します！

期間：7月22日(木)～8月31日(火)
作業時間：30分～1時間程度

このサポーターは親子で行うお手伝いで、低学年の子も参加できます。
未就学児の兄弟姉妹は、保護者のもと安全に十分に注意してください。

**保護者同伴でできる方を募集します。お申し込みは、
うさぎを抱えてしっかり持てる方、かめやうさぎを好きな方**をお願いします。

- サポーター希望の方は右のQRコードより登録フォームへアクセスし、いきものがかりを**できない日程**を選んで（複数日OK）お申し込みください。
- 作業時間は10:00～15:00の間に登校して16:00には終了してください。
- 原則1日1組の親子サポーターで作業していただきます。
- お友達と一緒に担当を希望される場合はコメント欄に“〇年〇組〇〇さんと一緒にサポーター希望”と入力してください。
- 申し込み後に変更したい場合は、最初から登録し直してください。



登録はこちらから！

申し込み締め切り 7月11日（日）

※日程調整の関係上、締め切り後の申し込みは無効とさせていただきますので、ご注意ください。

お申込みいただいた方には、実際に作業をしていただく日程や作業方法を7月19日（月）までにメールでお知らせします。

どうぞよろしく～ 

お問合せ先：ボランティアセンター庶務 minesho.pto.shomu@gmail.com

ボラセンスタッフの募集


- ▶ お手紙を配布して募集を告知
- ▶ 次年度の参加方法の希望を紙で全員提出
- ▶ 選択肢を工夫して意思表示をしやすく！

ボランティアセンタースタッフをやってみたい
知り合いと一緒になら、ボランティアセンタースタッフをやってみたい
ボランティアセンターに興味はあるが、不安もあるので、話を聞いてみたい
e.g. 平日は仕事がある、未就学児がいる など
PCが得意なので、PC作業なら引き受けたい
ボランティアセンターではなく、サポーターとして協力したい
その他（

- ▶ 少しでも興味のある方に説明会を開催
- ▶ 有望な保護者にスタッフからも声掛け

令和3年10月4日
大田区立瀨町小学校
PTO団長 星 義克
ボランティアセンター庶務

家庭教
PTO会員の皆様



**令和4年度 PTO
ボランティアセンタースタッフ募集！！**


皆さんの気持ちを教えてください！

会員の皆様には日頃よりPTO活動にご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。
瀨町小PTOは、「できる人が できるときに できることをやる」を基本概念にすべての活動をボランティア(サポーター)制で運営しています。その活動の調整・運営・広報を担うのが、ボランティアセンターのスタッフです。今年度も来期のスタッフ募集の時期がやってきました。PTO会員1人1人がどのような思いでPTO活動に参加していきたいかをお聞かせください。あなたのお気持ちに近い欄に○をつけてご提出ください。

また、この人に是非やってほしいという方がいましたらお名前を教えてください。

【事前に、個別にお話を聞いてみたい、という方】
ご提出前に、簡潔にこと、不安に思っていることなどありましたら、メールでお問い合わせください！

【お問い合わせ先】
PTOボランティアセンター 庶務担当
minesho.pto.shomu@gmail.com



※ 切り取り ※

【締切】10/11(月) 全員提出

①ご自身のことについて下記いずれかに○をつけて、必ずご提出ください。

私は、

() ボランティアセンタースタッフをやってみたい

() 知り合いと一緒になら、ボランティアセンタースタッフをやってみたい ※②にお知り合いの名前をご記入下さい

() ボランティアセンターに興味はあるが、不安もあるので、話を聞いてみたい

() PCが得意なので、PC作業なら引き受けたい

() ボランティアセンターではなく、サポーターとして協力したい

() その他 ()

②あなたのまわりに、この人にボランティアセンタースタッフをやってもらいたいなあと思う方はいませんか？
ぜひ、その方のお名前を教えてください。

クラス	児童氏名	保護者氏名	推薦理由
第2-1	磯村太郎	磯村太郎のお父さん	パソコンが得意だから

やってみたいと思われた方、話を聞きたい方、推薦で名前が挙がった方には、改めてお手紙にてご連絡いたします。活動内容や方針等について説明・相談の場を設け、来年度の候補者を決定していきます。（ご本人の意思を大切にいたします）

※誰がどなたを推薦したかなど応募内容や個人情報は厳守いたします。
※この票を内側に2つ折りにし、箱をセロテープ・ボンドキスなどで止め、担任の先生にご提出ください。

ボランティアセンター(ボラセン)大解剖!

スタッフって大変そう...って思いませんか? 現スタッフも最初はそうでした。でもやってみたら、予想外な充実感! 説明のPTOは大人も楽しめちゃうんです!

▶ ボラセンの活動内容をできるだけ「見える化」

▶ 「ちょっとやってみようかな?」「ちょっと興味があるなー」と思ってもらう工夫を!

▶ 個人個人の「得意な事」が発揮できるように

ボラセンスタッフになったきっかけ

- 既入してきたばかりで知り合いが深かったし、完全ボランティア制のPTO活動に興味があった。
- 仕事もあるし未就学児がいるけど、私にできることをやることでPTOが続けられないな...と思った。
- 自分子どもはもちろん、地域の子どものために何かしてあげたいな...と思った。

ボラセンってこんなところ

- たくさんの新しい仲間に出会えるのが最大の魅力。大人になってこんな素敵な仲間に出会えるなんて!
- 子どもの成長につれ、少し時間の余裕がでてくる頃。パソコンを使ったり、仕事の段取りを考える担当もあるから、仕事復帰のリハビリにも。
- 学校の様子がよくわかるし、学校で子どもと会えるので、低学年の保護者には特にオススメ。
- 保護者の中心で超頑張るリーダーを演じてもらえちゃう! 学校、地域、子どもたちと一緒に自分も楽しんじゃうのが大切。
- 得意な分野をみんなで役割分担しているから、色々な角度からなんでも言い合えて仲が深まります。自分がやりたいことを発言・実現できるのも魅力。

ボラセンのウソ・ホント?

- ❌ ①集まりが多い
ボラセン全員が集まるって声をかけたのは最初の顔合わせのみ。その時右全員集まらなかった("日")担当によって月2回集まることもあるし、学期に1度も集まらないところもあります。
- ❌ ②すべてのイベントに参加しなければならない
そんなのありえませんが! イベントごとに参加できる・できないを確認し、希望するイベントに参加します。一人ひとりのキャラに合わせて活動できます。
- ❌ ③ママだけでなくパパもいる
パパの入る隙がない...なんて思っていますか? 学校に集まらずに、メール・LINEでやり取りする担当もあるボラセンにはパパさんおられます!
- ❌ ④何でもできる万能プレイヤーが揃っている
まさか! 前向きな人は多いですが、「人前で話すのは×」「PC作業×」など、苦手なことは得意な人にお任せします。
- ❌ ⑤パソコンができないと無理でしょ? ×
パソコンを使う担当もありますが、LINEが出来ればOKという担当もあります。LINEが出来れば大丈夫。
- ❌ ⑥みんな仲が良い
色々な人たちの集まり。だからこそ楽しい。

裏面にもボラセンの活動内容、本音がいっぱい載っていますよ!

ほんの少しでも興味をもたれた方はぜひお話を聞きに来てください!

	団長	会計	会計監査	庶務書記	安全防災
活動内容	主に学校との連絡・相談、ボラセン内の活動の全体管理、地域・他校のPTAとも連絡を取り合い、親睦を深めたり、問題点を相談し合い、楽しく毎週集まる活動になるように実践してまいります。	PTO加入、会費のとりまとめ、出納管理、年2回の決算報告を担当。会費引寄せなどの作業が終わると集まりが減り、1か月に1~2回程度学校へ行きます。	年一回、会計担当の決算報告が正しいかチェックを行います。	平均月1回ほど、印刷などで集まる顔を合わせています。打ち合ははメールやLINEで済むことが多く、発行するお手紙は各自が家で分担しています。サークル・サポーターの窓口も担当しています。	運動会のサポーター募集、シフト作成の時は週に1回ほど集まったり、LINEで連絡事項を通知します。学期ごとにマメ出し・交通安全見守り募集のお手紙を発行します。4月・6月頃の方との合同パトロールがありすが、今年はコロナで中止になっています。夏休み中の放課後パトロールも中止となっています。
オススメな人	学校、地域、人が好きな人。話をすることが好きな人。	年度初めと年度末は細かい作業があるので、細かいことが好きな人。	数字に強い人、電卓を打つのが早い人。	平日昼間に少し時間がとれる人。簡単なPC作業ができる人。学校での子どもたちの様子を感したい人。	子どもの安全と防災に関心のある人。PCでの作業やサポーターさんとのメールのやり取りができる人。
実際の声	保護者、先生、子どもたち、地域の人たち、みんなと仲良くあれ、知り合いが増えても増えます。	知り合いが増えました。会費引寄せなど色々な作業もみんな協力し無事に終わって達成感があります。	大きな活動は年2回行けるので負担も少なくボラセンを知るいいきっかけになりました。	知り合いが増え、学校や地域のことがよくわかるようになったのが嬉しいです。	サポーター募集の際はちゃんと集まるのかな?と心配になりますが、毎回たくさんの人が参加してくれて安心になります。地域の力が子どもたちの安全を支えてくれていることがわかり、嬉しくなりました。

校外	広報		
	広報誌「Fun+Fan」	メールマガジン	Web管理
学校外のイベント開催を通して、子どもたちの思いや願いをお手伝いします。可憐な地域の様子や、保護者の声、子どもたちの声、写真撮影・インタビュー、記事作成・レイアウト、文章作りを担当しています。基本的なやり取りはメールやLINEで行います。あとは学校印刷・配布するだけです。	学期に1~2回の頻度で発行。発行の進捗はど前から家でパワポイント等で作成します。写真撮影・インタビュー、記事作成・レイアウト、文章作りを担当しています。基本的なやり取りはメールやLINEで行います。あとは学校印刷・配布するだけです。	PTOのメールマガジン「みんちゃん通信」の不定期発信。PTO行事などのお知らせや報告、サポーター募集などをこまめにタイムリーにお届けできるのはEメールならでは。時には学校の裏話などを取材して記事にすることも。自分のペースで原稿を作り、やり取りはメールやLINEがメインになります。	PTOホームページの記事更新・管理維持、メールマガジンの配信など。作業は繁忙期だと週1回、閑散期なら月2回程度。PCとネット環境のある場所で行います。
子どもたちの笑顔のために企画。準備からかわりつたい。普段は忙しい中でも、当日だけのお手伝いや事前準備・宣伝のお手伝いだけでも大歓迎です。	ボラセンに興味はあるけど、お仕事をしたい学校になかなか行けない方。文章を書くのが好きな方。印刷以外事前準備・宣伝のお手伝いだけでも大歓迎です。	皆さんの学校生活が少しでも楽しくなる情報を発信するため、いつかボラセンを集めています! (笑) 読者の皆さんからの「メールがない!」の声を私たちの原動力です。	WordPressを使ってブログをとるのが好きな人。WebやPCが好きで、得意な人、お待ちしています!!
子どもたちの笑顔と近くで居ると自分たちも笑顔になります。地域の方々のつながりが深まります。子どもたちの思い出と私たちの思い出を。	フルタイムで仕事をしていますが不安でしたが、思いがけず休みの日に作業が出来たのでやりがいがたくさんありました。少しでも学校や子どもたちにかかわることができて嬉しかったです。		先生とたくさん話したり、知り合いが増えたことがよかったです。

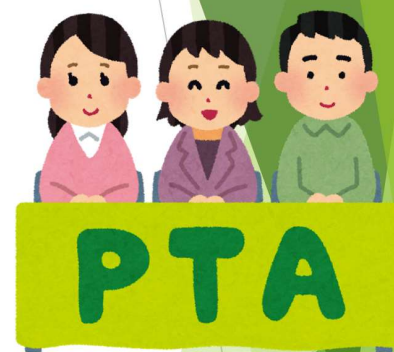
よくあるご質問

- ▶ ボランティアで人は集まるの??
 - ▶ 必要なら集まる! 集まらないなら活動の見直しを!
- ▶ 「やらない人がいるのはズルい!」という声には??
 - ▶ やりたい人が活動すれば、そのような声は生まれません!
- ▶ PTAの上部組織からも脱退した?
 - ▶ 大田区の小P連に加盟中、情報交換できるのが最大のメリット!



ハッピーなPTAに変わるために必要なこと

- ▶ ビジョンを共有できる仲間を増やそう！
- ▶ 学校・地域のキーパーソンの理解
- ▶ 本当に必要な活動への絞り込み
- ▶ 活動に参加する保護者自身が楽しむこと！



できるひとが
できるときに
できることを！

ご清聴ありがとうございました

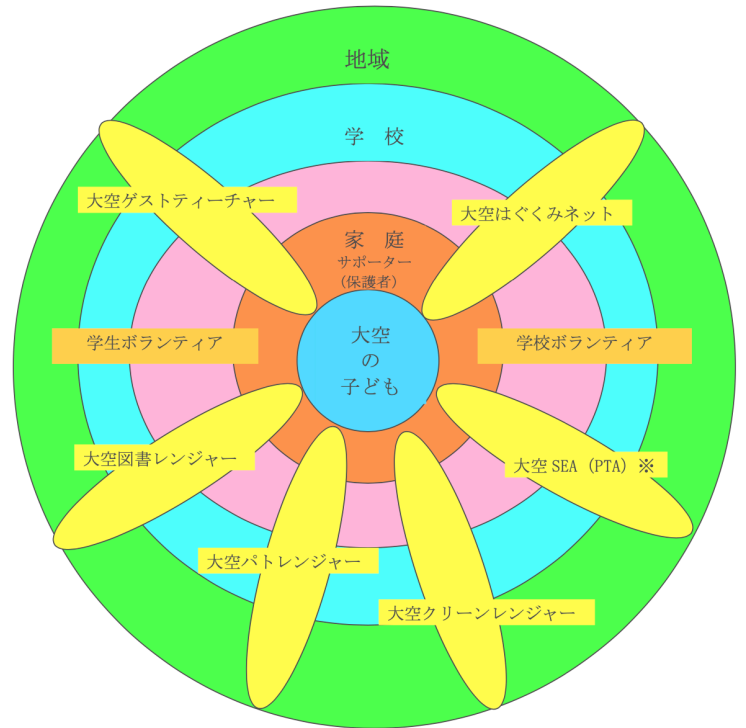
- ▶ 興味のある方は、以下の記事もご参照ください！

東洋経済ONLINE 『義務感、強制感ゼロ「PTAをなくした」学校の実際』 (2022/1/19)
<https://toyokeizai.net/articles/-/501165>

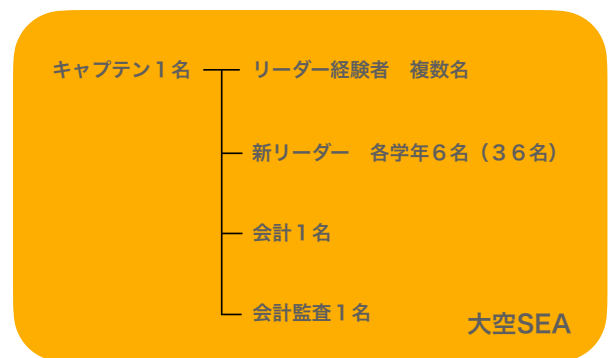
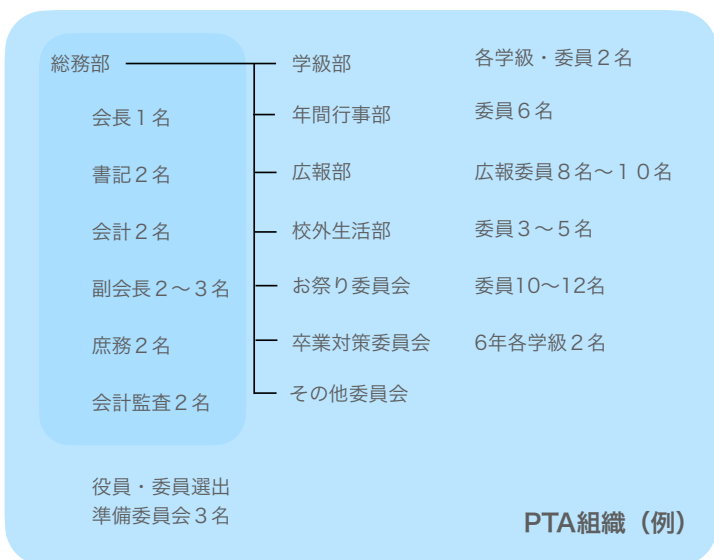
テーマ研修 資料

PTAにとらわれない 自由な組織づくり ～大空小学校のケース～

大阪市立大空小学校 元大空SEAチーム



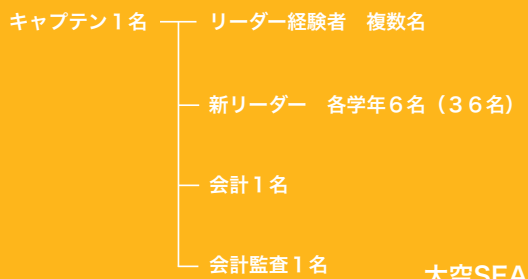
組織



常置委員会を設置せず、活動はリーダー会議を中心に企画・実行

リーダー会議：1～2ヶ月に1回程度

活動は、プロジェクトチームを組み、サポーター（保護者等）に広く参加を募るプロジェクト方式に寄って企画・実行



SEA (PTA) 活動

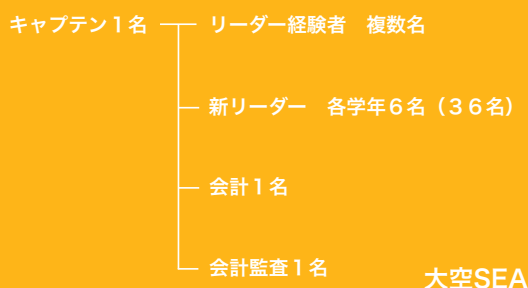
「だれもができる みんながつくる SEA活動」

「できる時にできる人が無理なく楽しく」

SEAとは **Supporter**(支える人) **Educator**(教える人) **Association**(組織)の略で、**P**(親だけじゃない) **T**(教師だけじゃない)、保護者、家族、地域、教職員、ボランティアなど、様々な大人が子どもとともに活動します。

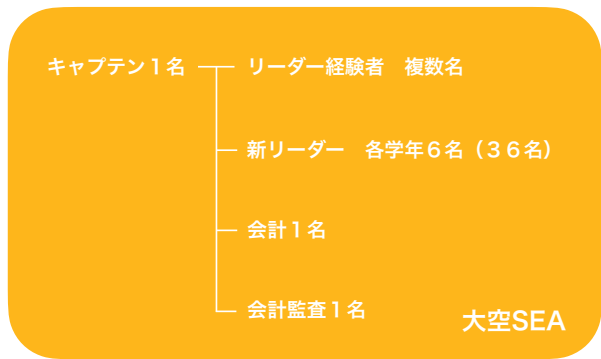
会員全てが支える人であり、教える人だけではなく共に学び合う人としてSEAサポーターとなり、様々な活動を支援していきます。

常置委員会はなく、イベントなどはプロジェクト方式をとり、スタッフはSEA会員から募集します。



令和3年度の活動

学校行事 ・地域行事	ラジオ体操の企画。(新型コロナの影響で中止) 入学式への参列。
巡視	月1回のパトレンジャーミーティング 「投稿・帰宅時見守りカレンダー」 の毎月作成、印刷、配布。
書記	リーダー会議の議事録作成、印刷、配布。
区PTA	月1回の実行委員会への参加。
ベルマーク	ベルマークの集計、送付。在宅での集計活動。 テトラパックの整理。
広報	広報紙「かけはし」の作成、印刷、配布。 (年5回発行)
取りまとめ	学校との連絡・確認。 必要に応じてリーダーのLINEにて発議を行いました。 卒業記念品のハンガー・卒業式のお花購入。 各種文書作成、印刷、配布。
会計	必要に応じて支払い、払込み。会費の管理。



令和4年度の活動計画

月	SEA活動	学校行事
4月	SEA決算予算総会	入学式
5月	春のイベント	大空ふれあいフェスティバル
6月		創立記念コンサート
7月	夏のイベント、ラジオ体操	
8月	地域盆踊り参加、ラジオ体操	
9月	ベルマーク整理	
10月	ふれあいランチタイム	大空スポーツフェスティバル
11月	秋のイベント、 地活協「えーまちフェスタ」参加	大空ふれあいコンサート
12月	来賓用ブローチ作成	
1月		
2月	ベルマーク整理 住吉区民文化フェスティバル参加	ありがとうコンサート
3月		卒業式

小学校、中学校会計担当役員研修 資料

まずは、会計の原則を知ろう！

各単位 PTA でのやり方については、ここでの内容を踏まえて運用してください。

文責：一般社団法人エス・プレイス(S.PLACE) 井上 尚子

はじめに

ここから PTA 会計の処理についてお話しします。

この内容は、PTA という任意団体における会計処理についてです。煩雑な会計処理を求めてしまうと、ボランティアである会計役員の皆さんへの大きな負担にもつながることから、原則的なことを踏まえながらも、運用面で簡潔にした内容も含んでいますので、ご了承ください。

このレジュメには、各所に「メモ欄」を配置しています。気付いたこと、書き残したいこと等を残してください。

PTA とは・・・わが子を含むすべての子どもたちが、豊かな学校生活や地域生活を送れるよう、保護者と教職員によって学校ごとに組織され、会員の総意に基づき自主的・民主的に運営される団体。それぞれの学校の PTA は、青少年団体や婦人団体などと同じく、「社会教育関係団体」と位置付けられています。社会教育とは、学校教育以外の教育を指し、多様な人々により多様な場やさまざまな機会で行われている教育です。(杉並区教育委員会 PTA ハンドブックより)

もくじ

PTA 会計の仕事

- 1) 予算の実行(入出金管理)
- 2) 記録を取って管理する(帳簿をつける)
- 3) 決算書の作成
- 4) 次期予算案の作成

5) 総会での報告

1) 予算の実行(入出金管理)



① 予算管理

* 予算とは、1年間のPTA活動(事業)を実行するための資金(収入と支出)計画である。

* PTAの活動と予算は連動している。


- ◇ 総会で活動計画を示し、活動に必要な予算を提示し、会員に合意を得る。
- ◇ そのうえで、活動に合わせた入出金管理を行う。
- ◇ 最後に決算報告をし、実際にどのように使われたのかを説明する。

② 予算の執行

- ◇ 各専門委員会にかかる費用は、本部会計が一括管理する場合と、各委員会に管理を任せる場合がある。支払の煩雑さを考えると委員会で管理してもらったほうが良いと思われるが、委員会会計担当を決めて、出納のルールを事前に説明することが必要。
- ◇ 各委員会の活動計画のもと、予算の執行を行う。
- ◇ 各専門委員会で管理する場合は、仮払いの書類でのやり取りをする(後述)。

メモ欄

(記録しておきたいこと、これから確認しようと思ったこと、講座中にひらめいたことなど…何でも書き残そう!)

2) 記録をとる 金銭出納帳、預金出納帳、備品台帳などに記入 

①金庫(小口現金)の管理

- ◇ 入金と出金については、必ず証拠書類と引き換えに行う。
- ◇ 金種表を作るなどして、現金残高は常に確認する。
- ◇ 帳簿(金銭出納帳)の残高と、実際の現金残高が同じか確認する。

②通帳の管理

- ◇ 帳簿(預金出納帳)の入金と出金が、通帳と同じか確認する。
- ◇ 帳簿(預金出納帳)の残高と、通帳の残高が同じか確認する。
- ◇ 通帳管理者と銀行印の管理者を別に定めるなどして、入出金の際は複数人で確認できる状況をつくる。

メモ欄

③備品台帳の管理

備品とは、使用見込年数が長期間にわたるもので、繰り返し使用できるもの。

企業会計等では、10万円以上で、耐用年数が3年以上のものなどという判断基準がある。

PTA 会計では税金が発生しないので、その定義と一致しないこともあるが、定義がまちまちだと混乱するので、定義を決めておいた方が良い。

例)「〇万円以上の物品は備品とする」など。

- ◇ 購入月日、種類、数量、金額、管理番号等を記入する。
- ◇ 見積書や納品書、保証書なども合わせて保存する。
- ◇ 備品の購入について、予算に計上していない高額な物品を購入する場合には、運営委員会(実行委員会)に諮り承認を得る。
- ◇ 各委員会から余った予算で備品を購入する要望が出て、その委員会だけで判断せず、本部会計と相談して決める。

メモ欄

④領収書の受取り方

- ◇ PTA の分は PTA の分だけで会計し、個人の買い物と混ぜないこと。
- ◇ 領収証を発行してもらうこと。レシートは補助的なもの。
- ◇ レシートをもらう時に、事前に「領収書とレシートの両方がほしいので、両方出してほしい」と伝える。
- ◇ 領収書の宛名は必ず「〇〇学校 PTA」と記載してもらう。
- ◇ 個人から受け取る領収書は「住所」「氏名」「内容」「朱肉印」が必要。特に講演謝礼など個人から領収書を受け取る場合は、浸透印(シャチハタなどの消える可能性ありのもの)ではなく朱肉印にて。
- ◇ 慶弔費など、領収証が発行されない支出については、その明細を残す。
市販の出金伝票を使用すると便利(パソコンで作成しても可)。案内状や会葬御礼などがあればそれを残し、相手がわかるようにする。※!
- ◇ ネット通販の時は領収書の宛名に注意(個人名にならないか事前に確認)する。※!

メモ欄

※I 領収書がPTA名宛ではなかった場合の対応策 (例)

〇〇学校PTA
会長 〇〇〇〇様

以下の添付にある費用は、PTA活動の経費として支出したことに相違ありません。

〇〇学校PTA〇〇委員会

委員長 〇〇〇〇 印

購入者 〇〇〇〇 印

支出年月日： _____

支出内容： _____

確認者 〇〇学校PTA 会計 〇〇〇〇 印

会計印

委員長印

担当者印

領収書

出金伝票

⑤領収書の発行の方法

- ◇ 通し番号を記入すること。
- ◇ 控を保存すること 複写タイプの領収書が便利。
- ◇ 記入間違いをした場合は切り取らず、大きく斜線を引き、折りたたんでステープラーで止めておく(無用な疑いをかけられないために)。

⑥銀行口座の管理

- ◇ 出来る限り振込みを使う。記録が通帳に記帳されるので、証拠として残しやすい。
- ◇ 支払いに関しても、一件、一件引き出す方法もある。帳簿をつけるのが楽になるが、ATMで時間がかかる。
- ◇ 通帳と印鑑は別々の人が管理し、入出金するときは二人で行くようにするとよい。
- ◇ 不便ではあるが、カードは作らないほうが危険は減理、盗難防止の意味もある。

メモ欄

⑦仮払いについて

- ◇ 申請書と精算書を必ず作成する。申請書兼精算書として一枚にするケースが多い。
- ◇ 申請書には、金額、承認印（例 会長と会計）、支出目的、領収日、申請者の氏名と捺印。
- ◇ 精算書には、精算日、支出内容、支出合計額、仮払金額、精算額、承認印（例 会計）支出と領収書が一致しているか確認する。

⑧帳簿や領収書の保管

- ◇ 最低でも 5 年以上保管する。ただし、PTA の場合は周年事業の積立金などとも関連するので、10 年間保管が望ましい。

メモ欄

3) 決算の処理

①決算書の作成

- ◇ その年の会費はその年に使い切るのが原則。無理な節約は繰越金を増やす。
- ◇ コロナ禍で活動が制限され、余ってしまった場合の対応をどうするかは、早い時期に方針を決めておくが良い。

例) 今までに対応した PTA の例

- ◇ 児童生徒に物品を購入して渡す。
- ◇ 普段購入できない物品を購入して、PTA からの貸出物品^{※2}として、学校で活用してもらう。

- ◇ 多すぎる繰越金については、どこかの時点でどのように扱うかを検討する必要あり。

繰越金は、全体会計の10%程度が妥当。

例) 今までに対応した PTA の例

- ◇ 繰り越されている会費は、本来は過去の PTA 会員の活動ために使用されるはずだったので、地域活動のために活用して還元する。
 - テントを購入して、地域活動の時に貸し出す
 - 防災用品を購入して、震災救援所の活動に生かす
 - 地域の人たちにも参加してもらえるイベントを企画運営する
- ◇ 広く社会に役立つように、災害の支援金として寄付する。
- ◇ 児童生徒の災害時の備蓄備品を購入して、保管する。

※2 PTA からの貸出物品とする理由

PTA からの購入物品を学校に寄付するためには、一定の要件が必要になることから、物品保有者は PTA であり、そこから貸し出しをするという方法を取るようにすると良い。

但し、その物品を破棄する際の費用も PTA からの支出となることも考えておく必要がある。また、備品であるとしたら、備品台帳への記載管理を忘れずに。

②積立金について

- ◇ 周年行事のための積立金、高額な物品（印刷機など）の購入のための積立金などが多いが、積立金は、何のための積立金なのかを明確にする。
- ◇ 余った予算を「とりあえず」積立金に回す傾向がある。目的、金額などをしっかりと決めたくて実行する。

③会計監査

- ◇ 監査は、記載間違いがないか等を見つけてもらえるチャンスと捉えよう。
- ◇ 年に2回以上の機会があると良い。
- ◇ 監査では、通帳原本と関係書類との照合を行う。また、関係書類がない等、不明な入出金がないかをチェックする。

メモ欄

4) 次年度予算案の作成

①今年度活動と費用の関係性を検証

- ◇ 正当な活動をしているにもかかわらず予算が余ってしまったとしたら、予算と活動が合っていないということになるので、検証が必要。
- ◇ 翌年度の会費が入ってくるまでは前年度の会費で活動を続けて行かなければならぬので、予備費を設けて準備する。

②会費の値上げ、値下げ

- ◇ 活動にあたって必要な予算としての会費であることを意識する。
- ◇ 節約のために、委員会が無理に節約していないかを把握する。
- ◇ 値上げに比べて、値下げは安易に考える傾向がある。単年度で判断せず、予算が余る理由をしっかりと確認する。

5) 総会での報告

年間1回の総会開催の場合(年度当初総会のみ)、卒業するPTA会員への報告が卒業後になるため、渡し方等に不都合が生じる。その場合は、年度内に当該会員には「案」として事前配布するなどの措置を講じる。

メモ欄

■最後に

- ◇ お金を扱う場合に、一番大事なことは証拠となる書類を残すこと。面倒かもしれないが、常に書類を残すということを意識する。
- ◇ お金の支払いは、常に書類との交換。書類がない場合には金銭のやり取りはしないと強く心にとどめる。

- ◇ PTA 活動を進めるにあたっての、心理的な不安の原因があるとしたら……………
 - 「自分がやっていることは正しいの？」
 - 「やっていることに対して、他の人から何か言われたいかしら？」その不安感を持たないためには、
 - *役員同士がよく話し合い、チームになって臨むこと。
 - *会計にあっては、証明できる書類を残すこと。
 - ・いつ・だれが・どこで・なんのために使途したかが書かれている。
 - ・一人の証明ではなく、関係する人(複数名)での証明をする。

- ◇ 非会員希望の保護者が増えてきている現状ではあるが、児童生徒への対応は、「わが子を含むすべての子どもたちが、豊かな学校生活や地域生活を送れるよう」というPTAの理念を基にしながら、役員や運営委員等で熟慮していく必要がある。

メモ欄

会計・会計監査のチェックリスト

■通帳の管理について		
通帳、印鑑は施錠された場所に保管しているか	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
通帳と印鑑は別々に保管しているか	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
通帳、印鑑はそれぞれ管理者を決めているか	<input type="checkbox"/> 決めている	<input type="checkbox"/> 決めていない
■通帳の記録について		
通帳の前年度末の数字が、前年度末の帳簿および前年度の決算報告と一致しているか	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
通帳の今年度末の数字が、今年度末の帳簿および今年度の決算報告書と一致しているか	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
通帳の記録に不自然な出入りや、用途不明な出金はないか	<input type="checkbox"/> ない	<input type="checkbox"/> ある
振込の記録と振込にかかる資料が一致しているか ・請求書、振込金受取書、A T M の利用明細等	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
入金の記録と入金にかかる資料の金額が一致しているか ・PTA 会費の明細、A T M の利用明細等	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
複数の通帳がある場合、その全てについて上記を確認しているか	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
■帳簿の記録について		
現金出納帳に記載している経費と領収書が一致しているか	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
領収書に記載漏れはないか(金額の訂正は無効) ・日付・宛名・内容・金額・発行者の住所、名前	<input type="checkbox"/> ない	<input type="checkbox"/> ある
領収書の宛名が正しく記載されているか ・〇〇学校 PTA	<input type="checkbox"/> されている	<input type="checkbox"/> されていない
複数商品を一度に購入した時、領収書に加えて明細が分かる資料があるか	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> ない
領収書のないものについて、代わりとなる書類があるか ・慶弔内容の案内や礼状・日付、金額、相手先が分かる資料等 ・PTA 活動での購入物であることを証明できる資料があるか	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> ない
残高の計算に謝りはないか ・パソコンでの帳簿での数式の間違いはないか	<input type="checkbox"/> ない	<input type="checkbox"/> ある
実際の小口現金と帳簿の残高が一致しているか	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
■備品の管理について		
備品台帳を保有しているか	<input type="checkbox"/> している	<input type="checkbox"/> していない
備品台帳に記載された備品が実際に存在するか	<input type="checkbox"/> する	<input type="checkbox"/> しない
購入した備品の請求書や納品書等が保管されているか	<input type="checkbox"/> されている	<input type="checkbox"/> されていない

個人情報の保護について

平成 29 年5月 30 日からの個人情報保護法改正に伴い、P T A も遵守すべき団体として位置づけられた。

守るべきこと

- ① 個人情報を取得する際、何の目的で利用するのかを本人に伝える
- ② 取得した個人情報を、決めた目的以外に使用しない
- ③ 取得した個人情報を安全に管理する
- ④ 取得した個人情報を無断で他人に渡さない
- ⑤ もし「自分の個人情報を開示してほしい」と本人から言われたら断ってはならない

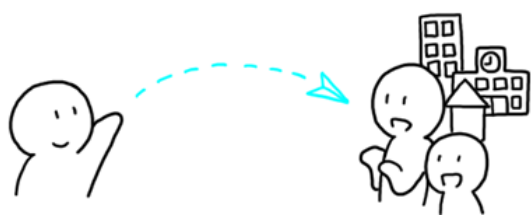
そのために PTA として、どのような対応をすればよいか

- ① 事前に同意の取り方、配布、管理の方法を話し合い、ルールを作る
- ② どこまでの情報を得ておけばよいかを考え、必要以上の情報は収集しない
- ③ 同意が得られない場合は、名簿に載せないなど必要な対応をする
- ④ 保管期限を決めて、適切に処分する
- ⑤ 管理方法(管理場所・管理者)を決めて対応する

NG 例：
・学校から児童生徒名簿への記載情報を提供してもらう
・給食費徴収時に PTA 会費も一緒に引き落としてもらう

小学校、中学校学級委員研修 資料

子どもたちと共に、 学級委員として楽しい一年を過ごしましょう！



三鷹市統括スクール・コミュニティ推進員
文部科学省 CSマイスター
ひとまちみらい研究所 代表
四柳 千夏子

プロフィール



四柳 千夏子
(よつやなぎ ちかこ)

ひとまちみらい研究所

三鷹市教育委員会
統括スクール・コミュニティ
推進員

文部科学省CSマイスター

PTA	：平成15, 16年	三鷹市立第七小学校PTAにて代表
	20, 21年	三鷹市立第四中学校PTAにて会長
	16, 20, 21年	三鷹市公立学校PTA連合会副会長
放課後子ども教室（三鷹市地域子どもクラブ）	平成16～18年	代表兼クラブコーディネーター
	19～25年	地域コーディネーター
地域活動	：青少年対策第七地区委員会副会長	
	三鷹市青少年委員協議会	
	NPO法人三鷹市民協働ネットワーク理事	
	三鷹市市民参加deまちづくり協議会副会長	
	一般社団法人みたかSCサポートネット会員	
コミュニティ・スクール	平成21, 22年	三鷹中央学園CS委員会副会長（支援部）
	23, 24, 25年	同 会長
	25年～	文部科学省CSマイスター
	令和元年～	三鷹市統括スクール・コミュニティ推進員

< 関連記事 >

- PTAはもう不要？ 地域も一緒に学校運営「コミュニティ・スクール」でPTAの役割は(大塚玲子) - 個人 - Yahoo!ニュース
- PTA会長は「特権」でなく「代表」の意識を 保護者や地域は「校長の辛口の友人」になれるのか(大塚玲子) - 個人 - Yahoo!ニュース
- 「学校と社会をつなぐ～これからの人づくり・学校づくり・地域づくり～」(学事出版)

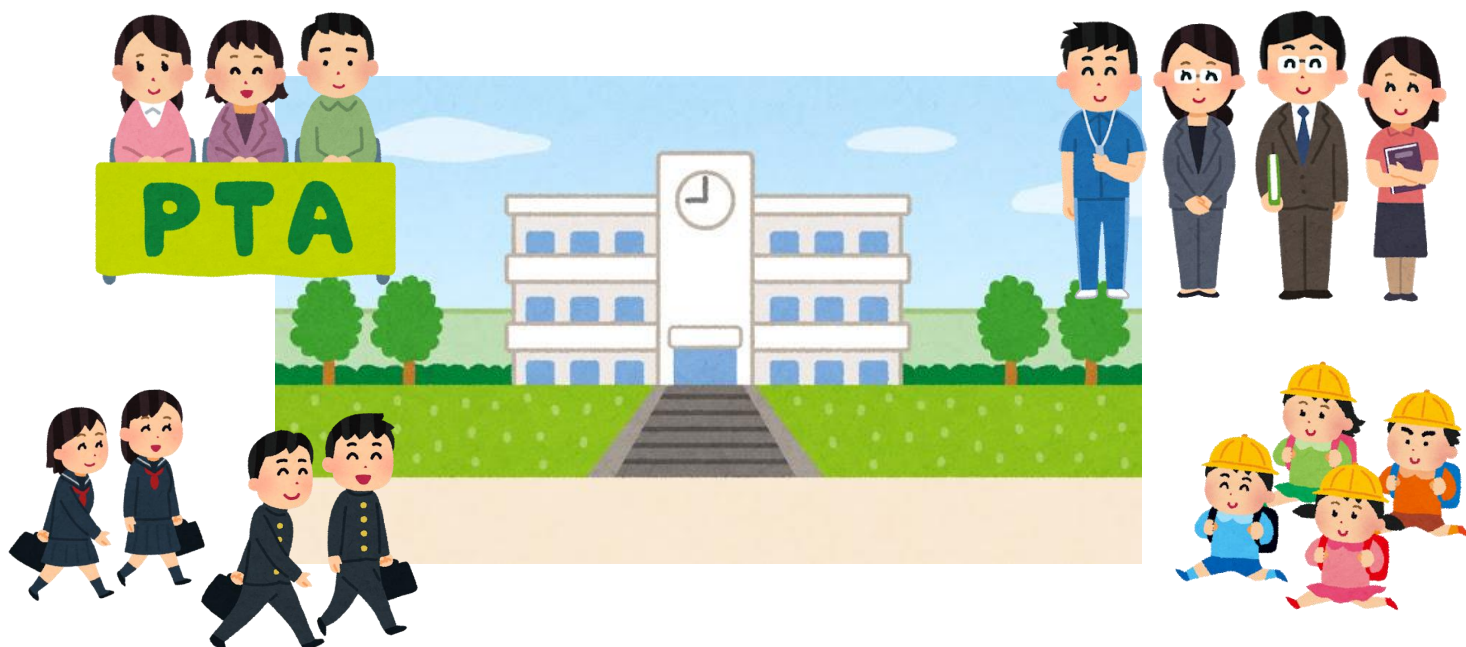


子どもたちの「しあわせ」とは？

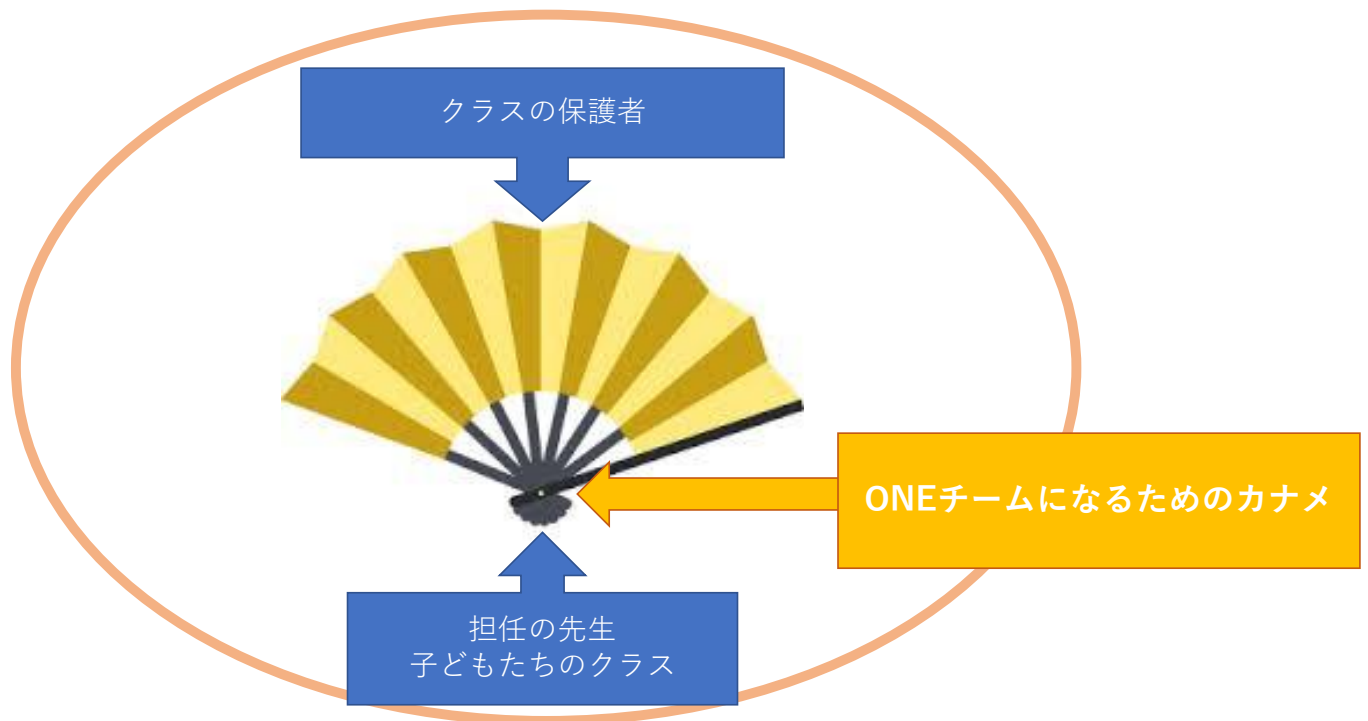
学校に行くのが
「楽しい！」と思える
こと

3

子どもたちにとって「楽しく通える学校」はみんなの願い



学級委員は、クラスのカナメ



ブレイクアウトルームで情報交換①

学校、学年、お名前	委員になった経緯
今、困っていること	

メインルームで意見の共有①

- みなさんで共有できた「困ったこと」はありましたか？

コロナ禍からの「これから」のための対話を！

- 本当に必要なことは何か？
- 「前例踏襲」は是か？非か？
- 誰のためのPTA活動なのか？



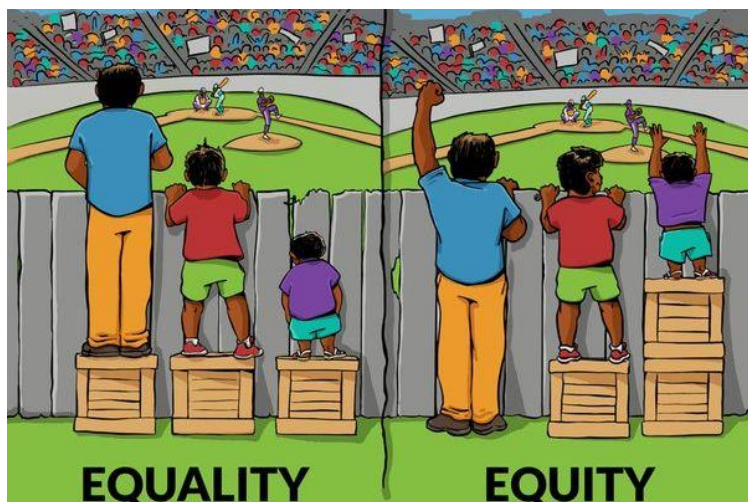
ブレイクアウトルームで情報交換②

どんなクラスになりたい？	どんなことをやってみたい？
--------------	---------------

メインルームで意見の共有

- どんな意見が出たか、共有しましょう。いいアイデアはいただきちゃいましょう！

みなさんはどう思いますか？



PTA任意加入問題は、平等・公平問題に…(◁_▷)
全員で考えなくてはいけない問題です。

クラスの子どもたちのために。
でも、いつも前向きに、楽しく



ワクワクを！

小学校、中学校書記担当役員研修 資料

PTA活動セミナー2023

書記活動ブラッシュアップ

2023年5月

- 1 運営委員会の情報発信
- 2 オンラインディスカッション ① ②
- 3 参考情報

【参考】

総務省「労働力調査(基本集計)」2018年調査 杉並区統計書(令和4年版) 日本PTA全国協議会 文部科学省

杉並区ゆかりのアート展示、アートワークショップなど協働事業では多くの情報を取材編集し発信



海外での ASAGAYA PRイベント(UK)



地域、学校と連携したアートイベント

スギナミ・ウェブ・ミュージアム
「阿佐ヶ谷住宅の記憶展」(ウェブ展示)
では小学校5年生からの公募展出品者も募集中

講師:手塚佳代子

NPO法人チューニング・フォー・ザ・フューチャー(TFF)代表。
高円寺出身。商社、ソフトウェア会社勤務、制作会社経営を
経て2004年から、住民による地域情報発信の支援活動にプ
ロジェクトマネージャーとして携わる。

イベント・講演会・講座、ご当地商品等の企画・開発運営、教
育機関での特殊授業のコーディネート等を区内、国外で実
施。 集客を要する催事や地域史等の取材編集発信を多数
担当。杉並区では、学校教育コーディネータ等を経て、杉並
郷土博物館運営委員等を務める。

ONPO法人TFF杉並区関連の主な事業

杉並区公式情報サイト「すぎなみ学倶楽部」制作

「なみすけ公式インスタグラム」

杉並区協働事業「スギナミ・ウェブ・ミュージアム」

観光事業「中央線あるあるプロジェクト」

観光事業「Experience Suginami」

「すぎなみ地域コム」

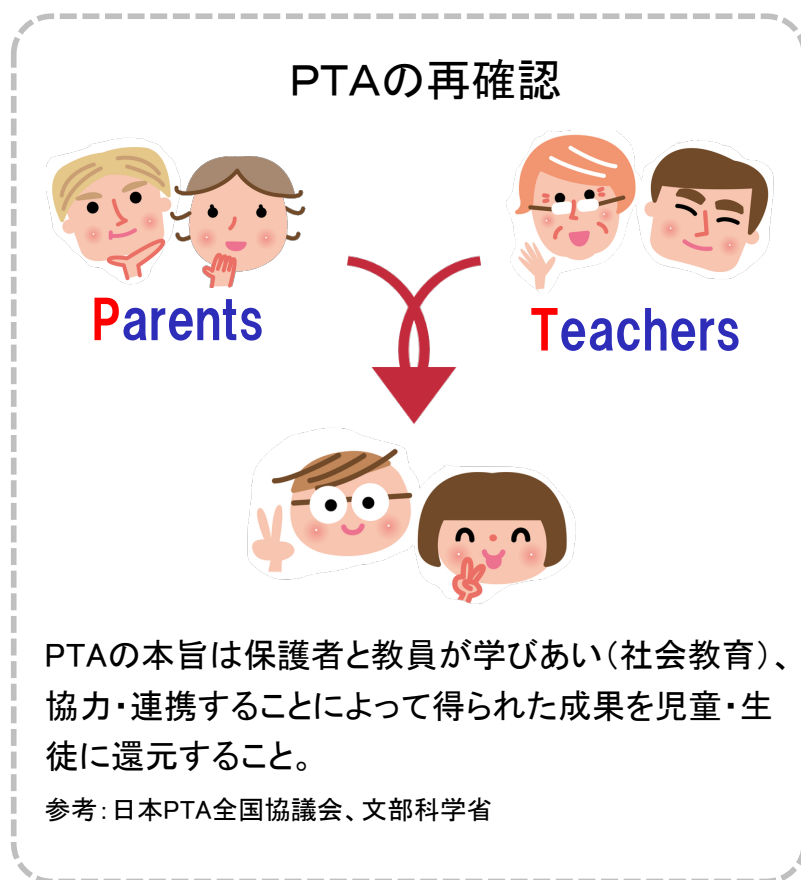
「杉並区区制90周年事業」等

① 書記(庶務)の役割

PTA活動の事務的なことのまとめ役です。「PTAハンドブック」では、具体的には、「総会や運営委員会、役員会の開催通知、次第、議事録のほか、活動の報告書(運営委員会だより)などを作成します」と定義されています。



**書記は活動の記録はもちろん
活動への理解・協力を求める
情報発信を担う**



② 活動コンセプトの検討・確認

作業の効率化

有職率上昇・核家族化等など会員負担を軽減し、**本当に必要な活動を**確認し反映していく。

- 記録実務の改善
- デジタル・ネットの活用
- 自身が係わる意義・必要性

情報到達度の向上

誌面づくりは目的でなく手段。情報が**読み手に到達し理解される**ことを重視する。

- 読み手配慮
- 効果測定工夫
- デジタル・ネットの活用

これからの活動スタイルを意識・提案

会員減少、多言語化、関連組織との連携・役割分担を念頭に**新しいスタイル**を提案。

- 独自の仕組み・取り組み
- PDCAで検証
- デジタル・ネットの活用

● デジタル・ネットの活用

無料サービス活用

- オンライン会議・メール・スケジュール調整・データ移動や保存
- SNS電話(電話番号を知らなくても無料で通話できる)

印刷廃止の検討 デジタル化

併用では解決できない状況が続いている

- 会員へのアンケート**などで状況確認・意見収集
- PDF(単発なら画像データ)の活用
非公開サイトでの共有(すぎなみ地域コム/PTA用アプリ等)
- 定期配信**(固定曜日・固定時刻等)で探し易く

セキュリティ学習

- 正しい知識・事例を知り判断力を向上
- 状況・常識は常に変化、最新に注意
- 万が一に備えた**バックアップ**(各校のPTA規約で書類保管方法を確認)

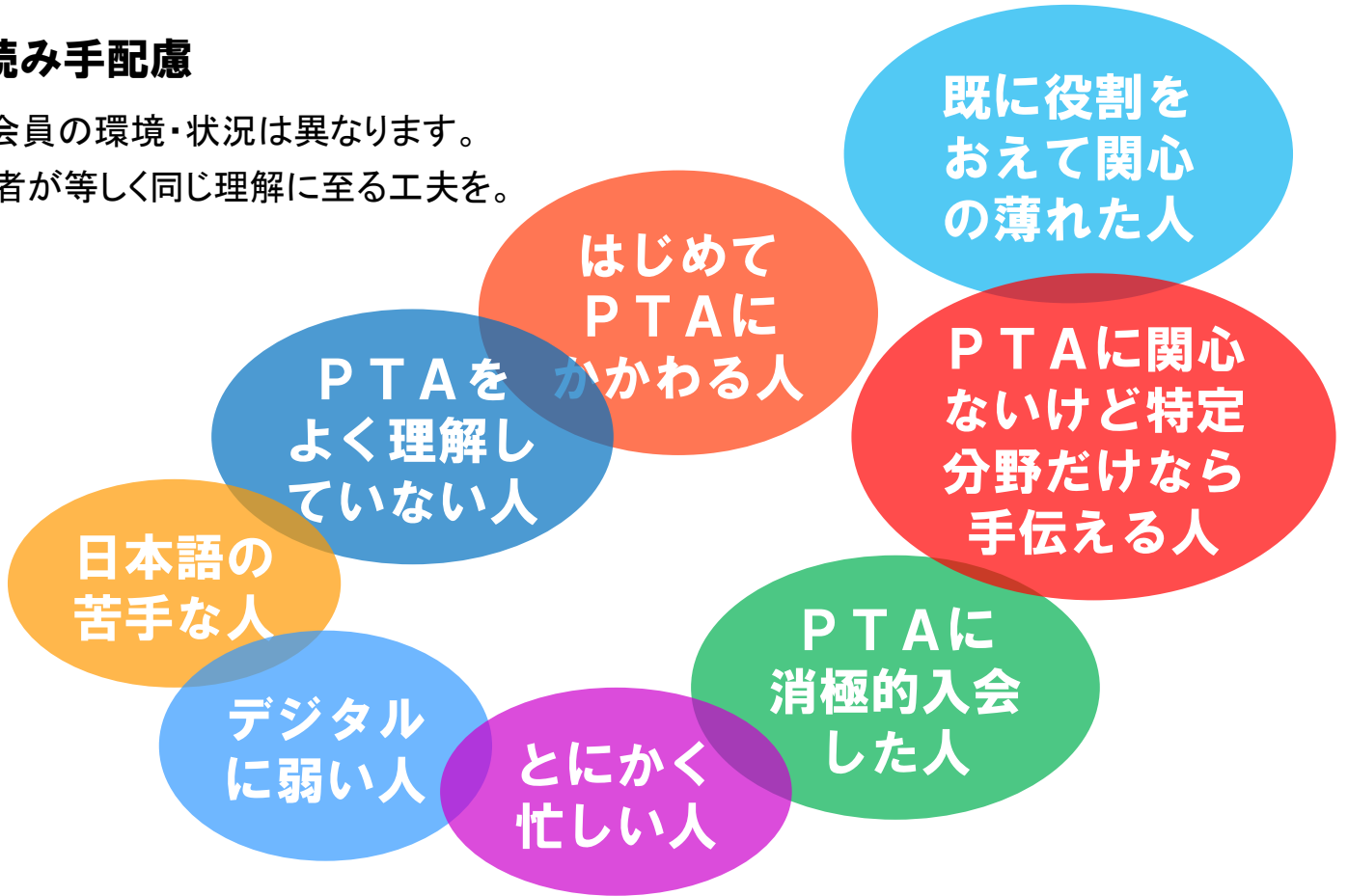
	アナログ印刷物配布	デジタルデータ配信
印刷	× 現物の配布作業が必要	○ 印刷しない選択肢あり 古紙減量
配布	× 紛失 ○ 直感的に読める △ 外部漏洩	○ 情報到達度の優位 ○ 人を介さない衛生性 ○ 原則紛失がない ○ 時短 △ 外部漏洩

デジタル化へのステップ

印刷物無配の実証実験やアンケートを実施し、少しずつ順次反映するなど、状況に応じたステップを考えて行きましょう。

● 読み手配慮

PTA会員の環境・状況は異なります。
受信者が等しく同じ理解に至る工夫を。



区内外国人居住者

区内居住外国人
15,203人
(2022年度 前年比-1,503人)

中国:4,964人
韓国:2,279人
ネパール:1,928人
ベトナム:1,391人
アメリカ:700人

杉並区民 (569,703人) の
約37人に一人が外国人

- 締切 DEADLINE
- 要返信 MANDATORY REPLY
- 要提出 SUBMISSION
- 報告 REPORT
- 自宅待機 WAIT AT HOME
- 学級閉鎖 CANCELLATION

杉並区統計書 令和4年(2022)版

手にとって 読んでもらう工夫

忙しくても簡単に読めそう、読まなくてはいけないと感じてもらふ工夫を。

- 重要度が分かる工夫 **最重要** **要返信**(5/20期限) **報告**
- 本文が読みたくなる見出し
- 記事の多いときはナンバリング見出しで把握しやすくする

執筆・編集の工夫



- 季節のあいさつ文等の短縮やカット
- 一文を短く 適度な改行
- 経験者にしかわからないPTA用語・略語は避ける(疎外感の排除)
- 読みやすい文字サイズ・フォント・行間隔
- 適所では箇条書き、表・グラフの活用
- 当事者意識を持ちやすいよう文中の学年など明記・強調

● 独自の仕組み・取り組み

「なんで私がやらなくてはいけないの？」 → 「担当してよかった」と感じるPTAを。

新しいPTA 負担の少ない PTA

- 課題→改善
 - ・これまでの慣習で不要と思えるものはないか
 - ・ほかの学校関連組織と重複した不要な取り組みはないか
- デジタル、ネットの活用
- 前例にとらわれず挑戦
(トライ&エラーを理解してもらえる環境づくり)

担い手不足を解 消する取り組み

- PTAの意義、やりがいを正しく伝えているか
- 人材は適材適所か
- ゆるやかなネットワーク化・サポーター制を取り入れているか
- 活動に直接関係のない負担はないか

オンラインディスカッション ①

テーマ： PTA活動に携わって良かったことは？
メリットは？

テーマ： 現在の問題点、注意したいこと

終了後いくつかのグループに発表をお願いします。
1分程度で、みなさんに知らせたい内容を発表ください。

オンラインディスカッション ②

テーマ： 新しく取り組みたいこと

テーマ： 次年度後任者に伝えたいこと

終了後いくつかのグループに発表をお願いします。
1分程度で、みなさんに知らせたい役立ちなど発表し共有ください。

いざ、という時に備え日頃から関心を

セキュリティアクション
IPA(情報処理推進機構)

- ・自己申告型の学習システム
- ・無料チェックシートで自己採点
- ・中小組織に利用されている

コンプライアンス
法令遵守

- 個人情報、著作権など使用不可の判断のできる知識を持つ
- ・例:PTAのマスコットは誰がデザインしたのか?
 - ・役員のプロフィールはどこまで具体的に記載するのか?
 - ・成果物は**校外に配布するのか?**

※参照:文化庁/著作権制度に関する情報、参照:個人情報保護委員会

過去事例

学校便りを受け取った地域の方が厚意で(無断で)ネットにアップし掲載した。
後日修正・変更があっても、新たな情報を到達させることができなかった。

- ・情報の組み合わせで個人特定できる状態を防ぐ
- ・PTA会員の描いたカットにも著作権はある
- ・著作権については広報向け資料参照

スキル・時間に配慮した役割分担 → 自身が係わる必要性を実感

適切な人数で作業

多人数・分母が多いほど良いもの

- ・企画などのアイデアだし
- ・調査活動 情報収集
- ・初期の校正

少人数・決定、判断を要するもの

- ・添削・校正・校閲作業(2人以上)
- ・デザイン(万人ウケ=誰にもウケない)

得意分野を生かす
各人の状況に配慮

スキル・IT知識・フットワーク・時間帯・家庭環境

- ・委員の状況を把握し作業分担を検討
- ・打合せの日時や連絡方法の検討時に配慮

長文は興味損失の元 → 短文で読みやすく

会長あいさつ

こんにちは、みなさん。

ただいまご紹介にあずかりました新校長の前田です。

新年度もはや2ヶ月。1年生もすっかり学校生活になじんで、子供たちが日々成長している様子を伺えます。学校では、学習はもちろんのこと、集団活動を通して強調性、思いやり、友達の大切さを肌で感じ、ああ、学校は友達とのコミュニケーションも楽しいな、楽しいので勉強も一緒にやってみよう、と感じてもらうことも大切です。

ただ、学校での生活は1年生はまだ午前だけ、数時間です。子どもたちの健やかな成長は学校だけで成り立つものではありません。

どうか私たち職員と状況を共有していただき、ぜひご家庭で、保護者としてもお子さんの成長をサポートいただき、何かご不明なことなど課題を感じたら担任にご相談ください。

手紙や、連絡帳を活用して、是非コミュニケーションを図ってください。それによって子供、保護者、そして私たちも一緒に成長できるのではないのでしょうか。

どちらも大切 学教教育と家庭教育(会長〇〇〇〇)

新年度から2ヶ月。集団活動を通し思いやり、友達とのコミュニケーションの大切さを感じ取り、楽しいから、この環境で勉強もやってみよう、と感じてもらうことが大切です。

子どもたちの健やかな成長は学校だけで育めるものではありません。どうかご家庭でお子さんの成長を見守り、リードし何かご不明なことなど課題を感じたら手紙や、連絡帳を活用して担任にご相談ください。情報の共有によって子供をとりまきみなさんがともに成長できるのではないのでしょうか。

本当に読んで欲しいなら見出し工夫と短文化。
読了を目指さないなら見出し・強調処理

- ・善意ある言い換え程度の変更は可
- ・サクッと読める、読んでもいい、という印象が重要
- ・情報が濃くなり充実した読了感がある
- ・分量が減り読みやすい文字サイズ、行間が設定できる

春号 運営委員会だより

第285号
平成29年5月
杉並中PTA

SDGsを親子で体験！リサイクルプロジェクト始動

5月第1回運営委員会では、SDGsを子供たちとともに学べるようPTAでも新プロジェクトを始動することが決定しました。

アンケートで要望の多かった習字道具・衣類リサイクル、ランドセル寄付について9月スタートを予定しています。

自由参加

関心のある方はオンライン会議にご参加ください！
5月30日 朝8:40から20分 PTA部会アカウントへ。

日付は大きく太く

- ・概要と詳細のバランスに配慮
- ・参加手順を簡単に紹介



Zの法則

人間の視線は左右→上下に動くのが一般的とされる



赤の法則

人間の視線は赤を第一にキャッチする、ことが多い
色に対する意識感覚は地域によって異なることがある



視線・肖像の法則

同じ状況にある印刷物なら肖像(目線)のあるものを受信者は第一にキャッチすることが多い



ダグマーの法則

興味を感じるかどうか、人間は一瞬に判断するという説

まとめ

部員の個性・スキルを活かした
効率的な活動を！

情報を濃縮し
読者に充実した読後感を！

会員のニーズ、読後感を認識・
解析してPDCAに役立てよう！

会員の充実感は、部員みなさんの充実感に繋がります！
新しいスタイルに挑戦しよいものを後輩に伝えましょう！

お疲れさまでした！

**何かひとつ自分たちならではの
個性やスキルを活かした情報発信に取り組んでみましょう！**

小学校、中学校地域委員研修 資料

講演資料

市民防犯編

うさぎママのパトロール教室
(文責:武田信彦)
www.usagimama.com

一般市民による
防犯活動とは？

市民防犯が目指すこと

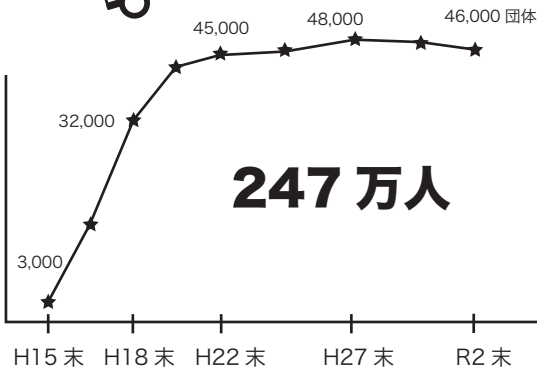
犯罪が起きにくい環境づくり
助け合いの雰囲気づくり

青色回転灯の
パトロールカー
全国で44,000台!



ポイント!

警察による防犯が「直接的防犯」
だとしたら、市民防犯は「間接的
防犯」といえるものです。
犯罪や非行と直接対峙するもの
ではなく、子どもたちや地域の皆
さんへ目を向け、見守りや健全な
声かけを行うことで、犯罪が起き
にくく、助け合いの輪が広がる環
境づくりを目指す活動です。

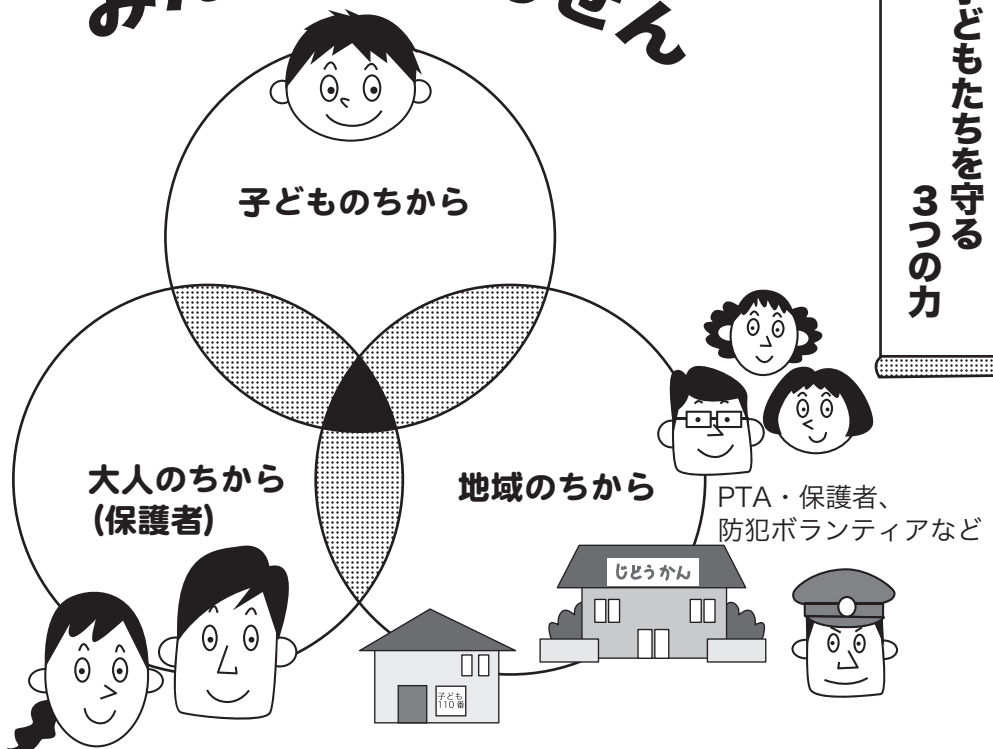


「全国の防犯ボランティア団体数の推移」
※平均して月1回以上の活動、5人以上の団体

みんなであんぜん

子どもたちを守る
3つの力

子どもたちの安全を守るためには、①子どもの
力②自分を守るための予防や対処などの力。③大
人の力④保護者など身近な大人が子どもを守り、
子どもがもつ身を守る力を引き出す力。⑤地域の
力⑥子どもや保護者だけでは対応できない範囲を
サポートする力。これらの力が重なり合うように
連携することで、安全の力が強くなります。



ポイント!



防犯は、パトロールをはじめ、見守り、各種啓発活動など、さまざまな活動スタイルがあります。最近では、「ながら見守り」と呼ばれる、ライフスタイルに合わせた活動も広がっています。

それぞれの地域に合わせた柔軟なアイデアで、安全・安心両面が元気になるための方法やスタイルを実践しましょう。

安心

安心

地域住民や子どもたちの安心感が育まれる

安全

連携

関係機関や地域の連携・協働が活性化する

意識

一人ひとりの防犯意識を高める

予防

犯罪が起きにくい環境づくり

防犯ボランティア
期待できる効果



見守りが育む
世代を超えた安全安心



ポイント!

防犯ボランティアの活動には、防犯を超えた効果も期待できます。それは、子どもたちの心を育む効果です。日々の見守りをおとして、あいさつや健全な声かけを行うことは、子どもたちにとって大きなメッセージになります。

あいさつの返事がない、声がかけにくい...など見守りがしにくい環境も増えていますが、そんな時こそ、元気にあいさつや声かけをしましょう。「地域教育」ともいえる貴重な力だからです。

講師紹介

武田 信彦 (ヨッシー)

うさぎママのパトロール教室主宰
安全インストラクター

1997年、大学時代に国際的な犯罪防止NPOの活動に参加。
2006年より、安全インストラクターとして講師活動を行う。
「市民防犯」を提唱し、全国で講演、ワークショップなど多数実施。
パイオニアとしてメディアやコラムでも発信中。

著書・監修

「もしもテロにあったら、自分で自分の命を守る

民間防衛マニュアル」 ウェッジ

「SELF DEFENSE『逃げるが勝ち』が身を守る」 講談社

「ガールズ☆護身術」 スタジオタッククリエイティブ

「親子で読もう!子どもの安全ブック」 スタジオタッククリエイティブ

「子どもの安全・安心ハンドブック」 ベネッセ子ども基金

あんぜんパワーアップ!



防犯ボランティアは
地域の安全力を元気にします!

講演資料 防犯ボランティア実践編

防犯ボランティアを行う際は、自治体や警察と連携・協働し、地域の状況に合わせた活動を行うことが重要です。また、学校、児童館、PTAなどとも情報交換を行い、人々の関心事や不安に感じることをリサーチしましょう。

いま、学生防犯ボランティアも各地で活躍しています。世代を超えた交流は、活動そのものを活性化するきっかけとなります。

ポイント!

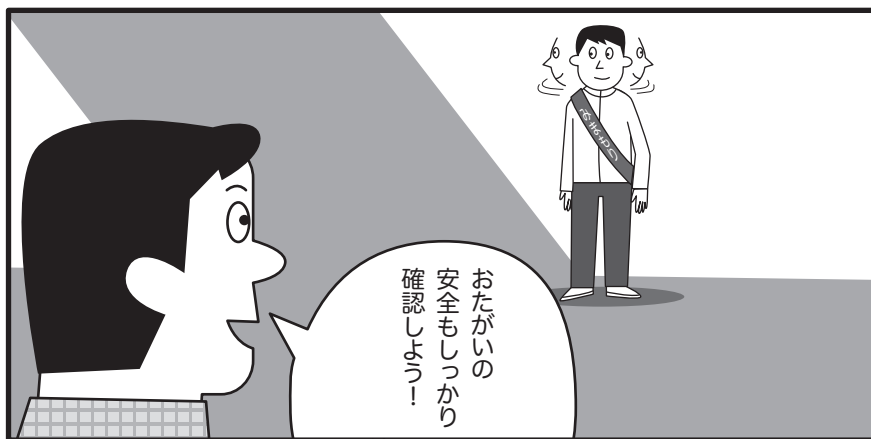


うさぎママのパトロール教室
(文責:武田信彦)
www.usagimama.com

防犯パトロールは、「犯罪が起きにくい環境づくり」と「助け合い」を実践するものです。とくに、カラフルなユニフォームや腕章を着用して姿を見せることで、犯罪がしにくい効果(自然監視)とともに、困っている人が助けをもとめやすくなる効果が期待できます。大切なことは、笑顔と元気なあいさつです。優しい強さで、地域を守りましょう!



ポイント!



姿を見せることで
防犯と助け合いの効果を広げる

見守りの際には注意すべきこともあります。
 ①適度な距離感を保つ＝過度な接触は、誤解やトラブルにつながります。②飲食物をあげない＝飴やドリンクもあげない。健康面への配慮と飲食物を用いた犯罪を防ぐため。③自ら敷地や車に招き入れない＝保護者の許可なく連れていく行為は犯罪のリスクを伴います。緊急時に保護する場合は除きます。
 あいさつ・健全な声かけで見守りを行いましょう！



あいさつと声かけで
安全・安心をひろげよう！

心配な子どもと出会ったら…



防犯活動は、継続することでその効果も大きくなると言われています。しかし、くれぐれも無理は禁物です。誰かひとりだけに負担がかかるように役割分担をする、活動頻度は少なくなっても出来る範囲で続けてみる、パトロールや見守りの方法を変える、地域住民や子どもたちに安全の大切さを伝えるような啓発活動にチャレンジしてみる…。

みなさまが育んできた安全と安心の輪が消えることがないように継続できる方法を考えてみましょう。

ポイント！



- 一、無理をしないよう
- 一、活動の種類をひろげよう
- 一、活動を発信しよう
- 一、世代をまぜよう
- 一、楽心の雰囲気をつくらせよう

元気につづけよう！
継続するコツ

通報・連絡

事件や事故を目撃したときはすぐに通報！
 気になることがあれば各機関に連絡しましょう。

- 警察通報用電話 : 110番
- 警察相談ダイヤル : #9110番
- 虐待・子育ての悩み : 189番 (児童相談所)
- 詐欺・悪質商法など : 188番 (消費者ホットライン)

※警察署や自治体の窓口の連絡先も調べておきましょう。

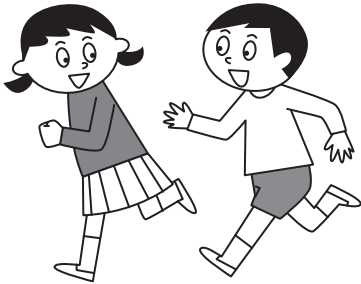
自然に触れたい

季節を感じたい

健康のためにも！



① ひとりにならない



あんぜんスイッチ オン!



たいせつ じぶん こころ からだ
大切な自分の心や身体を
まも
しっかり守りましょう!

講演資料

子どもたちのあんぜん編

うさぎママのパトロール教室
(文責: 武田信彦)
www.usagimama.com

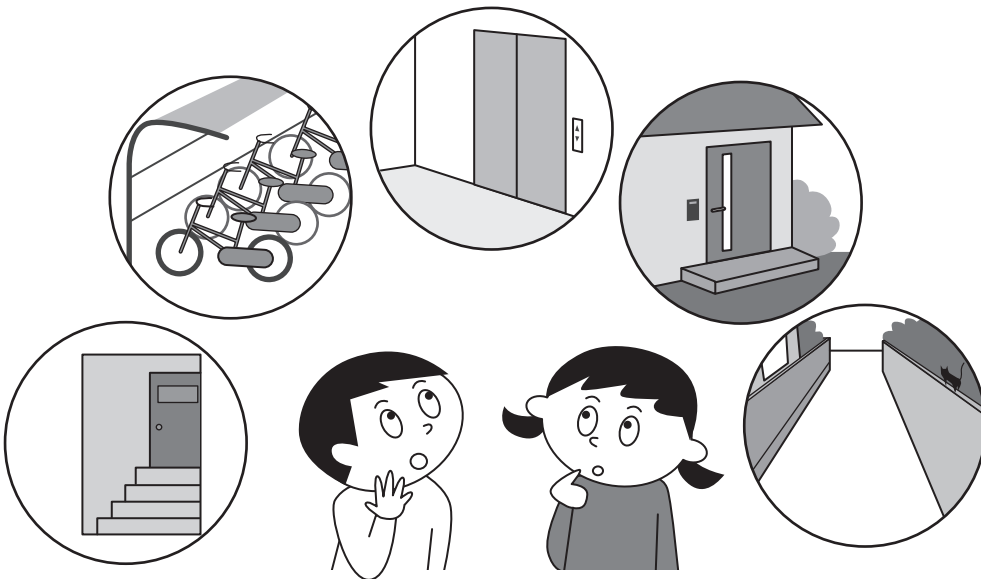
ポイント!

子どもたちのコミュニケーション能力を育むためにも、地域のみなさまとのあいさつなどはとても大切な練習の機会です。また、安全確保のためには、登下校時など、保護者やPTA、地域のみなさまの見守りの中で、「ひとりにならない」環境づくりが欠かせません。子どもたちと一緒にどうしたらひとりにならないかを考えてみましょう。

② ひとりになるとき どんなとき?

ポイント!

子どもの行動範囲が広がると、どうしても「ひとりになる」瞬間が生まれます。それは、最も気をつけなければいけない時でもあります。場所や時間にとらわれず、「ひとりになる」瞬間はどんなときでしょうか。



③ まわりをよくみる、よくきく

ポイント!

まわりに意識を向けることは、危険を寄せ付けず、万が一のとき対処を早めるための「予防力」です。とくに、自宅周辺など慣れている場所は、心や身体に隙(すき)が生まれやすくなるので注意が必要です。「だるまさんがころんだ」など、簡単なフレーズで習慣にするとよいでしょう。

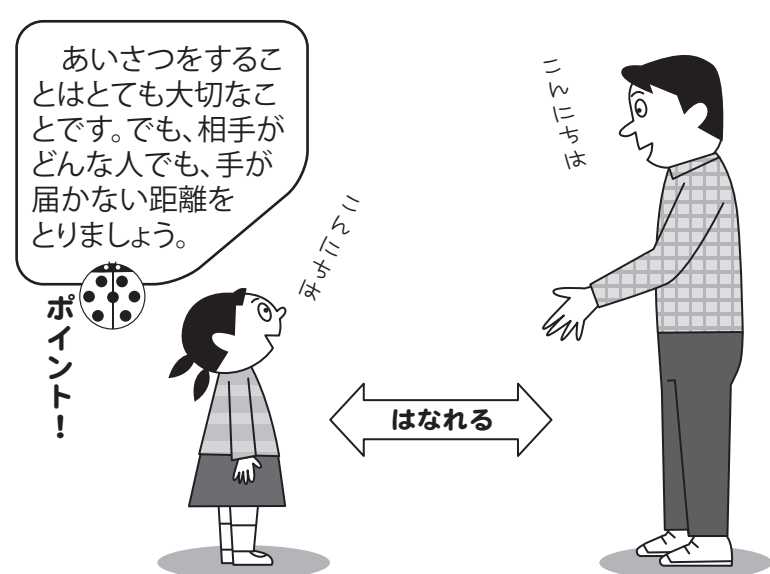


もし、ひとりになったら、まわりをよくみて、よくきいて歩きましょう。自分のまわりにどんな人(車、バイク、自転車...)がいるのか、しっかり確認して歩きます。

⑤ できません!



④ さわられない、つかまれない



⑥ にげる

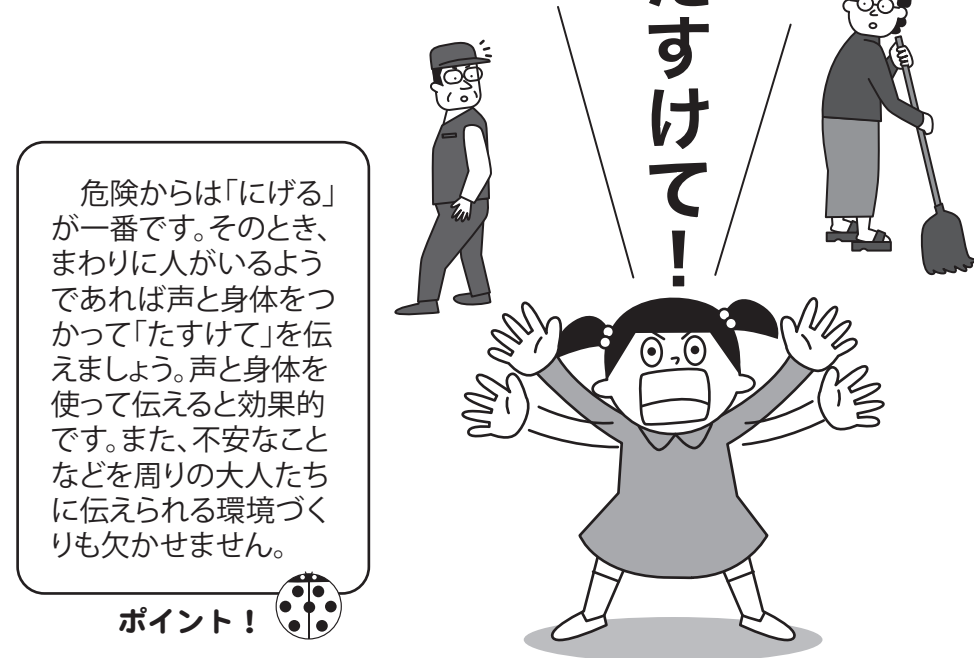


ぼうはん 防犯ブザー



防犯ブザーは、逃げる、助けを呼ぶ時に役立つ道具です。すぐ手の届くところに身につけ、時々電池の確認をしましょう。

⑦ たすけてをつたえる



小学校、中学校広報委員研修 資料

PTA活動セミナー 2023

PTA広報のブラッシュアップ

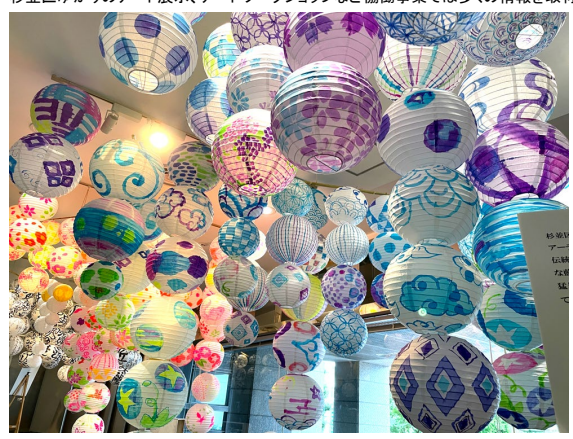
2023年5月

- 1 広報の目的
- 2 後半に向けての課題・改善・挑戦
- 3 グループ懇談(オンライン)①②
- 4 参考

【参考・出典・引用元】
 (公)日本広報協会 総務省「労働力調査(基本集計)」 杉並区統計書(令和年版)
 すぎなみ地域コム スギナミ・ウェブ・ミュージアム Bata Art Exhibition Adobe Google Analytics

TFF 特定非営利活動法人
 チューニング・フォー・ザ・フューチャー

杉並区ゆかりのアート展示、アートワークショップなど協働事業では多くの情報を取材編集し発信



海外での ASAGAYA PRイベント(UK)



地域、学校と連携したアートイベント



スギナミ・ウェブ・ミュージアム
 「阿佐ヶ谷住宅の記憶展」(ウェブ展示)
 では小学校5年生からの公募展出品者も募集中

講師:手塚佳代子

NPO法人チューニング・フォー・ザ・フューチャー(TFF)代表。
 高円寺出身。商社、ソフトウェア会社勤務、制作会社経営を
 経て2004年から、住民による地域情報発信の支援活動にプ
 ロジェクトマネージャーとして携わる。
 イベント・講演会・講座、ご当地商品等の企画・開発運営、教
 育機関での特殊授業のコーディネート等を区内、国外で実
 施。 集客を要する催事や地域史等の取材編集発信を多数
 担当。杉並区では、学校教育コーディネータ等を経て、杉並
 郷土博物館運営委員等を務める。

- ONPO法人TFF杉並区関連の主な事業
- 杉並区公式情報サイト「すぎなみ学倶楽部」制作
 - 「なみすけ公式インスタグラム」
 - 杉並区協働事業「スギナミ・ウェブ・ミュージアム」
 - 観光事業「中央線あるあるプロジェクト」
 - 観光事業「Experience Suginami」
 - 「すぎなみ地域コム」
 - 「杉並区区制90周年事業」等

TFF 特定非営利活動法人
 チューニング・フォー・ザ・フューチャー

広報 = **Public** (公共・公然) **Relations** (交流・関わり)

広告 = Advertising **宣伝** = Promotion

戦後占領軍が日本各地に設置したのが「パブリックリレーションズオフィス」。日本についての知識や知見を共有し、軍内のコミュニケーションを強化することを目的とした。日本における広報戦略の始まりともされている。

PTA広報の役割は

学校の魅力、PTA活動の魅力を伝えることが目的です。

広報誌は、この目的を達成するためのツールです。
企画から担当できる自由度の高さは楽しみでもありますが、
それだけに責任をもって活動しましょう。

広報部員のメリットを生かして楽しい活動を。

授業の見学 & 取材

保護者とは少し違った角度から先生方と接し取材を通して、客観的に学校、授業、子どもの様子を知ることができます。
情報を少しでも早く把握できるいいメリットもあります。

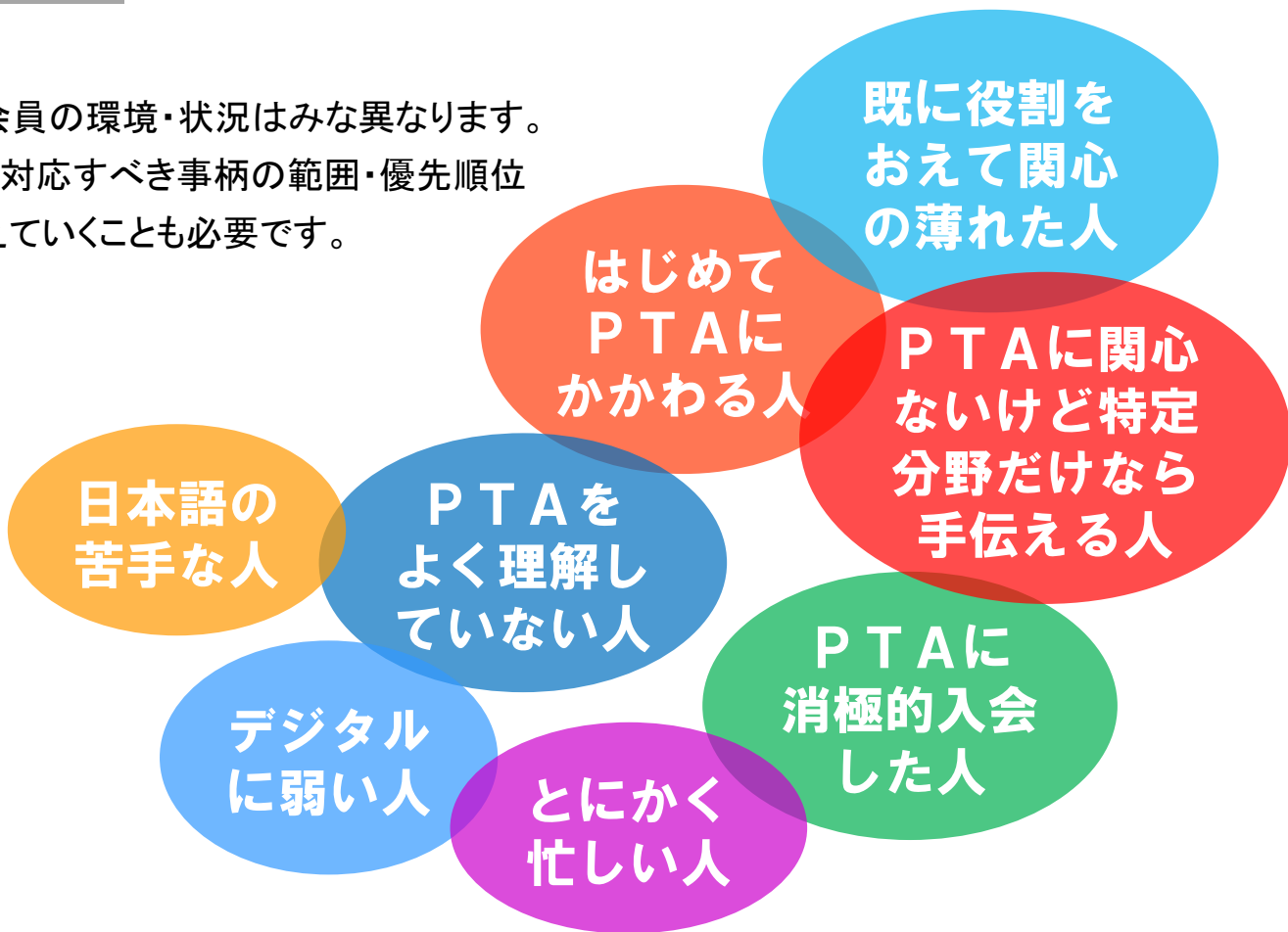
今年ならではの個性を！

広報は自由度も高く過去例を踏襲する必要性はほぼありません。役割分担や進め方、誌面そのものも自由に検討できます。改善したいことがあれば、トライしてみるのもいいでしょう。

おまけ:よい写真が撮れます！

PTA広報では取材を担当するため、普段撮ることができない子ども達の様子を写真に収めることもできます。

PTA会員の環境・状況はみな異なります。
 配慮・対応すべき事柄の範囲・優先順位
 を考えていくことも必要です。



2 後半に向けての課題・改善・挑戦

新委員の得意分野や考え方を反映し、後継に配慮した新しい広報活動を推進しましょう。

編集方針・企画制作

- 会員の状況・情報ニーズ把握
- PTA活動の魅力を伝える内容
- 読みやすい紙面づくり
- 今期ならではの取組
- 広がり意識したチーム構成
- コンプライアンス
- 教職員の係わり
- 制作レギュレーション
- 過去の手順の要不要・取捨

著作権
 個人情報

教員の情
 報は貴重

書き方ルールは
 最初に決める

慣習にしば
 られない

効果測定

- せつかく作った広報誌は本当に読ま
 理解されているのか、読者はんな感
 想を持ったか確認し反映しましょう。
- 読者アンケートを回収する
 ための工夫・しくみ作り
- 読者とのコミュニケーション
- 読者アンケート結果→反映

デジタルの活用

- 時短・紙削減などのメリットを理解
 してもらいましょう。
- 打合せ等のオンライン利用
- データのデジタル管理
- ウェブ解析活用
- セキュリティ対策

民間サービス活用

使ってみれば
 意外に便利

初期に可能な取り決めをし作業効率化をはかる
 自ら振り返り評価できる仕組みを作る

●編集方針・活動コンセプトを再確認・再検討

活動はまだ始まったばかり。編集方針等を再確認・再検討してみましょう。

- ① 当校の広報誌を読んだ人は(例:〇〇学校が好きに)になります。
- ② 当校の広報誌のこだわりは(例:記名で責任執筆した記事)です。
- ③ 当校の広報委員は活動を(例:楽しい部活動のようだ)と考えています。

●掲載する記事の魅力

今後の広報にはどんな記事を掲載予定ですか？ 役立ち、共感、初めて知ることは含まれていますか？

- ① 広報委員の視点を生かした(例:家庭での教育にも役立つ内容)です。
- ② 読者の情報ニーズに配慮した(例:双方向記事を用意した紙面)です。
- ③ 先生方の情報を生かした(例:深い取材記事がウリ)です。

●制作レギュレーション

今期初号を制作して感じた方も多いのではないのでしょうか。レギュレーションのない学校が散見されます。

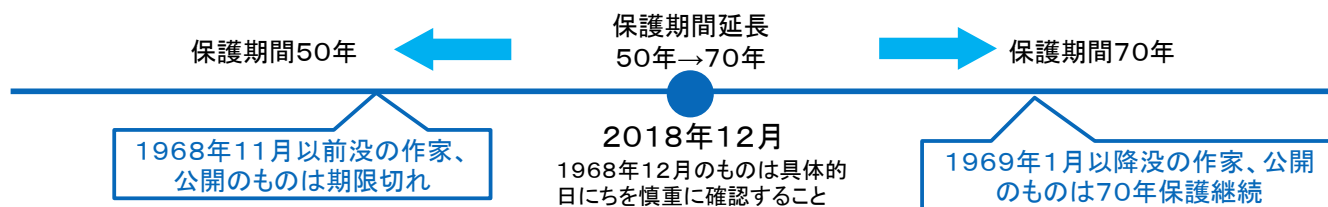
複雑詳細なものではなく最低限のルール化で作業はしやすくなります。

分野	最低限の取り決め(例)	備考
編集・制作	<ul style="list-style-type: none"> ・文体は 敬体・常体 とする ・専門用語には注釈〇〇文字以内を添える ・略語は不使用 ・PTA役員は 敬称不使用・役職名のみ・敬称使用 ・原稿は 記名・無記名 とする ・写真には必ずキャプション〇〇文字以内をつける ・レイアウトは先割(次頁参照)優先で文字数を合わせする ・顔文字絵文字は不使用 	読み手目線の編集はもちろんですが、情報にあった表現方法やルール選択をし続けることも重要です。息抜きコラム、豆知識などは書きぶりを変えるのも目先が変わって良いでしょう。
運用・活動	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム構成は学年をまたぎ・分担は〇〇とする ・ミーティングは各号制作開始〇〇日前に1回実施 ・ミーティングには必ずPT両者が参加する ・委員同士の連絡は夜間〇〇時まで PCメールはフリー ・デジタルの苦手な人はアナログ分野で協力(次頁参照)する 	チームは学年単位も多いようですが、多学年で組むと思わぬ視点が入り活性が向上することも。先生の参加により特ダネに遭遇することもあります。

●コンプライアンス

個人情報の保護、著作権の保護・活用は、基本を把握することで、企画制作に奥行きを持たせることもできます。

分野	内容	備考
個人情報	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の肖像利用は年初に学校に確認 ・児童・生徒の表情を掲載したい場合の工夫として広報部員のお子さんをモデルにするなど ・外部に配布されることも考慮し、学年、氏名の記載など情報の組み合わせに注意する 	
著作権	<ul style="list-style-type: none"> ・公共ではある程度の引用は認められているが、全体に対する割合が低いこと、必要性の有無が判断基準となる ・保護者が描いたイラストにも著作権は存在する ・人物写真には肖像権と撮影者の著作権が二重に存在する ・一般発行物は公開後70年、作家物は没後70年で著作権切れたが、2018年12月時点で上記51年を経過していたものは70年をまたず著作権は切れている ※美術品、地図類、戦時加算で一部例外あり 	<p>文化庁ウェブサイトに詳細でわかりやすい解説があります。よく読んで役立てましょう。</p> <p>著名人肖像などは当該記念館など公的な場では無償貸与されることもあります。国立国会図書館でもデジタルデータを開放している著作物があります。</p>



2 後半に向けての課題・改善・挑戦

セキュリティ

IPA(情報処理推進機構)では、自己申告型の情報セキュリティの啓発事業「セキュリティアクション」で無料チェックシートを提供している。登録完了するとセキュリティマークを名刺等に利用できる

アクセス解析
(効果測定)

Googleが提供する解析サービス **Google Analytics** を設定したブログやウェブサイトアクセス状況が確認でき効果測定が可能になる
(いつ、何人が、どのページをどのくらい見たか)

ページタイトル	ページビュー数	ページ別訪問数	平均ページ滞在時間
	54,225 全体に対する割合: 100.00% (54,225)	42,830 全体に対する割合: 100.00% (42,830)	00:01:10 ビューの平均: 00:01:10 (0.00%)
1. 学年だより(2年).html	2,574(4.75%)	1,635(3.82%)	00:00:54
2. 広報(第92号).PDF	1,953(3.60%)	1,209(2.82%)	00:00:17
3. 広報(第90号)01.html	1,440(2.66%)	720(1.68%)	00:00:09
4. 運営委員会だより第178号	1,331(2.45%)	722(1.69%)	00:00:21
5. 選管からのお知らせ.html	819(1.51%)	724(1.69%)	00:04:11
6. スイーツ すぎなみ学倶楽部	814(1.50%)	508(1.19%)	00:00:21

解析例:
2年生の学年だよりは、2574回見られ、1回あたり54秒読まれていることが分かる。

	アナログ印刷物配布	デジタルデータ配信
印刷	× 現物の配布作業が必要	○ 印刷しない選択肢あり 古紙減量
配布	× 紛失 ○ 直感的に読める △ 外部漏洩	○ 情報到達度の優位 ○ 人を介さない衛生性 ○ 原則紛失がない ○ 時短 △ 外部漏洩

手書きや切り貼りで作った
パーツをスキャンやスマホで
複写して誌面に取りこんでみ
るのも味わいがある人気。



●時短・省紙・解析

すでに多くの学校で取り組んでいるデジタル化ですが、紙との併用で足踏み状態が続いています。
難しい一面もありますが、大胆に判断し可能な限り挑戦してみましょう。

デジタル化へのステップ

印刷物無配の実証実験やアンケートを実施し順次反映するなど、状況に応じたステップを考えて行きましょう。
誌面やデータの保管についても今後に備え規約で確認しましょう。



公共提供
CMS

杉並区が無償提供する「すぎなみ地域コム」ポータルサイトで発信可能。CMSの利用も申請可能

民間サービス

WIX: イベントの出欠集計から出席者名簿まで対応
Googleフォーム等無償サービスあり

メール
マガジン

無償配信サービス、プロバイダー、メールサーバーなどに無料・低価格の配信サービスあり

オンラインディスカッション①

「今こんなことに困っています！」

「当校PTAの魅力はこれ！」

- ・発言は一人ずつ
 - ・全員の発言機会の均等化に配慮
 - ・気になる発言、役立つ発言はメモをとろう
 - ・慣れている方は「画面共有」「チャット」なども活用
- 終了後いくつかのグループに発表をお願いします。
1分程度で、みなさんに知らせたい役立ちなど発表し共有ください。

オンラインディスカッション②

「次号で挑戦したいこと」

「広報活動で改善したいこと」

- ・発言は一人ずつ
 - ・全員の発言機会の均等化に配慮
 - ・気になる発言、役立つ発言はメモをとろう
 - ・慣れている方は「画面共有」「チャット」なども活用
- 終了後いくつかのグループに発表をお願いします。
1分程度で、みなさんに知らせたい役立ちなど発表し共有ください。

アンネのバラが高井戸中に来た1970年代、杉並区で使われていた中学2年の国語教科書(三省堂)には『アンネの日記』が掲載されていた。1972(昭和47)年、区立泉南中学校に勤務していた小林桂三郎先生は、授業の中で生徒たちに、アンネ・フランクに寄せる手紙を書くように呼びかける。ベトナム戦争が激しい攻防を繰り広げていた時代、生徒たちは自分と同世代のアンネの書いた日記に衝撃を受け、戦争や人種差別について深く考える。

引用元:すぎなみ学倶楽部【証言集】アンネのバラ 咲かせ続ける平和の願い



・写真の切り抜き
・文字のまわりこみ
・ゆったりとした行間

同じ文章量なのに、スペースはすこし違います。同じ文章量なのに、スペースはすこし違います。

同じ文章量なのに、スペースはすこし違います。同じ文章量なのに、スペースはすこし違います。

▼このポイントで調整

同じ文章
ーはか

・角丸の大きさを小さくする
・通常文章は左合わせ

見出し向きのフォント:ゴシックや太めの明朝
本文に適したフォント:細めのゴシックや明朝体が用いられます。アンネのバラが高井戸中に来た1970年代、杉並区で使われていた中学2年の国語教科書(三省堂)には『アンネの日記』が掲載されて

・文字種にメリハリ
・3~4種のフォント種・サイズを設定

○ アイデア
ある程度の情報を収集し、一般的なセオリーに準じたアイデアを提案することが多い。

△ 要約・語彙
自分とは違う視点からの言い換え、語彙を利用したよい文章ができる時もあります。誤字脱字等の文字校正是省略できる。

× 情報の収集
出典にオフィシャルサイトを選ばないこともある。真偽混在するため、かえって精査に時間を要する。添削・校閲が必須。

例: 杉並区立〇〇中学校の魅力は?

杉並区立〇〇中学校は、杉並区〇〇にある公立中学校です。同校は、生徒たちが自分自身を大切にし、自己表現力を高め、社会に貢献できる人間として育成することを目指しています。同校の特色としては、音楽科があり、吹奏楽部や合唱部などが活躍しています。また、同校の教育方針としては、「生徒一人ひとりの個性を尊重し、自己表現力を高める教育」、「地域社会との交流を大切にする教育」、「国際的な視野を持つ教育」などが挙げられています。
※区公式サイトのほか、民間サイトから引用していた。

例: 〇〇中学校のキャッチコピーを10個考えて。

1. あなたの未来を、〇〇中学校がサポートします。
2. 〇〇中学校で、自分らしく輝きましょう。
3. 〇〇中学校で、夢を現実。
4. 〇〇中学校で、自分を超越。
5. 〇〇中学校で、新しい自分に出会える。
6. 〇〇中学校で、自由に学びましょう。
7. 〇〇中学校で、地域とつながろう。
8. 〇〇中学校で、世界を見渡そう。
9. 〇〇中学校で、音楽の魅力に触れよう。
10. 〇〇中学校で、友達と一緒に成長しよう。



Zの法則

人間の視線は 左右→上下 に動くのが一般的とされる 重要事項の掲載の参考に



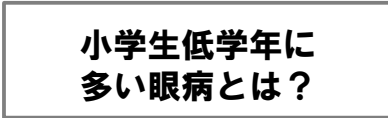
赤の法則

人間の視線は赤を第一にキャッチする、ことが多い 色に対する意識感覚は地域によって異なる傾向がある



視線・肖像の法則

同じ状況にある印刷物なら肖像(目線)のあるものを受信者は第一にキャッチすることが多い



ダグマーの法則

興味を感じるかどうか、人間は一瞬に判断するという説

多言語化 見出しに使える英文

杉並区民(569,703人)の約37人に一人が外国人

要返信 MANDATORY REPLY	要提出 SUBMISSION
締切日 DEADLINE	報告 REPORT

過去に人気のあった企画記事

- あの著名人はわが校OB・インタビュー掲載
- 広報員しか撮れない体育祭ベストショット集
- 合唱コンの舞台裏で起きていた感動・・・
- 先生だけが知る授業の熱いはなし



広報部員の個性を反映することで
親しみを感じてもらおう！

情報を濃縮し
読者に充実した読後感を！

会員のニーズ、読後感を認識・
解析してPDCAに役立てよう！

会員の充実感は、広報部員みなさんの充実感に繋がります！
新しい広報活動に挑戦しよいものを後輩に伝えましょう！

お疲れさまでした！

**何かひとつ自分たちならではの
個性やスキルを活かした情報発信に取り組んでみましょう！**